

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

歴史の中のストリートとトランスローカリティ：
歴史と記憶を生きる眼差しから見る現代の場所性：
歴史の中のストリート概念の変遷：
近代を相対化する深い場所（垂直性）：
変容する社会的アリーナとしての中世ヨーロッパの
ストリート

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ハラルド, クラインシュミット メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001206

変容する社会的アリーナとしての 中世ヨーロッパのストリート

ハラルド・クラインシュミット
筑波大学人文社会科学研究所

本論文ではストリートを変化する社会的アリーナと位置づけ、中世から近代初期のヨーロッパにおけるストリートに対する認識の変化、すなわちコミュニケーション・輸送・交易の場としてのストリートから社会的な安全性の規範が緩んだ場所としてのストリートへの変貌の道筋を検証する。中世から15世紀にかけて、ヨーロッパ諸都市の安全と秩序はそれ以後のどの時代よりもおそらくよく保たれていたと思われるが、実際に時代による差がどの程度あったかを検証することは難しい。それに比べれば、支配者や政府が都市の安全確保にどの程度成功していたか、あるいは失敗していたかに対する社会認識の変化を見極めることはかなり容易である。都市城壁の内と外での安全レベルに対する認識の差が縮まっていった15世紀以降、都市は次第に外界に対して門戸を開くようになり、それにつれて、都市内の一部の地区は、物乞い、放浪者、軽犯罪者などを含めた様々な人々がうろつく悪所であると見なされるようになった。また、都市が成長すればするほど、当局が都市住民の戸籍を管理したり、行動を監視したりすることは難しくなり、法を施行し秩序を維持することも困難になっていく。結果として、当時優勢であった契約主義理論にもとづく正当的政権による安全維持を要求する声があがる一方で、支配者や政府の安全維持能力が低下していると人々が感じるようになり、その差が次第に拡大していったのである。

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1 序論——ローマ帝国および帝国支配下
にあったヨーロッパの街路と道路 | 4 管理された場所としての街路と道路の
イメージ |
| 2 中世都市の街路 | 5 都市の無秩序化——近代初期のヨーロ
ッパにおける大都市の誕生 |
| 3 中世の風景における道路 | |

キーワード：コミュニケーション，契約主義，政府の正当性，秩序，安全

1 序論

——ローマ帝国および帝国支配下にあったヨーロッパの街路と道路

現代社会では、道〔ways〕、街路〔streets〕、道路〔roads〕その他のコミュニケーション・輸送・交易の場が、社会的な安全性の規範が緩んだ場所として現われているように思われる。本論文では、ヨーロッパにおいて、このようなイメージが近代特有のものであることを述べる。この主張を裏づけるために、中世の終わりから近代の初めにかけてのヨーロッパで、秩序と統制のとれた街路や道路が、コミュニケーション・交易・輸送のための、あまり統制されていない場になっていった経緯を追う。ここでは言語学的考古

学的観点から、街路や道路とそれらに対する認識の変化を考察し、さらには街路や道路での行動を取り締まる規則の変化、公的空間と私的空間の区別、無法者やホームレスといった概念がどのように発展したかについて主に焦点をあてる。認識と規範の源泉という文脈の中に街路と道路を位置づけ、それらを変化する社会的アリーナとして考察する。私はアリーナという語を使うことによって、集団においてパターン化される振る舞いを形作り、強制さえする空間についての集合的認識を読み解こうと考えている。社会的アリーナを認識のカテゴリーと見なすのは、私がそれを文化—内的に変容しうるものだと考えているからである。私はその変遷について記述し、そして（可能な限り）説明を加えていく。そのために、言語学と歴史学の手法に考古学や地理学の手法を組み合わせ、認識のカテゴリーとしての、そして実態としての街路や道路について、包括的な視座を獲得したいと考えている。

まず言葉の定義から始めよう¹⁾。世界の多くの地域で、コミュニケーション・交易・輸送のための場を言い表すのに、直接的な意味と比喩的な意味の両方を持つ普通名詞が使われている。日本語の「道」（みち・どう）、中国語の「道」（ダオ）、近代英語の way, path, road, track, 近代高地ドイツ語の Weg, Pfad, デンマーク語の vej, イタリア語とスペイン語の via には、いずれも直接的な道路 [road] の意味、すなわちある場所と別の場所とをつなぐものという意味があるが、これらの言葉には、同時に比喩的な意味も含まれている。つまり、行動や思考の様式や、宗教的な方向性を示す言葉としても使われているのである。

しかしながら、コミュニケーション・交易・輸送のための場を示す全ての言葉がこのような二重の意味を持っているわけではない。近代英語の street, 近代高地ドイツ語の Straße, 近代オランダ語の straat, 近代デンマーク語の stræde, 近代アイスランド語の stræti, 近代ノルウェー語の stræte などは、都市内部の結び付きを表わすことが多い。近代英語の street やその他のゲルマン系の言語、さらに中世アイルランド語の strait は、いずれも古代ラテン語の strāta を語源としている。strāta はもともと形容詞で、名詞 via の修飾語として使われており、「舗装されたまっすぐの道路」²⁾を指す言葉であった。したがって street はもともと古代ローマの道路、その土木技術で世界に知られているローマのまっすぐな街道を意味する言葉であった。近代英語では、ロンドンとチェスターを結ぶローマ街道 Watling Street の名称が、古代の用法を残している。しかし日常的な口語英語では、street を都市内の主要な交通の場という意味で使っており、道幅や商業上の重要性に関して言えば、narrow [山間の細道] や lane [小道] や mew [袋小路] と、高度な建造物である高速道路のような avenue や boulevard [大通り] との中間に位置するものとして性格づけている。一方で、古代高地ドイツ語では strāza が英語の road と同義の reit に代わって使われるようになり、それ以来、居住地内あるいは居住地と居住地をつなぐ Gasse つまり lane [小道] よりも広い道、すなわちコミュニケーション・交易・輸

送のための場の全てを意味する語として使われるようになった。

およそ1,500年の間に、英語の *street* とそのさまざまな古形とその他のゲルマン系諸語の *street* に相当する言葉の意味は、特定の場を指す専門的用法から、様々なコミュニケーション・交易・輸送のための場を示す一般的用法まで、広がりを持つにいたった。しかしどの用法においても直接的な意味を示すに止まり、決して比喩的な意味へと広がってはいない。*street* の古形は、もともと古代ローマ帝国の領域内でのみ使用されていたが、中世になってようやく他のヨーロッパの地域に広がった。したがって、コミュニケーション・交易・輸送の場を示すこうした用語体系は、それぞれの文化や時代に非常に特有のものと言えるのである。

歴史学および考古学の観点から考察すると、さらにこれらの場に対する認識の変化が明らかとなる。現在のヨーロッパで区別されている *street* と *road* の概念的な違いは、歴史的に見て自明であるとは決して言えない。近代英語においても、*street* と *road* は対比的に使用されることもあるが、両者が同じ意味合いで使われる場面も多い。たとえば、古代ローマに起源を持つコミュニケーション・交易・輸送のための場は、通常 *Roman road* と呼ばれる。*road* がゲルマン起源の普通名詞であり、他に適切なラテン系の言葉があるにもかかわらず *road* が使われているのだ。このような奇異な組み合わせが使われている理由は、古代ローマ時代にすでにそのような場が設けられる位置が2種類あったからである。1つは都市の城郭内の建物を結ぶところ、もう1つは都市居住地どうしを結ぶところである。当時は両者ともに、舗装されていてまっすぐならば *viae stratae* と呼ばれていた。用語の違いを明確に説明する記録はないが、現存する資料によると、両者は異なる管理体制を反映していたらしい。ブリタニアのような古代ローマ帝国の辺境地域にある城郭は、通常、軍の駐屯地 (*castra*) になっており、そこにはプロの軍人と文民の行政官が居住していた。彼らの居住地は単純なレイアウトで、通常は城壁に囲まれた長方形をしており、交通のための2つの場つまり道が中心部で交差していた。交差点のある中心部にはある程度の広さを持つ四角い広場があり、主要な建物が建てられていた。軍事目的に使えるように、道幅は比較的広く、舗装もされていた。

対照的に、2番目のタイプの *via strata* は、駐屯地同士、および駐屯地と帝国の国境の城壁を結び、交易や軍隊の移動を容易にし、それによって帝国の支配を広大な田園地帯にまで張り巡らせていた。ローマ時代のブリタニアでは、道路システムは属州行政の中心地であるロンドンを中心に発達していた³⁾。ロンドンと英仏海峡沿いにある複数の砦を結ぶ道路やロンドンと北部や西部の *castra* を結ぶ道路などがあり、ブリタニアは大陸にある他の辺境属州や、必要とあれば帝国の首都ローマともつながっていた。こうして、ブリタニアは帝国の主要な商業圏に組み入れられ、国境の城壁の向こうにある地域ともつながっていたのである⁴⁾。このように道路は、商業上あるいは行政上、帝国を統一するための前提条件であったが、逆の言い方をすれば、包括的な行政や軍の命令系統がな

ければ、道路システムの建設や維持管理はおぼつかなかった。なお、こうした相互依存の関係は、両者にプラスにもマイナスにも作用した。プラス面は、道路の運営によって資源を短期間にしかも容易に運搬することが可能になり、短期的な政治・経済の危機を乗り越えやすかったことである。マイナス面としては、いったん民間や軍の統治者に道路システムを維持・管理する能力がないことが分かると、構造的な危機がすぐに知れわたり、それが長期にわたって増幅されたことが挙げられる。

考古学の調査によって、5世紀の間にいくつかの長距離道路が使用されなくなり、崩れていったことが分かっている。中には道路を横断するように直線的な土塁が建設され、通行不能にされたものすらあった⁵⁾。生産活動は帝国各地に分散されるようになり、帝国規模の市場も物資の流通もなくなった。地方毎の行政や統治システムが各地に台頭し、互いに競いあいながらローマ帝国による支配に取って代わった。それでも、国境周辺地域では、少なくとも6世紀まで、場合によっては中世にいたるまで都市のインフラが維持されていた⁶⁾。そのため、各地域によって変更が加えられたとはいえ、おおむねローマの *castra* 特有の街路計画に沿って、都市居住地の商業や行政のためのインフラが建設されたのである⁷⁾。

5世紀には、大陸からの移民がブリテン島に以前にもまして激しく押し寄せるようになる。移民たちは可能な限りローマの交通網を利用して流入してきた。居住地の中には、ゲルマン系の言語とローマの言語の要素を複合した名前を持つものが現われた。その顕著な例は、*wīchām* である⁸⁾。この種の地名は「ローマ人の入植でできた農場」を意味し、ローマ街道に近い居住地をさすことが多かった。しかし、移民たちはローマの商業や行政のインフラにはほとんど関心を示さず、新たな地域の支配者として君臨した⁹⁾。

その結果、普通名詞であった *via strāta* が居住地内のコミュニケーション・交易・輸送のための場を示す語として残った一方で、長距離のそれを指す言葉としては、ブリテン島では使用されなくなった。それゆえ近代英語の *street* はラテン語由来の言葉としてもっとも古い部類に属していることになる。ローマの長距離道路のいくつかは継続して使用されたにもかかわらず、それらは5世紀に出現した新しい *trackway* [足で踏み固めた道] とほとんど区別がつかなくなっていた。

一方、ヨーロッパ大陸では、ローマの長距離道路がより長く使われ続けた地域があったため事情が異なる。例えばアルプス山脈を通り抜ける主な通り道は、ローマ（あるいはローマ以前）の基礎の上に13世紀あるいはそれ以降まで使用されている。しかし、古代ローマの道路はローマを中心に発達しており、それは当時新たに出現した交易ルートから外れていたために、他の地域では使用されなくなった。このようにして、ローマ帝国内の管理された道路システムと、大陸北部や東部のローマの支配が及ばなかった地域の道路との違いは、次第に目立たなくなっていく。そのため、まっすぐであるか、舗装されているかどうかにかかわらず、*street* とそれ以外との区別がなくなり、さまざま

まな交流の場が *street* という語で呼ばれるようになった。同時に、*via strāta* の派生語があらゆる種類のコミュニケーション・交易・輸送のための場を意味するようになったのである。典型的な例として、*Steinweg*（石造りの道）という言葉が中世のドイツ諸都市で生まれたが、これは長距離道路の舗装された部分のことで、城門につながる道を意味した。この時代を境に、ドイツ語で街路〔ストリート〕を指す言葉は、必ずしも舗装されたコミュニケーション・交易・輸送のための場を意味しなくなった。さらに、ライン川とその流域を除いては、アルプス山脈より北側の大陸にある河川が経済の中心地と結ばれることもなくなった。

このような地理的な特徴によって、ローマ帝国国境の内外を問わず、経済活動のための必要がある場所では新たな長距離道路を建設するか、あるいは既存の道路を維持する必要が生じた。アルプス山脈の北側でローマ帝国の勢いが衰えはじめると、代わって台頭した地方の組織にとって、*way*, *path*, *road*, *street* が、地理上、商業上、あるいは行政上重要なものと考えられるようになった。これらの場を意味する言葉として、さまざまな普通名詞の中でもラテン語の *strāta* が一般的となったが、近代英語の *street* およびそれに相当する他のヨーロッパの言葉を見る限り、それらは本来の意味の厳密性を残しているらしく、比喩的な意味合いを帯びていない。たとえば、「ロードマップ」というフレーズは比喩的な意味にも使えるが、「ストリートマップ」はコミュニケーション・交易・輸送のための場の地図という意味しかないのである。

行政の観点から見ると、長距離・短距離を問わず古代ローマの道路の顕著な特徴は、それが現在の用語でいう公共物であった点にある。古代には、道路の所有権は皇帝にあり、皇帝の政府が道路の建設と管理、さらにはその安全確保の責任を負うと考えられていた。したがってローマ帝国後期には、長距離の道路システムが唯一の支配者である皇帝の下に統一された広大な政治空間を結びつけていた。それとは対照的に、ローマ帝国の国境の外側では、行政権は小集団ごとに確立され、その政治空間の規模は小さく、影響力の及ぶ範囲も限られていた。これらの地域では、長距離のコミュニケーション・交易・輸送のための場〔すなわち道路〕によって個別の政治空間が相互に結ばれていた。言い換えれば、そうした場は境界横断的なものだったのであり、ローマ帝国による管理が辺境属州で機能していた時代においてもそうだったのである。こうした状況では、そのような長距離の場を中央で計画・維持することはできなかった。それらは *trackway*〔足で踏み固めた道〕と見なされ、中央による長期的な計画や施策に代わって地方ごとの短期的あるいは場当たりの管理を受けていた。これらの *trackway* のインフラ維持は、近隣に住み、その道を利用する人々の私的な仕事だと考えられた。同様に、道中の安全確保も個々の旅人の責任であるとされた。ただ顕著な例外として、ローマの商人にはローマ市民としての身分による特権が帝国の国境外でも認められ、安全が保障されていたようである¹⁰⁾。

西ヨーロッパでローマ帝国による支配が終わった5世紀以降のアルプス山脈の北側では、このような統治形態が標準的となっていた。5世紀の終わりに向けてフランク族の王がほとんどの地域を支配するようになったゴール地方においてさえ、長距離のローマ街道を維持・管理するのはそれぞれの土地の居住者や修道院であった。道路の安全は著しく損なわれ、旅人の安全は脅かされ、石造りの橋や主要道路などのインフラは荒れるままにされていた¹¹⁾。中には古代ローマ時代から中世の終わりまで、さらには現代までその姿をとどめている橋もあるにはあるが、多くの橋が崩れ落ちるか、残っていても危険で渡れない状態になった。橋に代わって、人々は浅瀬を渡ったり、渡し舟を利用したりするようになり、古い橋は邪魔なものとなされるようになった¹²⁾。ローマの城壁¹³⁾とともに、ローマの石橋の崩壊は、ローマ帝国による支配の終焉を象徴していたと言える。

居住地の周囲には広大な森林地帯が広がっていたので、政治空間の境界を超える旅は危険を伴うものであり、特に商人にとっては死の危険をも意味した。6世紀には、サモ〔Samo〕という名のフランク族の商人が今でいうボヘミア地方を、おそらくはフランク族の王の保護を得て交易目的で旅をしたという報告書があるが、これは大変珍しい例である。明らかにサモは奴隷貿易にかかわっており、交易をしていた地域のいくつかの集団を支配者として統治していたのであろう¹⁴⁾。この時代、都市でも地方でも居住地内ではある程度の法や秩序が守られていたが、居住地の外側に広がる森林地帯は危険な「見捨てられた土地〔desert〕」¹⁵⁾であり、旅人の安全は、危険で厄介なならず者たちの気まぐれに委ねられていた。都市内のコミュニケーション・交易・輸送のための場であるstreetが通常、安全な場所であったのに対して、居住地外や「見捨てられた土地」にあるroadやtrackwayは無法者や危険な獣の住処であると考えられていた。ホームレスの住処になるどころか、roadは「友人のいない人々」¹⁶⁾すなわち秩序ある居住地の外に住む人々の場所だったのである。

2 中世都市の街路

秩序ある場所としての街路〔street〕は中世のヨーロッパ都市¹⁷⁾で生まれた。中世の都市計画による規則正しい街路の配置が今なお確認できる場所は多くはないが、考古学的な調査¹⁸⁾や行政記録¹⁹⁾を精査することで、およそ4,000もの中世ヨーロッパ都市に、通常単純な幾何学的パターンの都市計画が施されていたことが判明している。中世の諸都市で古代ローマの都市の上に築かれたものは、通常長方形の形をしており、時にケルン²⁰⁾のように円形や半円形の都市もあった。ほとんどの都市に城壁があり、同様に石造りであった²¹⁾。都市の大多数は、生産者や商人を行政官や学者とともに住まわせるように設計されていた。11世紀から15世紀にかけては、自治政府の権限をもった都市も現

われ、近隣の領地の支配者から独立して自治が認められていた。多くの都市に人々が流入したことを考えると、都市は快適な空間であったのだろう。13世紀から14世紀には、都市領域が拡張していることから、都市人口が膨張したことが分かる。今日、段階的に拡大した都市の軌跡が、何重にも列をなす石の城壁から見とれるところもある。

過密になった居住地には、綿密な計画性と適切な統治が必要となる。実際、模範になるような都市もいくつかあり、その1つにシエナが挙げられる。14世紀の半ばに、シエナの政府は画家アンブロジオ・ロレンゼッティに市庁舎の大広間を飾る絵の制作を委託した²²⁾。都市の全景を描くようにとの要望をうけて、ロレンゼッティはいささか変わった形の作品を制作し、都市生活の光景を描いた。そこには、建造物が広場に面するように街路沿いに配置されているのが見てとれる²³⁾。人々は街路や広場に集まり、討論をしたり見世物を鑑賞したりしている。街路と広場は、その横にある家屋の室内とは異なる空間であり、建物への出入りは制限されたであろうが、街路や広場は誰でも立ち寄り利用できるという意味で開放された場所になっている。

このように都市では建築によって公的・私的空間が区別されていた。それは、古代ローマの様式に従ったものであるが、シエナのような中世末期の都市は、単に古代ローマの町を復元していたわけではない。古代ローマの町との違いは、シエナが自律的な自治政治組織体であり、戸籍に登録された市民をよりどころとして、自ら規則を制定し、明確な集団的アイデンティティを有していた点にある。ロレンゼッティの作品は、シエナが秩序ある政治組織体であり、模範的な統治が行なわれた都市であったことを示している²⁴⁾。

実際シエナはそうなるべくしてなった場所であった。この町では、市庁舎のある中央広場を町の中心とする壮大な都市設計がすでになされていた。すべての主要な街路が中央広場に向かい、白い石でできた縞模様の街路に沿って歩けば、市庁舎に行き着くようになっていた。シエナは斜面に広がる都市であったが、主要な街路は中央広場まで斜面を下るように配置されていた。こうした公共の場の所有権は、立法、行政、司法の三権をつかさどる最高機関である市議会にあった²⁵⁾。

ただし、法律的な基準が社会や政治に関する基準と重複していたため、都市内における公的および私的空間の区別は決して容易ではなかった。良い統治とは、都市内外の公的空間における法と秩序の維持と安全確保を意味するものであったが、同時に市議会は、登録された市民と訪問者に対して、公的空間と私的空間の両方で道徳的な行いをすよう、強制する権限を与えられていた。したがって、私的空間の所有者が、自分たちの所有する空間を完全に取り仕切ることができたわけではなかったし、一方、市議会の方も公的空間において一切の権限をもっているわけではなかった。例えば、生産者や商人はそれぞれの経済行為に関する厳しい制約に甘んじなければならず、自治的なギルドや組合も、当局による監視の下に置かれた。さらに、教会機関や近隣組織から厳しく監

視されるグループもあった。一方、市議会が公的空間を完全に取り仕切ることができなかったのは、街路や広場が公共のものなので、少なくとも日中は共同目的のための立ち入りを制限できなかったためである。夜間については都市の城門が閉められ、非住民は出て行くよう求められていた。

街路や広場を共同目的に利用できる権利の中には、政治的な問題を議論するために市民が集まり、市議会が行う意思決定への参加を要求する権利も含まれていた。したがって、市民は自ら主体となって宣言を行ったり、不満を述べたりするために集会を開くことも可能であった。そのような目的で集まった市民が暴動を起こすことも当然あり得た。市民に集会への参加の権利が認められ、道路や広場への立ち入りが無制限に認められていたという点で、街路や広場は公共空間であるのみならず、各自の住居の延長のような私的な空間であるとも考えられていた。

都市のレイアウトは、特にヨーロッパ南部の比較的人口密度の高い地域、すなわちゴールや今日のドイツ南部では、このような公私の空間の融合を許容していた。おそらく城壁内部の土地が手狭であったため、都市住民は私有地が街路や広場に面する境界線までびっしりと家を建てた。裏庭には井戸があり、時には菜園や果樹園、それに生ゴミを捨てる穴もあったかもしれないが、前庭はまずありえなかった。そのため、特に都市の中心部では、街路や広場のすぐ脇に、石造りか半木造の2階建て以上の建物が建ち並ぶことになった。その結果、狭い小道だけでなく、幅広の街路や広場までもが、交流活動のためのいわば開かれた内部空間の様相を呈した。都市住民にとって街路や広場は都市の中の公共空間であると同時に、社交のための私的な社会的アリーナとなっていたのである。

市議会が都市内部の街路や広場に対して広く管理権をもつようになった13世紀以降の状況はこのようなものだった。公共空間に対する規則は経済活動、たとえば製造業や商業に関する規則だけではなく、服装の規定から環境に関するものまでであった。これらの規則に関していくつか詳しく見てみよう。

まず倫理的な重要事項として、例えばさまざまな社会団体の会員身分の保証、職人ギルドや商人の商社のような契約に基づく集団への加入、都市や町などのコミュニティへの参加、それに耕作農民を領域内に登録して管理下に置くかどうかといった問題は、すべて神の意志に属する問題であると考えられた。したがって、これらの判断の基準となるような宣言法は必要とされず、ある人物の集団への加入を認めるかどうかは外見で判断された。たとえば、メゲンブルグのコンラッドは、社会的な地位だけではなく身体の各部分のサイズの合計までもが神の意志の表れと考えていた²⁶。身体の形同様に、服装も神の意志が支配する世界での個人の地位を表すものだと考えられた。そのため、服装の規則は厳格な贅沢禁止法にしたがって定められた。道徳上ふさわしい行動を外側から見ることで客観的に見極めることが可能だという信念から、人々の身体的特徴を細か

に調べることが求められ、糞溺禁止法やその他の服装規定は厳密に守らなければならないものだとされていた²⁷⁾。

環境面に関しては、都市の居住地からの悪臭が、中世とその後までも続く重大な普遍的問題であった。堀に囲まれたせまい居住地では、排泄物やその他の廃棄物を処理する適切な施設がなく、さらに都市内部に工房や作業所があり、市場が開かれるときには商人の出入りも激しかった。これらの要因による悪臭が、人口の密集した都市を覆ったのである。人糞や廃棄物は中庭や街路に捨てられた。このようなやり方は不法行為であった場合もあるが、もっとも簡単な処理法であった。住居の裏庭にある汚水溜めに捨てて埋めることもあったが、時にはその場所が井戸に近いこともあった。さらには近くの小川までパイプで流すこともあった。居住地の中に川が流れていれば、川の両岸には水を利用する職人の工房や職場が建ち並んだ。肉屋、皮なめし業者、染色業者、その他の職人が廃棄物を川に捨てるので、廃棄物が川を介して都市から都市へと流れ込むことになった。

文学作品の中には、このように汚染され悪臭が漂う環境への不安を述べたものもいくつかある。たとえば、ボッカチオのデカメロンは、黒死病が流行した当時の都市が如何にきたないかの描写から始まっている。作品のなかでボッカチオは、フィレンツェで生き残った人々を、少しでも臭気が少なく健康によい田舎に避難させ、都市に戻った暁には少しでも衛生状態を改善すると彼らに誓わせている²⁸⁾。

都市当局の中には悪臭が我慢の限界を超えており、精神病やその他の病気を引き起こすのではないかと考え、悪臭を抑えようとした者もいた²⁹⁾。あるロンドン市長は、都市の街路に捨てられたゴミを調査するように命令し、ドイツのハンザ同盟の商人がステイルヤードでテムズ川に廃棄物を捨てたとして罰金を課した³⁰⁾。1336年には、エドワード3世が、ペストの蔓延を防ぐためには、都市を清潔にして悪臭がたちこめないようにすべきであると警告している³¹⁾。あまり改善が見られないと分かると、1357年に王はロンドンの身の毛もよだつほどの汚さを嘆き、衛生状態が改善しないのであれば健康への危険があると住民に警告した。それでも改善しなかったので、1372年に、ロンドン市は他人の家のドアの前にゴミを放置した住民から4シリングの罰金をとるという法律を制定した。同時に、窓からゴミを投げ捨てた住民には、2シリングの罰金を課した。この法律は、1381年、1385年、1390年と繰り返し発せられている³²⁾。

大陸では、ケルン市議会が1353年に、悪臭公害を防ぐために夜間に街路上の廃棄物を処理するという法律を制定し³³⁾、1376年にはゲッティンゲン市議会が市内を流れる水路を清掃することで大気を浄化しようとしている³⁴⁾。後者は1398年には、街路上に2日以上ゴミを放置してはならないという政令も発している。15世紀になると、ニュールンベルグの市議会が同様の行動をとり、市内を流れる小川にゴミを捨てないように要請し、また、街路上のゴミは、八晩連続で放置してはいけないと定めた³⁵⁾。同じく15

世紀に、ハルツ山地北方の Goslar 市議会は、悪臭を防ぐために家屋の前庭に豚小屋を建てることを禁止した³⁶⁾。ただ、他の都市には寛大な支配者もいて、ビュルテンベルク伯爵などはドイツ南西部のシュトゥットガルトの住民に、通る人の迷惑にならず、怪我などの恐れがないという条件付ではあるが、ゴミを宮廷の中庭に捨てることを許可している³⁷⁾。

最後になったが重要なこととして、都市内の街路や広場は式典や祭りの重要な舞台であったことを指摘しておく。支配者は都市への入城の際に形式ばった儀式を執り行うように要望し、儀式を通して自らの権力と支配権を誇示しようとした。特に紛争後の入城においては、市民が降伏するという形での入城を支配者が希望することもあった。15世紀には、ブルゴーニュの支配者は都市から上納金をとるだけではなく、規則に従わない市民をむりやり服従させたことで悪名を馳せた。支配者は都市の暴動を抑えるために軍隊を出動させ、鎮圧に成功すれば勝利者として都市に凱旋した。このような場合、街路や広場が支配者の軍事力と政治力を誇示するための格好の場となったのである³⁸⁾。

たとえば、1540年に神聖ローマ帝国の皇帝カール5世が行った凱旋入城は劇的な効果をねらったものだった。生まれ故郷のアントワープで暴動が起きたという報告を受けたカール5世は、ネーデルラントで摂政をしていた姉妹のマリーを助けて暴動を鎮圧するため、すぐさまフランドル地方に向かった。暴動が起きたのは多額の税金に対する不満からで、非常に深刻な状況にあった。マリーがひどく不安がるので、カールは諸々の戦費をまかなうためにフランドルの諸都市から徴収した特別税に大きく依存せざるをえなかった。カールとフランス王フランソワ1世との間で1536年に戦いが勃発したときも、カールはアントワープの豊かな中産階級に寄付を依頼したが、アントワープ市民は寄付を拒んだ。マリーが1537年6月30日にネーデルラントにおける特別休戦協定をフランソワ1世との間に取り決めた後も、アントワープは抵抗を続け、戦費の一部を支払うようにとのマリーの命令を無視し続けた。マリーは将来の防備を固めるために寄付が必要だと言って嘆願したが、それでもアントワープ市民は以前からある特権を盾に支払おうとしなかった。問題の解決がなされないまま、市民の抵抗は続き、事態は悪くなる一方であった。市民は1515年にカールがブルゴーニュ公爵として発した法律を記した羊皮紙〔*calfevel*〕を切り裂いてみせ、抵抗を続けるというサインをドラマチックに演出した。そしてフランソワ1世との間に争いがなかった1539年に、暴動は近隣のフランドル地方一帯に飛び火した。

暴動を鎮圧したカールは、1540年2月14日に勝利の行列を整えてマリーや数人のローマ教皇庁使節〔*nuntio*〕、高官高僧や軍の代表団とともにアントワープに入城する。フィリップ善良公、シャルル豪胆公、マクシミリアン1世の時代にそうであったように、1540年のアントワープ入城は、領土の支配者が市民に対して強制力を持つことを誇示するためのものであった。カールは、自己の正当性を主張しようとしていたアントワープ市民に対して、自分の力を見せつけることに成功した。彼は市民の嘆願には耳を貸さず、複数の暴動の指導

者に死刑を宣告した。1540年4月29日、カールはゲントから全ての権利や特権を剥奪するという決定を発表する。市の公的財産は全て没収され、市民は公爵とその摂政に忠誠を誓わなければならなかった。この式典は1540年5月3日に行われ、その翌日、カールはゲントを彼の摂政による直接統治下におくという新しい憲法を施行した。カールの権力を長期にわたって見せつけるものとして要塞も造られた³⁹⁾。カールは、このゲントの入城が成功だったと考えた。ゲントは、マリーが摂政を続けている間、平穏を保っていたからである。しかし、マリーはネーデルランドの政治情勢が非常に危ういと感じ、ことあるごとにカールに対して、戦費の調達をするならどこか別の場所を探してほしいと頼んでいた。

フランドルの諸都市と近隣の領土を14世紀以降支配している統治者の間には、長年にわたる対立や紛争の歴史があるが、〔神聖ローマ帝国の〕皇帝と帝国内の諸都市の関係はどちらかといえば穏やかであった。たとえば、皇帝と帝国都市ニュールンベルグの間は友好的であり、カールは祖父に習って1520年にニュールンベルグに以前からの特権を認めている⁴⁰⁾。後に帝国の後継者となる弟のフェルディナントは1521年と1540年の2度にわたりニュールンベルグを訪れており、1541年には、市民がカールを凱旋將軍として迎え入れている⁴¹⁾。ニュールンベルグが神聖ローマ皇帝の都市として重要だったのは、そこに帝国の紋章〔insignia〕があっただけではなく、豊かな商人や治外法権が認められていた職人ギルドの家父長からなる上流市民に大きな権力を与える憲法があったからである。帝国に仕えた法律家でビッテンベルクの法学教授、ニュールンベルグ市議会の法律顧問でもあったクリストフ・ショイエル・フォン・デファースドルフは、1516年に、ニュールンベルグ憲法が安定した良き統治のモデルであると語っている⁴²⁾。実際ニュールンベルグは、「ルター派の異端説」が1530年代にこの地に根付いたあとも皇帝に忠節を尽くした。ゲントの反乱の後で、カールはニュールンベルグ憲法をモデルとして他の帝国都市に広めるように忠告をうけている。ニュールンベルグとは異なり、帝国の多くの都市がゲントの憲法に近い憲法を保持しており、それらは職人ギルドを受け入れ、何らかの方法で市民の全集団が都市政府に参画することを保証していた。ニュールンベルグ憲法は、これらの規範に対抗するモデルとして、過激な反乱を防止する役割が期待されていたのである⁴³⁾。

当時、多くの帝国都市が複雑な政治状況下にあった。「ルター派の異端説」がアルザス、シュヴァーベン、フランコニアの諸都市に急速に広まり、カールもフェルディナントも何度か不穏な状況に対峙しなければならなかった。シュマルカルデン同盟の設立もその1つである。13世紀以降、都市間の連合や同盟、あるいは都市と領土支配者との間の連合や同盟、たとえばハンザ同盟や、その他の短命な同盟がライン川流域、シュヴァーベン、イタリア北部の諸都市間で結ばれたが、このような方策は都市が採りうる外交・政治戦略の中で最も重要な戦略であった。カールが皇帝として在位した期間の初

めのころは、帝国の指導の下に1488年に結ばれたシュヴァーベン連合が帝国内で最も重要な同盟であった。しかしシュヴァーベン連合のメンバーであった帝国の諸都市にルター派が根付くと、ルター派のシュマルカルデン同盟からシュヴァーベン連合は大きな影響を蒙るようになる。1533年には、アウスブルグ、ニュールンベルグ、ウルムの諸都市が軍事同盟を結んでいる。同盟に参加した都市の市議会も、参加しなかったシュヴァーベン連合の諸都市も同様に、3都市の同盟はシュヴァーベン連合がもはや安全を十分に保障しないと考えることだということを理解していた。したがって1533年のこの同盟は、連合が破綻していく前兆だったのである。これは、連合の協定の期限が翌年に切れることになっていたことから、十分に予想された。実際、連合のメンバー都市の定例会合が開かれた翌1534年、連合の協定は更新されなかった。1536年、カールの副宰相であったマティアス・ヘルド博士〔Dr Matthias Held〕は皇帝の命を受けて帝国内を巡り、シュマルカルデン同盟に対抗するためにシュヴァーベン連合の後継となる同盟を設立しようとしたが、彼の計画は支持を得られず、挫折している⁴⁴⁾。結局、多くの帝国都市がルター派に改宗し、シュマルカルデン同盟に加盟したのだった。

こうして、カールは単にカトリック教会と帝国の統一のための足場を失ったのみならず、ドイツ南部にある帝国の諸都市の金融業者が支配していた信用市場へのアクセスを脅かされることになった。しかも、少なくともしばらくの間は、ゲントで行ったような〔軍事的な〕手段を用いて問題を解決することはできなかった。当時、カールには軍隊もなく、また、ネーデルランドの諸都市に対して有していたような都市への合法的侵入権を帝国の都市に対しては有していなかったのである。そのためカールにできたことは、カトリックとルター派の間の神学論争に融和的なアプローチで決着をつけることくらいだった。1530年代以降、カールがこのような融和手段に出たのは、自らの意志を帝国の諸都市に徹底させる能力を欠いていたせいもあった。もし帝国の諸都市が、ゲント市民がフランドルの宮廷にしたように皇帝に反旗を翻していたら、帝国は深刻な危機に陥っていたかもしれない。

しかし、帝国の諸都市はカールの融和策に好意的に応じ、カールが1530年代に帝国を巡っていたときには、皇帝はどこでも暖かく迎えられた。たとえば、ポーニャでの戴冠式の後で訪れたアウグスブルグでは、市が自発的に凱旋入城式典を催している⁴⁵⁾。1538年の段階でも、ウルムの市議会はストラスブルグの市議会と共に、ミラノで続いている戦いでフランス王を支持しないという誓約をしていた。両市議会は、フランソワ1世との同盟は問題外であるという点で一致していた。フランス王はスルタンと同盟を結んでいたし、それ以前に何度も条約を破る前科があったからである。両市議会は、帝国臣民がフランス軍に入隊することを禁止するため繰り返し発せられていたカールの命令を実施する準備も出来ていた⁴⁶⁾。1543年に至ってもなお、カールのウルム訪問に際して、市民は皇帝への忠誠を誓い、帝国の統一が促進されることへの支持を表明してい

た⁴⁷⁾。

しかし、カールを支持する流れは、カールが和平方針を改め、ルター派と敵対することを決めたとたんに抵抗へと変わった。1546年にカールがドナウ川流域での作戦を始めると、諸都市は皇帝軍の圧力を感じはじめる。シュマルカルデン同盟に加盟している多くの中小都市、たとえばギーンゲン、ネルトリンゲン、アレン、ポプフィンゲン、ディンケルスヴェール、ローテンブルク・オブ・デア・タウバー、シュヴェービッシュ・ハル、ハイムブルクなどは、皇帝軍に盾突くのは不利と見て皇帝側に寝返った⁴⁸⁾。ウルムでさえも、皇帝軍がウルムの領土に侵入するのではないかと恐れからシュマルカルデン同盟を脱退することを考えた。1546年12月の終わりに、ウルム市議会は再度、ストラズブルグ市議会に書簡をおくり、皇帝に対して共同歩調をとるように促したが、この試みは失敗した。ストラズブルグは皇帝支持には回らなかったが、ウルムは1546年12月28日付けで皇帝への忠誠を誓った⁴⁹⁾。アウグスブルグも同様に立場を変え、1547年にカールの軍に所属した⁵⁰⁾。

しかし、カールはシュマルカルデン同盟への加盟そのものを反乱行為とみなし、厳しい処置をとった。ミュールベルクで勝利すると、自らの力を頼んでアウグスブルグやウルムの内政にも干渉をはじめ、皇帝の力を誇示し、帝国諸都市がカールに対決姿勢をとることは許さないという決意を示した。ゲントのときほど決定的に激しいものではなかったが、同様の怒りを市民たちに示したのである。そのためアウグスブルグの市民は、皇帝が1548年に帝国議会開催のため同市を訪れた際には、彼をひれ伏して迎えなければならなかった。議会は仮信条協定〔Interim〕を承認したが、それは神学理論に対する暫定的な法的枠組みとして市民に伝えられた。仮信条協定は、ルター派とカトリックの共存を当面の間認めていたが、市議会に対してはツウィングリ神学の信奉者を取り締まるように命じていた。それは、実際にはツウィングリ派の牧師を都市から追放することを意味し、アウグスブルグ市議会は実際に追放したのであった。

1548年8月3日、カールはさらに締め付けを強める。すなわち、アウグスブルグ市の憲法を廃止し、市議会の議員を追放し、ギルドを解散し、穏健派らしい市民を新たに議員に任命し、ニュールンベルグのモデルにしたがった新しい憲法を施行したのである⁵¹⁾。その後カールはウルムに急行し、同様の行動を起こした。市民は再びカールの前にひれ伏し、忠誠を誓わなければならなかった。1548年8月15日から16日にかけて、カールはウルムの憲法を廃止し、ギルドを解散し、ニュールンベルグに倣った新しい憲法を施行した。2日後には、議会のメンバーをより従順そうな人々に入れ替えた。彼はウルムではアウグスブルグ以上に厳しい姿勢でのぞみ、ルター派の牧師たちを仮信条協定に違反したという理由で8月20日に逮捕した⁵²⁾。

ウルムを出発したカールは、ネーデルランドに向かった。しかし、皇帝が去った後のウルムではカールが行った荒療治に対してやり戻しが起きた。早くもその翌年には、以

前の権力者の多くが返り咲き、ギルドも再興し、古い憲法が再び施行された。ウルム憲法の歴史は1396年に発効された憲章にまでさかのぼる。その憲章には、市長および上流市民と、平民たちとが互いに忠誠を誓い、安全を守り法律を尊重するとの約束が記されていた。ウルムの年代記編者であるフィッシャーは、この憲章は市内の平和を維持するものであるとして以下のように賞賛している。「ウルムほど戦争が少なく、平和裏に統治されている都市は、どの年代記を見ても見当たらない。必要不可欠な場合以外、ウルム市民は戦争に参じたことがない」⁵³⁾。フィッシャーはそう述べた後で、シュマルカルデン同盟との戦争による荒廃を嘆き、ウルム市議会が同盟に加盟したことを非難している。続いて市の不服従に対する合法的対応としてカールが干渉してきたことに言及し、不服従は市議会の責任であるとして非難している。しかし同時に彼は、旧憲法を修正する必要はないとも主張している。実際、憲章は公的儀式の礎として復活し、市政府に所属している全ての人々が、年に1度互いに忠誠を誓い合う儀式が行われることになった。ただし、その年に1度の日、憲章が指定している日とは異なっていた⁵⁴⁾。この儀式はやがて年に1度の祭りとなり、今日なお開催され続けている。

アウグスブルグでは、カールの改革は比較的好意的に受け入れられた。アウグスブルグは、商工業の中心地であるだけでなく司教座のある都市であった。アウグスブルグの豊かな商人からなる上流市民やカトリックの聖職者は、旧市議会が利己的で対応が不適切であったと非難した。商人の代表で構成された新議会は、95,000ギルダの補償金をカトリック教会に支払い、司教、司教座参事会、修道院、カトリック聖職者の安全を保障した。抑圧されたギルドが1552年に短期間反乱を起こした以外は、この新たな体制は安定しており、カトリックとルター派が平和に共存していた。

凱旋入城を行うのは必ずしも戦いに敗れたときとは限らない。新たな支配者が都市への支配を継続する意志を表明するために、都市に入城することもあった。たとえば神聖ローマ帝国の皇帝カール5世は、ルター派の砦になっていた帝国の諸都市のみに干渉したわけではなく、引き続きカトリックを信奉する都市への影響力の強化もねらっていた。ケルンの場合を考察してみよう。ネーデルランドに向かう途中の1548年、カールはケルンを訪れ、放置すると深刻になりそうな諸問題の解決を図った。ケルンでは、自治組織の建物が教会選帝侯領の大司教の行政中央施設に隣接しており、都市と大司教が敵対的になることも多かった。1548年6月には、新たに任命されたシャムバーグの大司教アドルフ3世によって論争の火蓋が切って落とされた。この新任の大司教は、市民が彼を歓迎する証として、都市への正式な入城式典を求めたのである。市議会はこの要請を検討した結果、大司教が入城式典を利用して市民に対する支配を表明しようとしているのではないかと考えた。ケルン市民は皇帝以外の誰にも従属しないことから、市議会は大司教の要請を断る決断をした。市議会は過去の記録を調べ上げ、キリスト教のケルン伝来以来の歴代の大司教64人のうち、入城式典を行ったのは4人のみだったと主

張した。しかもこれら4人の大司教は特に問題があった人物で、ケルンとの関係も悪かったことが資料から判明した。こうして市議会は、入城式典が行われなくても大司教には全ての法的な権利が認められること、都市との友好的な関係を維持したいのであれば、大司教は要請を取り下げるべきだとの結論に達した⁵⁵⁾。

しかし、大司教は簡単には折れなかった。仮信条協定の熱心な支持者であったアドルフ3世は、1548年にアウグスブルグの帝国議会に出席して司教祝聖を受けていた。カトリック神学理論の本質に変更を加えようとはしなかったが、教会改革を求めるカールの要請を受け入れていたのである。入城の式典に強硬に反対しているケルン市民を説得するために、大司教は皇帝の力を借りようとした。カールは大司教を支援することにやぶさかではなく、市議会に対して大司教の入城式典を執り行うように求める一方で、ケルンの諸権利や特権を今後も認めることを約束した⁵⁶⁾。しかし、カールの期待に反して市議会は反対の姿勢をくずさず、皇帝の意志を無視した。カールは、自らケルンを訪問する際にこの問題の決着をつけようとした。訪問は1548年9月7日であったが、皇帝はケルンでまったく歓迎されず、その不人気ぶりは正式な入城式の中でも、見物人が抗議を叫び、牢屋に入れられる事態が起きたほどであった⁵⁷⁾。入城したカールは市議会と話し合い、市議会はこの問題を再度検討し、最終的な結論を皇帝に報告することに同意した。

1548年9月17日、カールはブリュッセルに向けてケルンを出立した。ケルンでは、皇帝の提案についての論議が長期間続けられた。翌年の春、市議会はブリュッセルに使節を派遣して皇帝側と交渉させた。カールは大司教に正式な入城式典を認めるべきだとの意見を変えず、1549年10月4日という日付まで指定した。ナッソーのオレンジ公ウイリアム伯爵とノイエナールのウイリアム伯爵の2人が仲介者に選ばれ、使節は彼らによる2つの提案を携えてケルンに戻り、1549年4月6日の市議会に報告した。市議会は提案を受け入れ、使節をブリュッセルに送り返した。その結果、ようやく入城式典が予定された日に行われることになったのである⁵⁸⁾。

ケルンでのこの出来事は、現実的な行政問題に関して都市に対する皇帝の力が限定的なものであったことを示している。宗派的な友好関係の如何にかかわらず、皇帝が都市を動かすには長期にわたる交渉が必要だったのである。たしかに理論上は、帝国の都市を治める権限は皇帝にあり、カールはそのことを額面どおりに受けとっていたが、現実とは異なっていた。皇帝は、自身が都市に赴いている間、あるいは軍隊という脅しがある場合のみ都市を支配することができたのであり、巡回する支配者である皇帝が都市に長期的な支配を加えるためには、土地の権力者との合意が必要だった。帝国の法律を地元の権力者の意向に反して強制したり、市民の抵抗を抑えて皇帝の意を通したりするには、費用や労力がかかった。市議会や上流市民や一般庶民は、皇帝が軍を率いて現われると、その威光を恐れ、命令を聞きいれ、忠誠を誓い、ひれ伏しさえしたが、

それは一時のことで、しかもそうすることで皇帝に対する恨みを増幅していたのだ。したがって一旦皇帝が姿を消すと、皇帝の命令は無視された。その場限りの権威を見せつけることで、カールは逆に臣民たちから孤立することになったのである。

1540年代も終わりになると、市民の間に帝国に対する嫌悪感が増し、市民は帝国への経済的な支援をやめることを真剣に考えるようになる。当時の状況では、政治的な嫌悪感からだけではなく、経済的な理由からもそう考える市民が増えていた。金融業者は皇帝の利子の支払いと借金返済能力に疑問を持ち始めていた。帝国の金庫からの現金流入量が減ったことで、金融業者の資金も不足しがちであった。フッガー家のような資産家が皇帝に資金提供を続けたのは、そうしないとそれまでの投資が戻らなくなるのをおそれてのことにすぎない。1548年の末にカールは、相変わらず軍事力を誇示し、帝国の領地内で自分の意志を通そうとしていた。しかしそうすることでカトリックカルター派にかかわらず領民の心はますます帝国から離反していった。カールが都市を攻撃したのは、特に都市のエリートが反旗を翻すのを止め、忠誠を求めためだったのである。

入城式典はもっと手の込んだ統治のための公的演出、たとえば支配者の会合や帝国議会をはじめとする議員集会と一体となって行われることも多かった。皇帝カール5世は、1530年2月にボローニャで盛大な戴冠式を挙行している。軍事行動だけでなく、このような式典が皇帝の権威を誇示するための重要な手段であった。この意味で神聖ローマ帝国の戴冠式はカールにとって最高に重要な儀式だった。王冠を戴くことは、皇帝の権威を高めるだけでなく、最高の名誉を手にするを意味した。しかしながら、帝国の戴冠式はイタリア以外では行いにくく、にもかかわらずカールが到着した1529年当時のイタリア半島は複雑な情勢にあった。遠征に憤慨したフェルディナントは、できるだけ早期にドイツ語圏に戻るようカールを促した。カールはフェルディナントの進言を聞き入れ、1530年1月21日に帝国議会の議員に対して同年の6月にアウグスブルグに集合するようにと招待状を発している。議会が開会する日までに、カールはアウズブルグに行かなければならなかったが、権力配分に関する争いから皇帝はしばらくイタリア半島に留まらざるを得なかった。

1525年のバヴィアの戦いの後、カールはミラノ公国問題に深入りしていた。宰相ガッティナーラは、イタリアの自治都市は地元の間人が治めるべきであると考えており、カールがミラノを領有してしまうと反ハプスブルグ感情が芽生えるのではないかと心配した。そのため、1521年以来ミラノを治めていたスフォルツァ家のフランソワ2世を復位させるようにカールに進言した。最終的には、カールは宰相の進言をとりいれ、1529年にフランソワ2世をミラノ公とする親任式を行った。

もう1つの問題はフィレンツェだった。メディチ家出身の教皇クレメンス7世は、メディチ家の利益の追求と領土の支配権強化に熱心だった。彼の最優先の目標は、1527年以来フィレンツェから追放されているメディチ家をその支配者として返り咲かせるこ

とであった。クレメンス7世は、カールの娘マルガリータが教皇の甥のアレッサンドロ・デ・メディチに嫁いでいたことから皇帝の支援を求めた。教皇はその際、カールがフィレンツェにおけるメディチ家の復権に協力しなければ戴冠式を行わないと主張した。しかも、永遠の都ローマではかつて皇帝軍が行った略奪行為の記憶が尾をひき、皇帝の名は人々にその災難を連想させずにはいなかった。カールはこうした事情を考慮し、アレッサンドロが戻るまでフィレンツェを包囲することに同意した。

フィレンツェの次はヴェネチアが問題になった。ヴェネチア共和国は地中海東部と西アジアを商圏とする貿易国で、そのためオスマントルコ帝国との友好関係維持に腐心していた。トルコ軍が地中海を西進し、またバルカン半島を北進したときも、ヴェネチアはトルコとの友好関係を維持していた。このようなヴェネチアは、十字軍を組織しようとしていたカールのパートナーとしては何の価値も無い。それどころか、スルタンとの外交交渉によって、ヴェネチアは将来フランソワ1世と同盟を結ぶ可能性すらあったのである。ヴェネチアの親フランス政策を中和するかのようになり、その最大のライバルであるジェノヴァは1528年にフランス支持から帝国支持へと立場を変えた。ジェノヴァの転向によってイタリア北部におけるフランスの勢力が衰えたため、カールはこの動きを歓迎した。

さらにイタリア南部では、カールは両シチリア王国での自らの地位を固めることができずにいた。シチリアは、宗主権を有する教皇と直属の領主との間で王国政府が選択に迷うことが多いため、混乱しているであろうとカールは考えていた。戴冠式を無事に済ませるために、カールはシチリア政策で教皇を支持する必要がある。もっともカールが教皇を必要としたのは、戴冠式のためだけではない。他にも緊急を要する案件があり、教皇の協力を必要としていた。ヘンリー8世の離婚問題もその1つであったし、また教皇が持つ多くの特権をカールは手に入れようと望んでもいた。そのため、カールとクレメンス7世がポローニャに滞在している間に、多くの問題を交渉によって解決する必要があるためである。

1529年の秋から1530年の春にかけてのこれらの交渉に関する記録は、意外にもほとんど残っていない。カール自身が書いたと思われるメモには、ヘンリー8世の離婚問題と教皇令についての2つの案件しか記されていない。しかしその他の資料を見ると、戴冠式の場所と手順についての話し合いと、フィレンツェ問題にからんで教皇から帝国への支援要求も行なわれたことが明らかである。クレメンス7世は戴冠式をポローニャで行う意向であり、ヘンリー8世に対して強硬な態度をとる気もなかった。時間と資金が限られていたカールは、教皇が希望する条件を受け入れるしかなかった。こうして戴冠式の日取りは1530年2月24日のカールの誕生日に決まり、フィレンツェの包囲はそれまで続くことになった。宰相のガッティナーラは、戴冠式を永遠の都ローマで行わなければ、ルター派から戴冠式の正当性を疑われると進言したが、カールはこれを無視し

ている⁵⁹⁾。カールはこの他にも、ナポリ訪問や、両シチリア王国に「良い政府」を樹立する計画をあきらめなければならなかった。

この戴冠式を描いた興味深い記録が版画という形で現存している。この絵には、戴冠式の後に教皇と皇帝が馬に乗って行進しているところが描かれている。画家は、マルガリータの宮廷で木彫と銅版画の作成をしていたフランドルの芸術家ニコラウス・ホーゲンベルクである。この作品で、馬上の2人は4人の男が持つ天蓋の下を進み、その後ろには槍を持った兵士を多数従えている。クレメンス7世は司教冠をかぶり、カールは神聖ローマ帝国の王冠を頭に載せている。皇帝の方が絵の前面に描かれているが、教皇の馬の方が皇帝の馬よりわずかに先を進んでおり、教皇は左にいる皇帝を振り向くように見ている。教皇の頭は、皇帝の頭よりわずかに高く描かれ、教皇がかぶっている背の高い司教冠が絵の中央部を占める。教皇の後ろにいるカールは、少し小さめに、繊細に描かれている。画家ホーゲンベルクはカール寄りの人物だが、それでも教皇を皇帝より高い位置においたのである。おそらく画家は、中世の戴冠式の絵の伝統に基づいてこの作品を描いたのであろう。戴冠式を描いた中世の絵画では、絵の中心人物と式典の主人公はあくまで王冠を授ける司教であって、王冠を受ける支配者ではない。教皇の権力を宣伝するために、この絵が描かれたとは思えないので、当時の一般大衆が皇帝誕生の式典における中心人物はあくまで教皇であると考えていたと理解すべきであろう。カールはこのような考えを喜ばなかったかもしれないが、受け入れてはいたようである。カールにとって重要なのは式典そのものではなく、その結果だった。すなわち、神の恩寵によって王冠を授けられたという事実が重要なのであった。

カールの祖父であるマクシミリアン1世は、帝国議会召集の機会を利用して華麗な入城行進を行ったことがある。1509年にはヴォルムスでの帝国議会開催の前に、1,000人の側近が馬に乗って入城している⁶⁰⁾。1507年には、コンスタンスの帝国議会の前と同様の入城を行っている⁶¹⁾。しかし、このような試みがまったくの失敗に終わることもあった。1488年にブリュージュを訪れたマクシミリアンは、フランス王ルイ11世との戦いへの議会の支持を集めるために市の中央広場のひとつで軍事パレードを行った。その際、槍をもった軍隊が円形を描きながら行進し、司令官の号令で一斉に立ち止まり、見物していた市民に向かって槍を突き出した。市民は攻撃の始まりと誤解して、その場を逃げ出してしまった。騒ぎに気づいたマクシミリアンが軍を静め、市民に冷静な対応を求めたが遅かった⁶²⁾。市議会はマクシミリアンを連れ、2ヶ月監禁した。監禁を解かれた後、マクシミリアンはルイ11世との戦いを再開し、翌年テルルーアンヌで地すべりの勝利をおさめる。ブリュージュに凱旋したマクシミリアンは、監禁されていた建物を取り壊し、市議会を罰した⁶³⁾。

この他の娯楽については、それほど恐ろしい話は伝わっていない。中世の終わりには、都市の民衆は広場で吟遊詩人や、芝居書き、フェンシングやレスリングのプロによる卓

越した演技を楽しんだ⁶⁴。また、貴族階級が娯楽としてトーナメントを催し、市民に見物させることもあった⁶⁵。

これらの出し物のために多くの人が都市の城壁内に入ってきたが、そのすべてがまっとうな人とは限らなかった。そのため市議会では、警察組織を設立して秩序の維持にあたらせた。組織の任務は、夜間に都市の見回りをし、不法な流入、特に物乞いやその他の貧しい人々の流入を防ぐことであった。これらの人々の流入は、市にとって財政上の負担になるからである。住民以外の貧しい者を退去させるために、厳しい対策が採られた⁶⁶。正規の住民は、戸籍に登録されており、何世代も前の市内への移住が記録に残されていた。住民は都市内に1つかそれ以上の地所をもち、家族やその他の被扶養者とともにそこに住んだ。もちろん市民は都市の外にも私有地を所有することが許された。何世紀もたった後でも、市民の先祖がいつ都市への移住を許されたか、またどの出身かを残された記録からたどることができたのである⁶⁷。都市とは、秩序と平和が保たれた公的空間であった。城郭の中で武器を保持、携帯、使用することは厳しく禁止された⁶⁸。市民の間の争いごとは、法的な手続きを経て平和裏に解決しなければならなかった⁶⁹。秩序が保たれた都市は、城外に広がる危険とみなされた場所と比較して、安全であると考えられたのである。

3 中世の風景における道路

中世の終わりから近代初期のヨーロッパにおける国家形成の重要な特徴は、都市内で確保されていた安全を都市同士の間広がる領域にまで拡張した点にあった。都市と地方の政府の間の差が次第になくなり、それにつれて都市の街路〔street〕と長距離の地方道路〔road〕との概念的な差も縮まっていった。このような事態の進展には都市部の議会と、領土全体の支配者がかかわっていた。両者は互いに調整しながら事業を進めることもあったし、別々に事業を進め、結果を確認しあうこともあった。両者の主な関心事は、橋を建造して維持・管理すること、そして道路の利用者に安全を保障することであった。

この時代には、輸送革命がヨーロッパ各地で起きていた。牛に代わって馬が荷を運ぶ動物として利用されるようになったのである。馬は牛より足が速いので、旅の平均的なスピードも増した。また、道路や橋が良くなり、旅の安全性も向上した。街道には旅館ができ、アルプスの峠道には病院ができ、病気の旅人を介抱した⁷⁰。支配者は長距離の公道〔highway〕を特別に保護し、道路の整備と通行人の安全に特に注意を払った⁷¹。

製造業者や商人に次いで、巡礼目的の旅人が劇的に増加し始める。さまざまな職業の人々がローマ、サンチャゴ・デ・コンポステラ、さらにはパレスチナの聖地などに赴いたが、西ヨーロッパのもっと身近な場所に行く巡礼者も多かった。一人旅の巡礼もいれ

ば、集団で旅に出る者もいた。サンチャゴ・デ・コンポステラのように有名な場所には多くの巡礼が集まり、街道沿いの旅人相手の商売が繁盛した。巡礼のための案内人、観光地図、ロザリオなどの信心用具、記念のコイン、地域の特産品や食品などを扱う新たな産業も生まれた⁷²⁾。カトリック教会は、贖宥状を発したり、聖年を設定したりして巡礼への熱をあおった⁷³⁾。しかし、たとえこれらの仕掛けがなかったとしても、巡礼の流行はとどまるどころを知らず、ますます盛んになったことであろう。当時、ローマに向かう巡礼は、皮肉を込めて「ローマのランナー」と呼ばれていた⁷⁴⁾。

パレスチナへの巡礼も同様に盛んであったが、それは旅人とパレスチナ住民の両方にとって危険と隣り合わせであった。11世紀の終わりから12世紀にかけては、熱心なキリスト教徒が十字軍に続いて聖地におしかけ、十字軍に対して保護を求めるばかりか、聖地の支配権をイスラム教徒から奪還するためにもっと戦争をするようにと激励した⁷⁵⁾。しかし、これらの巡礼自身もまた危険に遭遇することがあった。もっとも、イングランドのパン屋、ウィリアム・パースほどに全員が不運だったわけではない。ウィリアムは、1201年にパレスチナ巡礼に1人で出立したが、ロチェスター大聖堂の前で殺害された。しかし、彼の死後すぐに地元で共感する者たちが現われ、1256年に列聖されることになったので、その悲惨な運命も報われたと言えるかもしれない⁷⁶⁾。最後に、巡礼が流行したことで、14世紀には旅行記という新しい文学のジャンルが生まれたことに言及する必要がある。ジョフリー・チョーサーのカンタベリー物語は、ロンドンからカンタベリーまでの巡礼についてうたい、ロンドンの住民が遠出をお祭り騒ぎのように楽しんでいた様子を記録にとどめている⁷⁷⁾。

貴族に率いられた軍の遠征は、さらに進んだ形態の旅行であり、中世後期には多くの人がこのような旅を経験した。貴族も都市住民もともに旅文化の高度化に尽くしたが、とりわけ貴族は、武勇や騎士道精神を発揮し、強力な支配者に対して自らの能力を誇示するチャンスとして旅をとらえていた。そしてなによりこのような旅によって、彼らは食事や娯楽を提供するだけの財力があることを証明することができた。中世の中期から後期の宮廷文学では、はるかな異国への危険極まりない旅に出た貴族の冒険物語が主流になっている。これらの冒険物語の中心となるのは十字軍の物語で、それらは宮殿の壁画の主題にもなった⁷⁸⁾。シュヴァーベン⁷⁹⁾の騎士で皇帝マクシミリアンI世の若い頃の友人であったエーヒンゲンのゲオルグのように実際に冒険の旅に出た人物の物語が、虚構とないまぜにされながら語られた。エーヒンゲンのゲオルグは、ポルトガルに赴き、そこで国王ジョアン2世の部隊を率いてアフリカまで遠征した人物である⁷⁹⁾。

同様に一般の歩兵も傭兵として多くの遠征に参加した。ある者はイングランドの大弓の射手として、またある者はジェノヴァの石弓の射手として、それぞれの専門とする武器を扱うプロになった者もいた。スイス兵のように、勇敢で信義に厚いとして名声を得た人々もいた⁸⁰⁾。16世紀に入ると、もともとマクシミリアン1世によって設立された

傭兵の歩兵部隊がスイス兵と競い合い、1530年代から30年戦争が終わるまで、数ある傭兵の中でもっとも広範に雇われることになった。もっとも多くの人々が移動した旅行として記録されているのは、このような軍の遠征に関連するものであり、その結果、ドイツ語の *Reise* やラテン語の *expeditio* が長距離の軍の遠征を示す専門用語として使用されるようになった⁸¹⁾。

11世紀になると行政府が人口の多い大都市に置かれるようになる。フランスではパリ、イングランドではロンドンのような大都市に王が住むようになり、そこが首都になったのである。ボヘミアではプラハが地域的な中心地となり、14世紀の短い間であったが、神聖ローマ帝国の首都にもなった。ハンガリーでは王国政府がブダとペストに設立され、ポルトガルではリスボン、スウェーデンではストックホルム、デンマークではコペンハーゲン、ポーランドではクラクフがそれぞれの首都になった。神聖ローマ皇帝は相変わらず各地を巡回する支配者であったが、15世紀の終わり以降はウィーンが皇帝の主な居住地となった。

皇帝に続いて、さらに強力な帝国内の支配者がそれぞれの居城を築いた。バイエルンではミュンヘン、ザクセンではドレスデン、ヴェルフ家領ではブラウンシュヴァイク、ブルゴーニュではブリュッセルなどが政治の中心地となった。一方で、ケルン、マインツ、トリールなどは教会の中心地として、また教会選帝侯領の行政中心地として栄えた⁸²⁾。その結果、大都市の政府が近隣の田園地帯にまで勢力を伸ばし、かなり大きな領域を支配するようになった。ジェノヴァ、ミラノ、ヴェネチアなどでは、都市政府が周辺地域一帯を支配するようになり、アルプス山脈の北側では、フランクフルト、ニュールンベルグ、ウルムなどが同様の発展を遂げた。

それぞれの都市には都市特有の性格があり、おかれた条件も異なっていたが、そのプロセスの結果はどれも似ていた。すなわち支配者の居住地が都市の中心地となることで、支配者の命令による人々の行き来が頻繁になったのである。支配者が領民の間を巡回するのをやめたことで、領民の方が支配者やその地域的代理人の下に出向かなければならなくなった。行き来が頻繁になれば、市議会は都市内の街路の維持・管理を強化しなければならない。市民にとっても、市外からの訪問者にとっても、新たなコミュニケーション・輸送・交易の場として、清潔で幅広い道が必要となる。こうして、都市内の空間でマーケットが開けるくらいの幅があるものに対しては、大通り [Broad Street] という用語が頻繁に使われるようになった。

庶民が支配者の命令で旅を始めたのは、おそらく10世紀後半にまでさかのぼる。それは、イングランドのエドガー王が、流通している貨幣を3年ごとに取り替えないと命じたのを775年に発したことに始まる。この命令は、貨幣価値が下るのを防ぐためのものであったが、これを実施するには、王立の造幣所をイングランド各地に建設し、しかもその立地は、農民が村から日帰りできる程度の場所であればならなかつ

た。そうでなければ王の命令を守ることはできない。古銭を調べた結果、エドガー王のこの命令は11世紀半ばまで実際に守られていたことがわかっている⁸³⁾。

当時、他の地域ではエドガーが出したような命令は出ていない。この時代は、イングランド以外では、支配者の命令によって個人が旅をしなければならないというようなことが、まだ、少なかったのである。14世紀の初頭でもそのような状況であったことを、マルコ・ポーロが間接的に証明している。彼によれば、そのころ中国では皇帝の命令で郵便の配達が行われていた。マルコ・ポーロは、馬に乗った郵便配達人がいかに効率的に移動しているかを称賛し、そのスピードが速いこと、長距離道路を旅する特権を有していたこと、馬につけられた鈴の音を聞いたら通行人は道を譲らなければならなかったことなどを述べている。この報告は多くの読者の関心をひき、中世の作家が中国について語る時、この部分を引用することが多かった⁸⁴⁾。マルコ・ポーロが中国の郵便制度について驚きをもって語っているところを見ると、当時のヨーロッパにはこのように政府の命令によって移動する習慣がなかったことが推測できよう。

各地域の中心都市が発展することで、人々の往来は一層激しくなった。中心地では、支配者や政府が権力を誇示するための特別な建造物を建てたり、それを保持したりするために、芸術家や職人を必要としていた⁸⁵⁾。14世紀後半には、旅行記や旅行を題材にした小説、またジョヴァンニ・ボッカチオのデカメロンのように、物語のナレーションに旅行を題材にした文学作品が流行した⁸⁶⁾。巡礼に関する豪華なイラストつきの本も広く出回るようになった⁸⁷⁾。このような文学に関心が深まったのは、13世紀以降、それまで以上に長い距離を人々が旅するようになり、遠い異国への興味がいっそうかきたられるようになったためであろう。

長距離の旅をするのは商人だけではなかった。十字軍が壊滅的な終局を迎えたあと、カトリック教会は宣教師やさらにはスパイまでも、近東や東アフリカのような遠い土地に送り込むようになった⁸⁸⁾。15世紀のフィレンツェの商人、ニコロ・デ・コンティは、インド、東南アジア、そしておそらくは中国まで旅し、イスラム教徒への改宗を強いられた経験を語っている。イタリアに戻ったコンティは教皇の謁見を求め、懺悔をしたという。教皇はコンティの罪を許し、悔い改めの印として教皇の学識豊かな秘書ポッジボンシに旅で見聞きしたことを詳しく伝えるように申し渡した。ポッジボンシが書き記したコンティの話は、たちまちベストセラーになった。教皇だけではなく、多くの人々が彼の旅の話に夢中になった⁸⁹⁾。これらの書物を読むと、多少の危険はともなうものの、旅はもはや命がけの冒険ではなくなっていたようである。実際の旅行記でも、旅を題材にしたフィクションでも、そこに語られるのは遠い異国の美しい風景であったり、物産の豊かさであったり、一攫千金を得る数多のチャンスであったりする⁹⁰⁾。15世紀になると、有名な温泉地をはじめとする単なる骨休めのための旅行も盛んになる。たとえば、コンスタンス会議(1414-1418)で教皇使節〔nuntio〕の秘書を勤めた学者のポッジョ・

ディ・グッチオ・ブラッチョリーニは1417年に友人にあてた手紙で、今日のスイスにあるアールガウ州バーデンの温泉での楽しみについて語っている⁹¹⁾。

当時の旅は個人か少人数で行うことがほとんどで、軍の遠征を除けば大集団で旅行することはめったになかった。14世紀以降に目立つ例としては、イングランド王のエドワード3世が、1338年から1340年まで都をフランドル地方に移したことである。イングランド王は、フランス王との戦いで大陸での同盟相手を探すためにこのような決断をしたのだった⁹²⁾。

旅をする機会が増えたことで、人々は支配者に道路を管理するよう求め始めた。14世紀初頭にはすでに、教皇ボニファチウス8世が、交通量の多い巡礼路を利用する旅人は、逆方向に旅する人々のために左側に寄って通行するようにとの命令を出している⁹³⁾。これはおそらく左側通行という交通ルールのはしりである。15世紀には、道路の安全確保は皇帝の任務となった⁹⁴⁾。帝国以外では、それぞれの土地の支配者が幹線道路や橋の管理義務を負った。イングランドでは、ヘンリー8世が司法官に通行可能なように橋を管理する仕事を委託している⁹⁵⁾。18世紀以降、イングランドの道路は、季節に関係なく1年中利用できるようにターンパイクすなわち有料道路として建設された。当時の道路は道幅が狭く、舗装もされていなかったため、混雑しているときや、大雨の後で深い轍ができたときは、とりわけ移動が困難だった。ターンパイクは、普通の道路の2倍の道幅があり、左側は非常用にとっておかれた。18世紀後半から、必要に応じて左側の部分も利用するようになった⁹⁶⁾。18世紀の終わりにかけて、政府による盗賊などの取り締まりが徐々に功を奏するようになるが、それでも旅に危険はつきものだった。7年戦争の最中には、プロシヤのフレデリック2世が姉妹への手紙の中で軍の状態が思わしくないことを嘆いているが、その中で、王は自身を盗賊の集団につかまった旅人になぞらえている⁹⁷⁾。

支配者は、領内の道路の管理よりも国境の警備のほうに関心を寄せていた。彼らは犯罪人の逃亡や兵士の脱走にそなえて国境に常設の検問所をつくり、見張らせた。また同じ目的のために、18世紀にはパスポート⁹⁸⁾の一般的な利用に関する法律が制定された。パスポートは、それまで特定の軍でのみ通用していた古い規制に代わる措置として導入された⁹⁹⁾。新しい法律では、上官から許可を得て隊から離れる兵士にはパスポートが渡され、パスポートを持っていない兵士は脱走兵と見なされた¹⁰⁰⁾。しかしこの法律は、脱走を減らす上であまり効果的ではなかったらしい。フレデリック王自ら、信頼できない兵士の脱走を阻止するよりも、忠誠心の厚い新兵を訓練した方が戦闘能力は維持できると述べている¹⁰¹⁾。軍の組織にとって、脱走が深刻な問題になるのは、敵以上に味方に脱走兵が多いときである。それはもはや敗北の予兆に他ならない。1806年から1815年にかけて、すなわちナポレオン戦争の最中に、ナポレオンと同盟を結んでいたバイエルン王国の政府が脱走兵の記録を残しているが、それによるとバイエルンの脱走兵が7,795

人、領内での外国の脱走兵が43,449人であったという¹⁰²⁾。一方で、移民や旅行を管理するためにパスポートの取得を義務付ける政府は、当時はまだなかった。

4 管理された場所としての街路と道路のイメージ

都市内の街路〔street〕と同程度の安全が、都市外の道路〔road〕にも確保されるかどうかは、ひとえに支配者の管理が効果的かどうかにかかっていた。中には傭兵を雇って、各自の都市から30キロまでの道路の通行の安全を維持した市議会もあった¹⁰³⁾。他の都市は、商人の隊列を軍隊によって手厚く保護していた¹⁰⁴⁾。フランス王をはじめとする支配者の中には、道路における旅行者の安全確保にかなり成功した者もいた¹⁰⁵⁾。こうした努力を補うように、個人やギルドが橋や土手道の建設・維持にかかわることもあった¹⁰⁶⁾。それでも、道路に危険はつきもので、さらに怪しげな商売がはびこることもあった。こうして都市内の街路と長距離道路の差が広がり、前者は清潔で安全、後者はきたなく危険だというイメージができたのである。

状況は地域によってさまざまであり、すべての政府が、それぞれが管轄する道路の安全確保に熱心だったわけでも、また成功していたわけでもない。しかし、政府に安全を要求する声が大きくなり、それは次第に政治的な課題となっていった。つまり移動する人々に安全を確保できるかどうか、統治がよくなされているかどうかの試金石になったのである¹⁰⁷⁾。したがって、安全確保の力が不十分であると判断された支配者には、支配者としての正当性の問題がもちあがった。とはいえ、支配者による法律が十分に行き届かない、あるいはまったく届かない場所も当然残った。長距離の道路は、流浪する盗賊や物乞いに占拠される危険性もあった。支配領域が大きければ大きいほど、支配者が道路を修理し、その安全を守る能力は不十分になる¹⁰⁸⁾。簡単に言えば、18世紀半ばまでは、都市以外の地域で法を施行し、安全を確保することは難しかったのである。都市内の道路と同じように長距離道路の安全確保が必要であるとの理想はなかなか実現せず、かえって都市と地方の差を実感させることになった。注目すべきことは、街路は秩序の保たれた空間であるという考え方には伝統的な裏づけがあるということだ。街路も道路と同様に、法律が行き届かない物騒な場所であるという考えがヨーロッパで生まれたのは中世以降になってからのことであった。

5 都市の無秩序化

——近代初期のヨーロッパにおける大都市の誕生

ヨーロッパでは、16世紀以降、大都市の誕生にともなって地方だけではなく都市内部も無秩序な状態になっていく。たとえば、ロンドンほどの視点から見ても明らかにい

ち早くヨーロッパ最大となった都市であり、その地位を今でも保っている。工業、商業、行政の中心地であるロンドンには多くの人口が流入し、16世紀には、ヨーロッパ有数の金融都市となり、仕事や観光でロンドンを訪れる人も増え続けた。さらに、政治的な亡命を求めてロンドンにやってくる難民の数も増加した¹⁰⁹。また、故郷で仕事などに失敗した人や脱落者が再起を求めてロンドンに来ることもあった。16世紀の末には、アムステルダム、ハンブルグ¹¹⁰などの港湾都市と同様に、ロンドンでも職にあぶれた女性のための救貧院ができていた。ロンドン市当局は、職にあぶれた女性が売春行為によって生計を立てるのではないかと疑い、彼女らを通りから追いたてて救貧院に収容したのである¹¹¹。そこには、物乞い、酔っ払い、軽犯罪者といった社会からの脱落者が収容されており、当局はそのような人々を同じ場所に集めて監視しようとした。もちろん、中世都市にも売春をする人はいたが、近代初期とはちがって、中世都市の当局者には、都市の城壁に近い場末の地区に遊郭を指定して売春を管理する権限があった。街路での売春行為が見られるようになるのはようやく14世紀から15世紀にかけてのことである¹¹²。

一方で、ロンドンへの人口流入が続き、それぞれが土地を所有しようとしたことから、新しい住民を住ませるために限りある市内の土地を細かに分割しなければならなくなった。ロンドン・ウォーカーズという特別委員会が、土地区画や境界線をめぐる争いを調停するために設立された¹¹³。それでも、ロンドンでは物乞いやホームレスなどの問題が蔓延していた。17世紀の資料によると、少なくとも80,000人のホームレスがイングランド王国にいたという¹¹⁴。ホームレスの人々は、住居がないために街路や道路に寝泊りしていたが、当局の監視に逆らい、自分たちの社会組織や独自のルールを作っていた¹¹⁵。

近代初期のロンドンはヨーロッパにおいて例外的な規模を誇っていたが、そこで起こった問題は普遍的な都市問題の原型をなすものだった。ヨーロッパ大陸中の都市で地方からの人口流入が起こっていた。17世紀にはすでに、人口学者たちは都市部での死亡率が出生率を上回ったことに気づいていた。それは、都市の人口規模が維持されているのは地方からの人口流入に依存しているためであることを意味した¹¹⁶。大陸の都市化が進めば進むほど、移民市場は複雑になり、移住者をめぐって都市部と包括的な地域行政当局とが競合することになる。政府の正当性は相変わらずその安全確保の能力によって判断されたので、当局は移住者に特典を与えることで領域内への移住を促し、それぞれに都市や地域の魅力をアピールしようとした¹¹⁷。言い換えれば、ある地域に多くの人々が移住するのは、その政府が総合的な安全確保を十分に行っていることの証明であり、移住者はいわば足によって政府に信任投票をしていたのである¹¹⁸。

したがって、当局は、一方では移住を促進する政策をとり、もう一方では流入した住民を監視するという難題をかかえ、両者のバランスをとることに苦労したのである。境

界にある検問所は、移住者の流入を制限するよりむしろ、都市からの脱走者の監視に力点を置いていたため、警察能力には限りがあった。そのため、流入する人々の中に乱暴者がいたとしても、当局は恒常的な人口流入に対してある程度寛大にならざるを得なかった。注目すべき点として、法律はホームレスよりも住民に対して厳しく施行されたことが挙げられる。ホームレスは罪を犯した後にはじめて追放されるだけだったが、重い前科のある住民は厳しい処罰を受けねばならなかった¹¹⁹⁾。その結果、恒常的に移民の流入が続く一方で、ホームレスには寛大な気風が醸成されていった。

コミュニケーション・輸送・交易のための場である道に対する見方は、中世と近代初期ではまったく異なる。中世には、都市内の街路〔street〕は市議会によって安全が確保された公共空間と見なされており、城郭内での武器の携行は禁じられていた。武器の携帯が禁じられていたということは、都市が危険な環境からは一線を画した安全な空間とみなされていたことを示している。都市がその支配を近隣に及ぼすようになると、地域の支配者は都市間を結ぶ道路〔road〕の安全を確保しようと努めたが、道路の維持・管理と安全確保に必ずしも成功したわけではなかった。中世から近代初期にかけて、秩序が保たれた場所としての街路に対して、道路は物騒で危険な場所と考えられていた。

その後、街路と道路に対する認識を変えるような動きが2度あった。1つは、都市内部の安全が確保できなくなってきたことである。都市人口が増えるにつれて、市議会は移住者を都市の秩序を脅かす存在と見なすようになった。また、移住者を管理する都市の行政能力は次第に衰えていった。人口の移動が増えるにつれ、特に経済的に繁栄している大きな港湾都市では、法律を徹底させることが困難になった。暴力沙汰や酒場での乱闘騒ぎが増え、特にエリザベス朝のイングランドではそれらが文学作品も描かれるようになった。大都市は、特に夜間に安全な区域と危険な区域に分かれるようになった。都市のイメージは、統治が行き届き平和で安全な場所という良いイメージから、不道徳な行為、汚職、犯罪が蔓延する悪しき場所の集合体へと変わったのである¹²⁰⁾。

第2は、安全確保の失敗を、住民が支配者あるいは政府の責任と考えたことである。特に17世紀には、天候不順、戦火の拡大、経済的な不況などによって人々の間に絶望感が蔓延し、宗教的な原理主義や抗議運動がピークに達した。定住する移住者たちの振る舞いに対して都市住民が神経質になり、都市の安全性が保たれなくなるという不安が広がると、支配者や政府は自らの正当性が危うくなってきたと感じ始める。その結果、契約主義の安全理論が正当性を擁護するための理論的な支えとして広く受け入れられるようになっていく。18世紀の後半には、このように追い込まれた支配者や政府が統治と法律の施行の必要性を主張するために、いわゆる「啓蒙的絶対主義」の政治体制を形成するのである。

中世から15世紀までの都市は、それ以降との比較において安全で秩序が保たれた空間であったと思われるが、実際に時代による差がどの程度あったかを検証することは難

しい。一方で、支配者や政府が都市の安全確保にどの程度成功していたか、あるいは失敗していたかに対する社会認識の変化を見極めることは比較的容易である。都市城壁の内と外での安全レベルに対する認識の差が縮まっていった15世紀以降、都市は次第に外界に対して門戸を開くようになり、それにつれて、都市内の一部の地区は、物乞い、放浪者、軽犯罪者などを含めた様々な人々が流入する場所であると見なされるようになった。都市が成長するにつれ、当局が都市住民の戸籍を管理したり、その行動を監視したりすることが難しくなり、法を施行し秩序を維持することも困難になった。政府の正当性に関する、当時優勢であった契約主義理論にもとづく安全維持への要求が高まる一方で、支配者や政府の安全を維持する能力が低下していき、その差が次第に拡大していったのである。

変容する社会的アリーナとしての街路〔ストリート〕を研究することで、同一文化内の変化についてのさらに幅広い特徴を探ることが可能となる。コミュニケーション・輸送・交易のための場としての街路は、単なる建造物ではなく、さまざまな行動パターンやその変化、さらに法の施行、秩序の維持、安全の確保に対する認識の変化といったものが交錯する場なのである。ストリートという言葉自体には比喩的な意味はないが、この言葉には、単なる工業技術の範疇を超えて、安全に対する集団的な認識までもを含む広範な意味あいが含まれているのである。

注

- 1) 筆者の知る限りではヨーロッパの諸言語における street と road の総合的な研究はない。中世ヨーロッパにおける一般的な street と road については以下を参照してほしい。K. Aerni, *Inventar historischer Verkehrswege der Schweiz. Bibliographie*, 2 vols (Bern, 1983) (Geographica Bernensia G 16) Aerni, 'Das Inventar historischer Verkehrswege der Schweiz (IVS)', *Siedlungsforschung* 4 (1986), pp. 267–279. Robert-Henri Bautier, 'La route française et son évolutions au course du Moyen Age', *Bulletin de l'Académie Royale de Belgique, Classe des Lettres et des Sciences Morales et Politiques*, Ve sér. 73 (1987), pp. 70–104. Bautier, 'Recherches sur les routes de l'Europe médiévale, Part I: De Paris et des territoires de Champagne à la Méditerranée par le Massif-Central', *Bulletin philologique et historique du Comité des travaux historiques et scientifiques* (1960), pp. 99–143, (1961), pp. 277–308 [reprint in Bautier, *Commerce méditerranéen et banquiers italiens au Moyen Age* (Aldershot, 1992)] Wolfgang Behringer, *Im Zeichen des Merkur. Reichspost und Kommunikationsrevolution in der Frühen Neuzeit* (Göttingen, 2003), pp. 512–549 (Veröffentlichungen des Max-Planck-Instituts für Geschichte 189) F. Berger, 'Die Septimer-Strasse', *Jahrbuch für schweizerische Geschichte* 15 (1890), pp. 1–180. Wilhelm Bonacker, *Bibliographie der Straßenkarte*, edited by Rudolf Kinauer (Bonn, 1973). Ulrich Borsdorf, Heinrich Theodor Grüner and Ferdinand Seibt (eds.) *Transit. Brügge—Novgorod. Geschichte einer Straße durch Europa* (Bottrop, 1997). M. N. Boyer, 'Roads and Rivers. Their Use and Disuse in Late-Medieval France', *Mediaevalia et humanistica* 13 (1960) pp. 68–80. Nicholas P. Brooks, 'Rochester Bridge', in N. Yates and J. M. Gibson (eds.) *Traffic and Politics*

(Woodbridge, 1994), pp. 1–40. Friedrich Bruns and Hugo Weczerka, *Hansische Handelsstrassen*, 2 vols (Graz, Vienna and Cologne, 1962; Weimar, 1967) (Quellen und Darstellungen zur Hansischen Geschichte. N. F. 12.) Donatella Ciampoli and Thomas Szabò (eds.) *Viabilità e legislazione di uno stato cittadino. Lo Statuto dei Viari di Siena* (Siena, 1992). Ch. de Craecker-Dussart, ‘La notion du “route” au Moyen Age’, *Le Moyen Age* 86 (1980), pp. 49–66. Ole Crumlin-Pedersen, *Skibe, seilade og ruter hos Ottar of Wulfstan to reise beskrivelser fra Vikingetiden* (Roskilde, 1983). Crumlin-Pedersen, ‘Schiffe und Seehandelsrouten im Ostseeraum. 1050–1350’, *Lübecker Schriften zur Archäologie und Kunstgeschichte* 7 (1983), pp. 229–237. P. Csendes, *Die Strassen Niederösterreichs im Früh- und Hochmittelalter* (Vienna, 1969). Dietrich Denecke, *Methodische Untersuchungen zur historisch-geographischen Wegforschung im Raum zwischen Solling und Harz* (Göttingen, 1969). Denecke, ‘Methoden und Ergebnisse der historisch-geographischen und archäologischen Untersuchung und Rekonstruktion mittelalterlicher Verkehrswege’, in Herbert Jankuhn and Reinhard Wenskus (eds.), *Geschichtswissenschaft und Archäologie* (Sigmaringen, 1979), pp. 433–483 (Vorträge und Forschungen, herausgegeben vom Konstanzer Arbeitskreis für mittelalterliche Geschichte 22) Denecke, ‘Strasse und Weg im Mittelalter als Lebensraum und Vermittler zwischen entfernten Orten’, in Bernd Herrmann (ed.) *Mensch und Umwelt im Mittelalter* (Stuttgart, 1986), pp. 207–223. Denecke, Strassen, ‘Reiserouten, Routenbücher (Itinerare) im späten Mittelalter und in der Frühen Neuzeit’, in Xenja von Ertzdorff and Dieter Neukirch (eds.) *Reisen und Reiseliteratur im Mittelalter und in der Frühen Neuzeit* (Amsterdam and Atlanta, 1992), pp. 227–253 (Chloë. 13.) A. Derville, ‘La première révolution des transports continentaux (c. 1000–c. 1300)’, in *Les transports au Moyen Age* (Paris, 1992), pp. 81–206. Klaus Düwel, ‘Wege und Brücken in Skandinavien nach dem Zeugnis wikingerzeitlicher Runeninschriften’, in Karl Hauck (ed.) *Sprache und Recht. Festschrift für Ruth Schmidt-Wiegand*, vol. 1 (Munster, 1986), pp. 88–97. Arnold Esch, ‘Spätmittelalterlicher Passverkehr im Alpenraum’, in Esch, *Alltag der Entscheidung. Beiträge zur Geschichte der Schweiz an der Wende vom Mittelalter zur Neuzeit* (Bern, Stuttgart and Vienna, 1998), pp. 173–248. Jakob von Falke, ‘Straße und Straßenleben im Mittelalter’, *Westermanns Jahrbuch der Illustrierten Deutschen Monatshefte* 10 (1861), pp. 279–295, 397–416. Falke, ‘Die Straße im Mittelalter’, in Falke, *Geschichte des Geschmacks im Mittelalter und andere Studien auf dem Gebiete von Kunst und Kultur* (Niederwalluf, 1971), pp. 123–143 [reprint of the second edn (Berlin, 1892)]. Ernst Gasner, *Zum deutschen Strassenwesen von der ältesten Zeit bis zur Mitte des XVII. Jahrhunderts. Eine germanistisch-antiquarische Studie* (Leipzig, 1889). Rainer Gömmel, ‘Technischer Fortschritt im Verkehrswesen des Spätmittelalters und der frühen Neuzeit’, in *Hochfinanz, Wirtschaftsräume, Innovationen. Festschrift für Wolfgang von Stromer*, vol. 3 (Trier, 1987), pp. 1039–1062. Willi Görlich, ‘Hessische Altstraßen um 1600’, in *Jahrbuch für Hessische Landesgeschichte* 14 (1964), pp. 328–344. Birgitta Hårdh, ‘See- und Flusswege in Südsandinavien aus der Sicht der Archäologie’, *Siedlungsforschung* 4 (1986), pp. 45–62. Hermann Harms and Hans-J. Wohlfahrt, *Die alte Salzstrasse im Wandel der Zeit* (Neumünster, 1983). David F. Harrison, ‘Bridges and Economic Development. 1300–1800’, *Economic History Review* 45 (1992), pp. 240–261. Harrison, *The Bridges of Medieval England. Transport and Society. 400–1800* (Oxford, 2004). Herbert Hassinger, ‘Zur Verkehrsgeschichte der Alpenpässe in der vorindustriellen Zeit’, *Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte* 66 (1979), pp. 441–465. Joachim Herrmann, ‘Magdeburg - Lebus. Zur Geschichte einer Straße und ihrer Orte’, *Veröffentlichungen des Museums für Ur- und Frühgeschichte Potsdam* 2 (1963), pp. 89–106. Herrmann, ‘Die slawischen Brücken aus dem 12. Jahrhundert im Ober-Ückersee’, *Ausgrabungen und Funde* 11 (1966), pp. 215–230. Brian Paul Hindle, ‘The Road Network

of Medieval England', *Journal of Historical Geography* 2 (1976), pp. 207–221. Hindle, 'Roads and Tracks', in Leonard Martin Cantor (ed.) *The English Medieval Landscape* (London, 1982), pp. 193–217. Hindle, *Medieval Roads and Tracks* (London, 1982) [reprints (1989; 1998)]. Hindle, *Roads, Tracks and Their Interpretation* (London, 1993). Hindle, *Roads and Tracks for Historians* (Chichester, 2001). Hans Hitzer, *Die Straße* (Munich, 1971). Della Hooke, 'The Hinterland and Routeways of Late Saxon Worcester', *Transactions of the Worcestershire Archaeological Society*, 3. Ser., vol. 7 (1980), pp. 39–52. Jean Hubert, 'Les routes au Moyen Age', in *Les routes de France depuis les origines jusqu'à nos jours*, edited by Guy Michaud (Paris, 1959), pp. 25–58. F. Imberdis, 'Les routes médiévales', *Annales d'histoire sociale* 1 (1939), pp. 411–416. Walter Janssen, 'Reiten und Fahren in der Merowingerzeit', in Herbert Jankuhn, Wolfgang Kimmig and Else Ebel (eds.) *Untersuchungen zu Handel und Verkehr in vor- und frühgeschichtlicher Zeit*, vol. 5 (Göttingen, 1989), pp. 174–221 (Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften in Göttingen, Philol.-Hist. Kl., 3. F., vol. 180) Gerhard Jaritz (ed.) *Die Strasse. Zur Funktion und Perzeption öffentlichen Raums im späten Mittelalter* (Vienna, 2001) (Forschungen des Instituts für Realienkunde des Mittelalters und der Frühen Neuzeit. Österreichische Akademie der Wissenschaften, Philos.-Hist. Kl. 6) Ewald Kislinger, 'Reisen und Verkehrswege zwischen Byzanz und dem Abendland vom neunten bis in die Mitte des elften Jahrhunderts', in Evangelos Konstantinou (ed.) *Byzanz und das Abendland im 10. und 11. Jahrhundert* (Cologne, Weimar and Vienna, 1997), pp. 231–257. Herbert Krüger, 'Erhard Etzlaub's Romweg Map and Its Dating in the Holy Year of 1500', *Imago Mundi* 8 (1951), pp. 17–26; Krüger, 'Des Nürnberger Meisters Erhard Etzlaub älteste Straßenkarte von Deutschland', *Jahrbuch für fränkische Landesforschung* 18 (1958), pp. 1–286, 379–407. Krüger, *Hessische Altstrassen des 16. und 17. Jahrhunderts nach zeitgenössischen Itinerar- und Kartenwerken (1500–1650)* (Kassel, 1963). Krüger, 'Oberdeutsche Meilenscheiben des 16. und 17. Jahrhunderts als straßengeschichtliche Quellen', *Jahrbuch für fränkische Landesforschung* 23 (1963), pp. 171–195, 24 (1964), pp. 167–206. Krüger, *Das älteste deutsche Routenhandbuch. Jörg Gails 'Raissbüchlin'* (Graz, 1974). Albert Chester Leighton, *Transport and Communication in Medieval Europe. A.D. 500–1500* (Newton Abbott, 1972). Jean-Pierre Lequay, 'La rue. Élément d paysage urbain et cadre de vie dans les villes du Royaume de France et des grands fiefs aux XI^e et XV^e siècles', in *Le paysage urbain au moyen-âge. Actes du XI^e congrès des historiens médiévistes de l'enseignement supérieur* (Lyon, 1981), pp. 23–60. Lequay, *La rue au Moyen Age* (Rennes, 1984). Uta Lindgren (ed.) *Alpenübergänge vor 1850* (Stuttgart, 1987) (Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte. Beiheft 83) Robert Sabatino Lopez, 'The Evolution of Land Transport in the Middle Ages', *Past and Present* 9 (1956), pp. 17–29 [first published in *Bollettino civico Istituto Colombiano* 1 (1954)]. Friedrich Ludwig, *Untersuchungen über die Reise- und Marschgeschwindigkeit im 12. und 13. Jahrhundert* (Berlin, 1897). G. H. Martin, 'Road Travel in the Middle Ages', *Journal of Transport History* N. S. 3 (1975/76), pp. 159–178. Erich Maschke, 'Die Brücke im Mittelalter', *Historische Zeitschrift* 224 (1977), pp. 265–292. Petr Meduna, 'Medieval Roads. A Journey into the Middle Ages', *Mediaevalia Archaeologia Bohemica* 2, Supplementum (1993), pp. 108–116. Karl-Heinz Meine, 'Offene Fragen zur Geschichte der Straßenkarten', in Wolfgang Scharfe (ed.) *4. Kartographiehistorisches Kolloquium 1988* (Berlin, 1990), pp. 161–168. Hans-Josef Niederehe, *Strasse und Weg in der galloromanischen Toponymik* (Geneva and Paris, 1967). David A. Pelteret, 'The Roads of Anglo-Saxon England', *Wiltshire Archaeological and Natural History Magazine* 79 (1984), pp. 155–163. Elfriede Rehbein, *Zu Wasser und zu Lande. Geschichte des Verkehrswesens bis zum Ende des 19. Jahrhunderts* (Munich, 1984). Timothy Reuter, 'Die Unsicherheit

- auf den Straßen im europäischen Früh- und Hochmittelalter. Täter, Opfer und ihre mittelalterlichen und modernen Beobachter', in Johannes Fried (ed.) *Träger und Instrumentarien des Friedens im hohen und späten Mittelalter* (Sigmaringen, 1996), pp. 169–201 (Vorträge und Forschungen, hrsg. vom Konstanzer Arbeitskreis für Mittelalterliche Geschichte 43) Hans-Joachim Rieckenberg, 'Königsstrasse und Königsgut in liudolfingischer und frühsalischer Zeit (1919–1056)', *Archiv für Urkundenforschung* 17 (1942), pp. 32–154 [reprinted separately (Darmstadt, 1965)]. Erwin Riedenaue (ed.) *Die Erschließung des Alpenraums für den Verkehr im Mittelalter und in der frühen Neuzeit* (Bolzano, 1996) (Schriftenreihe der Arbeitsgemeinschaft Alpenländer. Berichte der Historikertagungen N.F. 7) Enrico Rizzi (ed.) *Beiträge zur alpinen Passgeschichte* (Chur, 1987) (Akten der internationalen Tagung zur Walsersforschung 4) H. P. Schäfer, 'Überlegungen zur Altstraßenforschung', *Mitteilungen des Oberrheinischen Geschichtsvereins* N. F. 62 (1977), pp. 63–97. Thérèse Schlafert, 'Problèmes d'histoire routière. Les routes du Dauphiné et de la Provence sous l'influence du séjour des papes à Avignon', *Annales de géographie* 1 (1929), pp. 183–92. Hans Chr. Schneider, *Altstraßenforschung* (Darmstadt, 1982). Klaus Schwarz, *Archäologisch-topographische Studien zur Geschichte frühmittelalterlicher Fernwege und Ackerfluren im Alpenvorland zwischen Isar, Inn und Chiemsee* (Kallmünz, 1989) (Materialien zur bayerischen Vorgeschichte. Reihe A, vol. 45) Achim Simon, *Bibliographie zur Verkehrsgeschichte Deutschlands im Mittelalter. Das mittelalterliche Strassen- und Wegenetz*, second edn (Trier, 1985). Frank Merry Stenton, 'The Road System of Medieval England', *Economic History Review* 7 (1936/1937), pp. 7–21 [reprinted in Stenton, *Preparatory to Anglo-Saxon England*, edited by Doris Mary Stenton (Oxford, 1970), pp. 234–251]. Thomas Szabó, 'Der Übergang von der Antike zum Mittelalter am Beispiel des Strassennetzes', in Uta Lindgren (ed.), *Europäische Technik im Mittelalter* (Berlin, 1998), S. 25–43 [first published (Berlin, 1996)]. Szabó, *Comuni e politica stradale in Toscana e in Italia nel medioevo* (Bologna, 1992). Karl-Heinz Willroth, 'Landwege auf der cimbrischen Halbinsel aus der Sicht der Archäologie', *Siedlungsforschung* 4 (1986), pp. 9–44.
- 2) 近代英語には「route」もあり、これは近代フランス語の *route* からきている。*route* の語源は古代フランス語の *rut* であり、それは平俗ラテン語の **rumpta* つまり動詞 *rumpere* (割り込む) の完了分詞から派生している。この分詞はもともと名詞 *via* とともに使われた。古代英語の「road」は動詞の *riđan* (乗る) からきているものと思われる。それに対して、近代フランス語の *rue* は古代ラテン語の *rūga* つまり「ひだ」や「しわ」の意味で、中心が盛り上がり、両側に溝がある堤を連想させる。
- 3) Ivan Donald Margery, *Roman Roads in Britain* (London, 1955) [rev. edn (1967); third edn (1973)].
- 4) Jürgen Kunow, 'Zum Handel mit römischen Importen in der Germania libera', in Klaus Düwel, Herbert Jankuhn, Harald Siems and Dieter Timpe (eds.) *Untersuchungen zu Handel und Verkehr der vor- und frühgeschichtlichen Zeit in Mittel- und Nordeuropa*, vol. I (Göttingen, 1985), pp. 430–450 (Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften in Göttingen, Philol.-Hist. Kl., 3. F., vol. 143)
- 5) ローマの道が使用されなくなった経緯の考古学的な考察については、以下を参照。B. H. St. John O'Neill, 'Grim's Bank, Padworth, Berkshire', *Antiquity* 27 (1943), pp. 188–195. William I. Roberts IV, *Romano-Saxon Pottery* (Oxford, 28), pp. 1–11 (British Archaeological Reports. British Series 106)
- 6) ローマ帝国支配下の都市インフラが継続的に使用されたことは、Silchester に記録がある。記録に関しては以下を参照。Michel Fulford, *The Silchester Amphitheatre. Excavations of 1979–1985* (London, 1989) (Britannia Monograph Series 10).
- 7) Martin Biddle (ed.) *Winchester in the Early Middle Ages* (Oxford, 1976) (Winchester Studies. 1) を参照。

- 8) Margaret Gelling, 'The Element *wīchām* in English Place-Names', in *Medieval Archaeology* 25 (1982), pp. 87–104 [reprinted in *Place-Name Evidence for the Anglo-Saxon Invasion and Scandinavian Settlements*, edited by Kenneth Cameron (Nottingham 1975), pp. 8–26].
- 9) 根拠としては以下を参照。Harald Kleinschmidt, 'Überlegungen zur Entstehung von Siedlungsraumgrenzen am Beispiel des frühmittelalterlichen Sussex', in Andreas Gestrich (ed.) *Migration und Grenze* (Stuttgart, 1998), pp. 95–120 (Stuttgarter Beiträge zur Historischen Migrationsforschung 4)
- 10) 中世初期および中期の交易については以下を参照。Björn Ambrosiani and Helen Clarke (eds.) *Trading Places, Centres and Early Urban Sites* (Stockholm, 1994) (Birka Studies. 3.) Mike Anderton (ed.) *Anglo-Saxon Trading Centres Beyond the Emporia* (Dublin, 1999). Karlheinz Blaschke, *Stadtplanforschung* (Stuttgart and Leipzig, 2003), pp. 16, 27–28 (Sitzungsberichte der Sächsischen Akademie der Wissenschaften zu Leipzig, Philol.-Hist. Kl., vol. 138, no. 44) Klaus Brandt, 'Handelsplätze des frühen und hohen Mittelalters zwischen Ems- und Wesermündung', *Zeitschrift für Archäologie des Mittelalters* 5 (1977), pp. 121–144. Johann Callmer, 'Archaeological Sources for the Presence of Frisian Agents of Trade in Northern Europe ca. AD 700–900', in Anke Wesse (ed.) *Studien zur Archäologie des Ostseeraums. Festschrift für Michael Müller-Wille* (Neumünster, 1998), pp. 469–481. Dietrich Claude, 'Hofkaufleute im Frühmittelalter', in *Akten des 26. Deutschen Rechtshistorikertages* (1987), pp. 403–409. Klaus Düwel, Herbert Jankuhn, Harald Siems and Dieter Timpe (eds.) *Untersuchungen zu Handel und Verkehr der vor- und frühgeschichtlichen Zeit in Mittel- und Nordeuropa*, vol. 3 (Göttingen, 1985) (Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften zu Göttingen, Philol.-Hist. Kl., 3. F., vol. 150) Frédéric Durand, 'L'Anse aus Meadows, porte océane de l'Amérique norroise', *Proxima Thulé* 34 (2000), pp. 9–31. Willem Albertus van Es and W. A. M. Hessing (eds.) *Romeinen, Friezen en Franken in het hart van Nederlande. Van Traiectum tot Dorestad. 50 v. C.–900 n. C.* (Utrecht, 1994). Władysław Filipowiak, 'Handel und Handelsplätze an der Ostseeküste Westpommerns', *Bericht der Römisch-Germanischen Kommission* 69 (1988), pp. 690–719. Inge Lyse Hansen and Chris Wickham (eds.) *The Long Eighth Century. Production, Distribution and Demand* (Leiden, Boston and Cologne, 2000) (The Transformation of the Roman World 11) Joachim Herrmann, 'Frühe Seehandelsplätze am „äussersten Ende des westlichen Ozeans“', *Acta praehistorica et archaeologica* 26/27 (1994/1995), pp. 57–72. Richard Hodges and Brian Hobley (eds.) *The Rebirth of Towns in the West A. D. 700–1050* (London, 1988) (Council for British Archaeology. Research Report 68) Hodges and William Bowden (eds.) *The Sixth Century. Production, Distribution and Demand* (Leiden, Boston and Cologne, 1998) (The Transformation of the Roman World 3) Wolfgang Hübener, 'Die Orte des Diedenhofener Capitulars von 805 in archäologischer Sicht', *Jahresberichte für mitteldeutsche Vorgeschichte* 72 (1989), pp. 251–266. Herbert Jankuhn, 'The Interdisciplinary Approach to the Study of the Early History of Medieval Towns', in Howard B. Clarke and Anngret Simms (eds.) *The Comparative History of Urban Origins in Non-Roman Europe* (Oxford, 1985), pp. 15–42 (British Archaeological Reports. International Series 255) Jankuhn, Kurt Schietzel and Hans Reichstein (eds.) *Archäologische und naturwissenschaftliche Untersuchungen zu ländlichen und frühstädtischen Siedlungen im deutschen Küstengebiet vom 5. Jahrhundert v. Chr. bis zum 11. Jahrhundert n. Chr.*, vol. 2: Handelsplätze (Weinheim, 1984). A. Krzysowski, 'Frühmittelalterliches Grab eines Kaufmanns aus Sowinski bei Poznań in Grosspolen', *Germania* 75 (1997), pp. 639–667. Stéphane Lebecq, *Marchands et navigateurs Frisons au haut Moyen Age*, 2 vols (Lille, 1983–1984). Lech Leciejewicz, 'Kaufleute in den frühen Ostseestädten in archäologischer Sicht', *Zeitschrift für Archäologie* 12 (1978), pp. 191–203. Sven-Olof Lindquist and B. Radke (eds.) *Society and Trade in the*

Baltic during the Viking Age (Visby, 1985). *Mercati e mercanti nell' alto Medioevo*, 2 vols (Spoleto, 1993) (Settimane di studio del Centro Italiano di studi sul (Alto Medioevo 40) Poul Otto Nielsen, Klaus Randsborg and Hendrik Thrane (eds.) *The Archaeology of Gudme and Lundeberg* (Copenhagen, 1994). Gottfried Schramm, 'Fernhandel und frühe Reichsbildung am Ostrand Europas', in *Staat und Gesellschaft in Mittelalter und früher Neuzeit. Gedenkschrift für Joachim Leuschner* (Göttingen, 1983), pp. 15–39. Heiko Steuer, 'Die Handelsstätten des frühen Mittelalters im Nord- und Ostsee-Raum', in *La genèse et les premiers siècles des villes médiévales dans les Pays-Bas méridionaux. 14e colloque international Spa 1988* (Brusselles, 1990), pp. 75–116. Steuer, et al. [Art.] 'Handel', in *Reallexikon der Germanischen Altertumskunde*, second edn., vol. 13, edited by Heinrich Beck, Dieter Geuenich, Heiko Steuer and Dieter Timpe (Berlin and New York, 1999), pp. 497–593. Adriaan Verhulst, *Rural and Urban Aspects of Early Medieval North-West Europe* (Aldershot, 1992). Verhulst, *The Rise of Cities in North-West Europe* (Cambridge, 1999) (Themes in International Urban History 4)

- 11) 例として、フランク王国のシャルル禿頭王は、父親のルイ敬虔王死後の841年に王冠の寶石が盗まれずに無事アキテーヌに届いたことを大変驚き、喜んでいる。Nithard, *Historiarum libri IIII*, cap. II/8, edited by Ernst Müller (Hanover, 1907), pp. 21–22 (Monumenta Germaniae Historica. Scriptores rerum Germanicarum in usum scholarum separatim editi. 44)
- 12) Richer of Rheims, *Histoire de France*, cap. IV/50, edited by Robert Latrouche, vol. 2 (Paris, 1937), pp. 224–230 (Classiques de France au Moyen Age 17)
- 13) 古英語のエレジーにブリテン島における準ローマの都市の城壁の崩壊が描かれている。*The Ruin*, edited by George Philip Krapp and Elliott van Kirk Dobbie, *The Exeter Book* (New York and London, 1936), pp. 227–229 (Anglo-Saxon Poetic Records 3) Also edited by R. F. Leslie, *Three Old English Elegies* (Manchester, 1961).
- 14) 以下を参照。*Chronicarum libri IV*, cap. IV/48, IV/68, edited by Bruno Krusch, in Monumenta Germaniae Historica, *Scriptores rerum Merovingicarum*, vol. 2: Fredegarii et aliorum chronica. Vitae sanctorum (Hanover, 1888), pp. 144–145, 154–155.
- 15) 中世ラテン語の *desertum* が森に使われた例は以下を参照。Abbo of St-Germain-des-Près, 'Sermon 2', in Abbo, 22 *Predigten*, edited by Ute Önnersfors, (Frankfurt, 1985), p. 15 (Lateinische Sprache und Literatur des Mittelalters 16) [ninth century]. Bartholomaeus Anglicus, *Liber de proprietatibus rerum*, lib. XIV, cap. 51, edited by Georg Barthold Pontanus a Braitenberg (Frankfurt, 1601), p. 620 [thirteenth century; reprint (Frankfurt, 1964)]. English version by John of Trevisa (London, 1495), p. 486 [Trevisa's version, edited by M. C. Seymour (Oxford, 1988)]. The Old English epic of *Beowulf* describes marshes as the living space of Grendel and Grendel's mother *Beowulf and the Fight at Finnsburh*, vv. 103–105, edited by Frederick Klaeber, third edn (Lexington, MA, 1950), p. 5.
- 16) Gregory of Tours, *Libri historiarum X*, lib. II, cap. 42, edited by Bruno Krusch and Wilhelm Levison, vol. 1 (Hanover, 1951), p. 93 (Monumenta Germaniae Historica. Scriptores rerum Merovingicarum 1.1.) トゥールのグレゴリウスは血縁者のいない人々を「外国人の中の異国人」と呼んだ。これは住居のない人を意味した。同様に、7世紀末のケント人の王 Hlōðhere と Eadric による法律 (Cap. 15) では、3晩以上泊まる場所を探している旅人がいれば、それは主人のいない人とみなすこと、もし商人やその他領地の境界を越えてきた者がいればその人たちに食べ物を提供すること、その商人らが住民に何らかの危害を加えたら、宿を提供した人が商人らを判事に差し出すか、あるいは彼らに代わって義務を果たさなければならないとしている。Felix Liebermann (ed.) *Die Gesetze der Angelsachsen*, vol. 1 (Halle, 1903), p. 11 を参照の

こと。続いて、土地所有者に対する明白な制約に関して述べたくだりでは、イングランド王の Aedēlstan (II Athelstan, cap. 2, 2.1) は、10 世紀の前半に、主人のいない人が犯罪にかかわった場合は親戚が弁護するものとし、主人も親戚もいない人は通常の泥棒とみなし逮捕するとしている。Liebermann, ed., *Gesetze*, pp. 150–152 を参照。

- 17) 都市の定義では、居住地内に住民が永住しているか、その人口密度が高いか、農業以外の従事者の割合が高いか、それらの住民の社会的地位は高いかなどが、主要な要件だと考えられている。これらの条件を確認するには以下を参照すること。Susan Reynolds, ‘Stadtgeschichtsforschung in England’, in Fritz Mayrhofer (ed.) *Stadtgeschichtsforschung* (Linz, 1993), pp. 25–31 (Beiträge zur Geschichte der Städte Mitteleuropas 12) Reynolds, ‘English Towns in a European Context’, in Jörg Jarnut and Peter Johanek (eds.) *Die Frühgeschichte der europäischen Stadt im 11. Jahrhundert* (Cologne, Weimar and Vienna, 1998), pp. 207–212 (Städteforschung, Reihe A, vol. 43) このような定義のモデルは、都市の地理的、建築学的、機関的な定義と並んで中世後期から近代初頭までの都市に依然として採用されている。こうした伝統的な定義を用いることについては 30 年以上前から批判があるにもかかわらず、それとは対照的に、中世初期の都市の居住地や住民の行動様式による定義には、ほとんど関心がよせられていない。こうした批判については以下を参照のこと。Ferdinand Opll, ‘Das Werden der mittelalterlichen Stadt’, in *Historische Zeitschrift* 280 (2005), pp. 564–580. Walter Schlesinger, ‘Über mitteleuropäische Städtelandschaften der Frühzeit’, in Carl Haase (ed.) *Die Stadt des Mittelalters*, vol. I (Darmstadt, 1976), pp. 246–251. Harald Kleinschmidt, ‘中世ヨーロッパの都市性’, in Yasumasa Sekine (ed.) *都市的なるものの現在* (Tokyo, 2004), pp. 93–113.
- 18) 中世初期の都市の歴史についての最近の諸説については、以下を参照。Hansjürgen Brachmann and Joachim Herrmann (eds.) *Frühgeschichte der europäischen Stadt* (Berlin, 1991) (Schriften zur Ur- und Frühgeschichte 44) Evamaria Engel, *Die deutsche Stadt des Mittelalters* (Munich, 1993). Edith Ennen, *Frühgeschichte der europäischen Stadt* (Bonn, 1953) [third edn (1981)]. Ennen, *Die europäische Stadt des Mittelalters*, third edn (Göttingen, 1979). Gina Fasoli and Francesca Bocchi, *La città medievale italiana* (Florence, 1973). Heinrich Fichtenau, ‘“Stadtplanung” im früheren Mittelalter’, in Karl Brunner et al. (eds.) *Ethnogenese und Überlieferung* (Vienna and Munich, 1994), pp. 232–249 (Veröffentlichungen des Instituts für Österreichische Geschichtsforschung. 31.) Herbert Jankuhn et al. (eds.), *Vor- und Frühformen der europäischen Stadt im Mittelalter*, 2 vols (Göttingen, 1975) (Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften in Göttingen, Philol.-Hist. Kl., 3. F., vol. 83–84) Jacques Le Goff (ed.), *Histoire de la France urbaine*, vol. 2, second edn (Paris, 1998). David M. Palliser (ed.) *The Cambridge Urban History of Britain*, vol. 1 (Cambridge, 2000). Ernst Pitz, *Europäisches Städtewesen und Bürgertum* (Darmstadt, 1991). H. van Werveke, ‘Burgus’. *Verterking of nederzetting?* (Brussels, 1965) (Verhandelingen van de Koninklijke Vlaamse Academie voor Wetenschappen, Letteren en Schone Kunsten van België, Klasse der Letteren. 27/59) On controversies regarding the definition of the city see Peter Johanek and Franz-Joseph Post (eds.), *Vielerlei Städte. Der Stadtbegriff* (Cologne, Weimar and Vienna, 2004) (Städteforschung, Reihe A, vol. 61) Fritz Mayrhofer (ed.) *Stadtgeschichtsforschung* (Linz, 1993) (Beiträge zur Geschichte der Städte Mitteleuropas 12)
- 19) 例えば Carlrichard Brühl, *Palatium und Civitas* (Cologne, 1975) を参照。
- 20) ケルンについては、Manfred Groten, *Köln im 13. Jahrhundert* (Cologne, Weimar and Vienna, 1995) (Städteforschung, Reihe A, vol. 36) を参照。
- 21) クラインシュミット, ハラルド (2003) 「中世後期の市壁」『比較都市研究』22: 17–13 を参照。
- 22) Ambrogio Lorenzetti, *The good government, 1337–1339*. Siena, Palazzo Pubblico.

- 23) ロレンゼッティについては、以下を参照。Nicolai Rubinstein, 'Le allegorie di Ambrogio Lorenzetti nella sala della pace e il pensiero politico del suo tempo', *Rivista storica Italiana* 109 (1997), pp. 781–803. Quentin Skinner, 'Ambrogio Lorenzetti. The Artist as Political Philosopher', *Proceedings of the British Academy* 72 (1980), pp. 3–56 [abridged version in Hans Belting and Dieter Blume (eds.) *Malerei und Stadtkultur in der Dantezeit. Die Argumentation der Bilder* (Munich, 1989), pp. 85–103].
- 24) Ulrich Meier, *Mensch und Bürger* (Munich, 1994). Ulrich Meier, 'The Iconography of Justice and Power in the Sculptures and Paintings of Town Halls in Medieval Germany', *Medieval History Journal* 3 (2000), pp. 161–174.
- 25) Gerhard Dilcher, *Bürgerrecht und Stadtverfassung im europäischen Mittelalter* (Cologne, Weimar and Vienna, 1996). Klaus Schreiner and Ulrich Meier (eds.) *Stadtregiment und Bürgerfreiheit* (Göttingen, 1994) (Bürgertum 7)
- 26) Conrad of Meigenberg, *Das Buch der Natur*, edited by Franz Pfeiffer (Stuttgart, 1861), p. 423 [reprint, edited by Gerhard E. Sollbach (Frankfurt, 1990)].
- 27) 服装規定については以下を参照。Ferdinando Bertelli, ed., *Omnium fere gentium nostrae aetatis habitus nunquam ante hac aetatis* (Venice, 1563) [reprint (Unterscheidheim, 1969)]. Hans Weigel (ed.) *Habitus praecipuorum populorum tam virorum quam foeminarum singulari arte depicti. Trachtenbuch. Darin fast allerley vnd der furnehmsten Nationen/die heutigen tags bekandt sein/ Kleidungen/beyde wie es bey Manns vnd Weibspersonen gebreuchlich/mit allem vleiss abgerissen sein* (Nuremberg, 1577) [reprint (Zwickau, 1913) (Zwickauer Facsimiledrucke 17)] Cesare Vecellio, *De gli habitii antichi et moderni di diversi arti del mondo* (Venice, 1590). [reprint (Bologna, 1982)]. Jean de Glen, ed., *Des habits, moeurs, façons de faire anciennes & modernes du monde* (Liège, 1601). Abraham a Sancta Clara, *Neu-eröffnete Welt-Galleria worinnen sehr curios und begnügt unter die Augen kommen allerley Aufzug und Kleidungen unterschiedlicher Stände und Nationen* (Nuremberg, 1703) [reprint (Hildesheim, 1969)].
- 28) Giovanni Boccaccio, *Decameron*, editio princeps (Venice, 1492). English version in Rosemary Horrox, ed., *The Black Death* (Manchester and New York, 1994), pp. 26–34. 環境問題に関する市議会の法的権限については以下を参照。Ulf Dirlmeier, 'Die kommunalpolitischen Zuständigkeiten und Leistungen süddeutscher Städte im Spätmittelalter', in Jürgen Sydow (ed.) *Städtische Versorgung und Entsorgung im Wandel der Geschichte* (Sigmaringen, 1981), pp. 113–150 (Stadt in der Geschichte 8) Dirlmeier, 'Zu den Lebensbedingungen in der mittelalterlichen Stadt. Trinkwasserversorgung und Abfallbeseitigung', in Bernd Herrmann (ed.) *Mensch und Umwelt im Mittelalter*, third edn (Stuttgart, 1987), pp. 150–159 [first published (Stuttgart, 1986)]. Dirlmeier, 'Zu den materiellen Lebensbedingungen in deutschen Städten des Spätmittelalters', in Reinhard Elze and Gina Fasoli (eds.) *Stadtadel und Bürgertum in den italienischen und deutschen Städten des Spätmittelalters* (Berlin, 1991), pp. 59–80 (Schriften des Italienisch-Deutschen Instituts in Trient 14) Ernst Schubert, *Alltag im Mittelalter. Natürliches Lebensumfeld und menschliches Miteinander* (Darmstadt, 2002), pp. 95–107, 121–145.
- 29) 強烈な悪臭が疾病を引き起こすという恐怖については Hermann Hoffmann (ed.) *Würzburger Polizeisätze. Gebote und Ordnungen des Mittelalters*, no. 363, part 5 (Würzburg, 1955), p. 182 (Veröffentlichungen der Gesellschaft für Fränkische Geschichte 10)
- 30) Rolf Sprandel (ed.) *Quellen zur Hansegeschichte*, (Darmstadt, 1982), p. 376 (Ausgewählte Quellen zur Geschichte des Mittelalters 36) を参照。
- 31) 肉屋がゴミを街路に乗てることを禁じた命令 [1336] については以下を参照。Reginald Robinson Sharpe (ed.) *Calendar of Letter-Books preserved among the Archives of the Corporation of*

- the City of London*, Letter-Book A (London, 1899), p. 183.
- 32) シティの街路とテムズ河畔の清掃を命じた勅令 [1357] については以下を参照。Henry Thomas Riley (ed.) *Memorials of London and London Life* (London, 1868), pp. 295–296.
- 33) Walter Stein (ed.) *Akten zur Geschichte der Verfassung und Verwaltung der Stadt Köln im 14. und 15. Jahrhundert*, vol. 2 (Bonn, 1895), p. 23 (Publikationen der Gesellschaft für Rheinische Geschichtskunde 10) を参照。
- 34) Goswin Freiherr von der Rapp (ed.) *Göttinger Statuten*, no. 48 (1376), 74, §31 (1398), (Hanover, 1907), pp. 60, 88 (Quellen und Darstellungen zur Geschichte Niedersachsens 25) を参照。
- 35) Joseph Baader (ed.) *Nürnberger Polizeiordnungen aus dem XIII bis XV Jahrhundert* (Stuttgart, 1861), pp. 277–280 (Bibliothek des Litterarischen Vereins in Stuttgart 63) [reprint (Amsterdam, 1966)]. を参照。
- 36) Uvo Hölscher, ‘Goslarsche Ratsverordnungen aus dem 15. Jahrhundert’, *Zeitschrift des Harzvereins* 42 (1909), p. 63. を参照。
- 37) Eberhard, Earl of Württemberg, Order of 14 August 1466, edited by Adolf Rapp, *Urkundenbuch der Stadt Stuttgart*, no. 483 (Stuttgart, 1912), p. 269 (Württembergische Geschichtsquellen. N.F. 13) を参照。
- 38) たとえば以下を参照。Peter Arnade. *Realms of Ritual* (Ithaca and London, 1996). Andrea Löther, ‘Die Inszenierung der stadtbürgerlichen Ordnung. Herrschereinritte in Nürnberg im 15. und 16. Jahrhundert als öffentliches Ritual’, in Klaus Tenfelde and Hans-Ulrich Wehler (eds.) *Wege zur Geschichte des Bürgertums* (Göttingen, 1994), pp. 102–124 (Bürgertum. 8.) Gerrit Jasper Schenk, ‘Sehen und gesehen werden. Der Einzug König Sigismunds zum Konstanzer Konzil 1414’, in Franz Mauelshagen and Benedikt Mauer (eds.) *Medien und Weltbilder im Wandel der Frühen Neuzeit* (Augsburg, 2000), pp. 71–106 (Documenta Augustana 4) Schenk, *Zeremoniell und Politik. Beiträge zur Erforschung von Herrschereinzügen im spätmittelalterlichen Reich* (Cologne, Weimar and Vienna, 2003) (Forschungen zur Kaiser- und Papstgeschichte des Mittelalters 21)
- 39) カールが 1540 年にゲントを訪問した際の、入城、反乱の指導者の処刑、その後の市民の降伏と Caroline Concession として知られる新憲法については以下を参照。Louis Prosper Gachard (ed.), *Relations des troubles de Gand sous Charles-Quint* (Brussels, 1846), pp. 62–66, 87–90, 98–134, 368–370. Cornelius Hoyneck van Papendrecht (ed.) *Discourse des troubles advenuz en la ville de Gand* (The Hague, 1743), pp. 487–517. Louis de Hondt and Adolphe du Bois (ed.) *Coutume de la ville de Gand*, vol. 2 (Brussels, 1887), pp. 140–183.
- 40) Diploma in the name of Charles V, 4 November 1520, Ms. Nuremberg, Staatsarchiv, Rep. 1a, no. 612.
- 41) Staatsarchiv Nürnberg, Rep. 67, no. 1, fols 132–181.
- 42) Christoph Scheurl of Defersdorf, ‘Epistel über die Verfassung der Reichsstadt Nürnberg’, 15 December 1516, in *Die Chroniken der fränkischen Städte. Nürnberg*, vol. 5 (Leipzig, 1874), pp. 781–782 (Die Chroniken der deutschen Städte 11)
- 43) Eberhard Naujoks (ed.) *Kaiser Karl V. und die Zunftverfassung. Ausgewählte Aktenstücke zu den Verfassungsänderungen in den oberdeutschen Reichsstädten (1547–1556)* (Stuttgart, 1985), pp. 72–77, 86–91 (Veröffentlichungen der Kommission für geschichtliche Landeskunde in Baden-Württemberg. Reihe A, vol. 36) を参照。
- 44) Spiess による記述と編纂資料を参照。Philipp Ernst Spiess, *Geschichte des kaiserlichen neunjährigen Bundes vom Jahr 1535 bis 44 als eine neue Erscheinung in der Teutschen Reichsgeschichte, aus den Originalakten dargestellt* (Erlangen, 1788), esp. pp. 97–142.
- 45) [Report on Charles’s entry into Augsburg, 15 June 1530], in Karl Eduard Förstemann (ed.) *Urkundenbuch zu der Geschichte des Reichstages zu Augsburg im Jahre 1530*, vol. I (Halle, 1833),

- pp. 257–262 [repr. (Osnabrück, 1966)]. Alfred Kohler (ed.) *Quellen zur Geschichte Karls V.* (Darmstadt, 1990), pp. 157–160 (Ausgewählte Quellen zur deutschen Geschichte der Neuzeit. 15.) アウグスブルグでのカール入城を描く版画シリーズ (from the Herzog-Anton-Ulrich-Museum at Brunswick) の出版物としては以下を参照。Max Geisberg and Walter L. Strauss (eds.) *The German Single-leaf Woodcut. 1500–1550*, vol. 4 (New York, 1975), pp. 357–366.
- 46) カール 5 世の名による命令, 1528 年 2 月 3 日, Ms. Frankfurt, Institut für Stadtgeschichte, Reichsgasakten 43, fol. 45. この命令は皇帝に対するアングロ - フレンチ戦争のときに発せられ, 皇帝の臣民がフランソワ 1 世とヘンリー 8 世の軍に参加することを防ごうとしたものである。Harry Gerber (ed.) *Reichsgeschichtliche Quellen. 1500–1555* (Frankfurt, 1936) (Mitteilungen aus dem Frankfurter Stadtarchiv 2) を参照。
- 47) Oath of allegiance to Charles V, 1543. Ms Ulm, Stadtarchiv, Bestand A 1, fol. 3r.
- 48) The Secret Council of Ulm, [Letter to the XIII Directors of Strasbourg, 19 December 1546], in Otto Winckelmann (gen. ed.) *Politische Correspondenz der Stadt Strassburg im Zeitalter der Reformation*, vol. 4, pt 1, edited by J. Bernays and Harry Gerber (Heidelberg, 1931), no. 491, pp. 524–525.
- 49) The XIII Directors of Strasbourg, [Letter to the Secret Council of Ulm, 25 December 1546], in Otto Winckelmann (gen. ed.) *Politische Correspondenz der Stadt Strassburg im Zeitalter der Reformation*, vol. 4, pt 1, edited by J. Bernays and Harry Gerber (Heidelberg, 1931), no. 497, pp. 532–533. Mayor and Council of Ulm, [Letters to the Council of Strasbourg, 28 December 1546 and January 1547], in *ibid.*, nos 503 and 507, pp. 541–543, 546–549.
- 50) Paul Hector Mair, ‘Chronica, angefangen nach Christi, unnsers lieben herrn und haylandts geburt, als man zelt M.D.XLVII’, in: *Die Chroniken der schwäbischen Städte. Augsburg*, vol. 7 (Leipzig, 1917), pp. 23–24 (Die Chroniken der deutschen Städte 32) を参照。
- 51) *Ibid.*, pp. 25–57.
- 52) Sebastian Fischer, *Chronik besonders von Ulmischen Sachen* [Munich, Bayerische Staatsbibliothek, Cgm 3091, fol. 262v], edited by Karl Gustav Veessenmeyer, (Ulm, 1896), p. 138 (Ulm und Oberschwaben. 5–8.) See also Wolfgang Glockengiesser, Von alten geschichten so zu Vlm vnnd anderen Orhten firgangen. Ms Ulm, Stadtarchiv, Bestand G 3, fols 20v–22v. Glockengiesser は, 帝国軍がウルムに侵入したために仕事を失ったギルドのマイスターの 1 人である。Nikolaus Mameranus, *Caroli V Rom[ani] Imp[eratoris] Aug[usti] iter ex inferiore Germania ab anno 1545 usque in cometia apud Augustam Rhetian indicta anni 1547* (Augsburg, 1548), fol. B [XXX]r.
- 53) Fischer, *Chronik* (note 52), fol. 267, p. 141.
- 54) The ‘Neue Schwörbrief’ (new charter concerning oaths of allegiance), dated 22 August 1558, in Tobias Ludwig Ulrich Jäger (ed.) *Juristisches Magazin für die deutschen Reichsstädte*, vol. 2 (Ulm, 1791), pp. 329–343. 誓いのための新しい日付は 8 月のある日となっているが, 1397 年の古い *Schwörbrief* によれば, 年に 1 度の誓いの日は 4 月 23 日であった。
- 55) Manfred Groten (ed.), *Beschlüsse des Rates der Stadt Köln. 1320–1550*, 5 June 1548, vol. 3 (Düsseldorf, 1988), p. 595 (Publikationen der Gesellschaft für Rheinische Geschichtskunde 65,3) を参照。
- 56) *Beschlüsse* (note 55), 27 August 1548, pp. 616–617.
- 57) *Beschlüsse* (note 55), 7 September 1548, p. 621. 12 September 1548, p. 622.
- 58) *Beschlüsse* (note 55), 6 April 1549, pp. 671–672.
- 59) この戴冠式については, マルガリータの宮廷史家による記述を参照。Henricus Cornelius Agrippa, *De duplici coronatione Caesaris apud Bononiam historiola* (Cologne, 1535). At fols. H [VII]-I [II] v, アグリッパは戴冠式に続く行列について詳細な記述を残している。補足的な記

- 録としては *Gaetano Giordani, Della venuta e dimora in Bologna del sommo pontifico Clemente VII per la coronazione di Carlo V imperatore celebrate l'anno 1530* (Bologna, 1842). を参照。ガッティナーラのコメントについては以下を参照。Mercurino Arborio di Gattinara, 'Historia vitae', edited by Carlo Bornate, 'Historia vitae et gestorum per dominum magnum Cancellarium, con note, aggiunte et documenti', *Miscellanea di storia Italiana* 48 (1915), p. 348. For records on Charles's stay at Bologna see Giuseppe Romano (ed.) *Cronaca del soggiorno di Carlo V in Italia dal 26 giugno 1529 al 25 aprile 1530* (Milan, 1892).
- 60) Johannes Janssen (ed.) *Frankfurts Reichsrespondenz nebst verwandten Aktenstücken von 1376–1519*, No. 952, vol. 2 (Freiburg, 1872), pp. 750–751.
- 61) 以下を参照。Ursula Bruckner, 'Coronatio Maximiliani', *Beiträge zur Inkunabelforschung* 3. F., vol. 8 (1983), pp. 94–109. Karl Giehlow, 'Beiträge zur Entstehungsgeschichte des Gebetbuchs Kaiser Maximilians I.', *Jahrbuch der Kunsthistorischen Sammlungen des Allerhöchsten Kaiserhauses* 20 (1899), pp. 38–39. Gertraud Ibler, *König Maximilian I. und der Konstanzer Reichstag von 1507*. Ph.D. Diss., typescript (University of Graz, 1961), fols 26–31, 70–77. Alois Niederstätter, *Ante portas. Herrscherbesuche am Bodensee. 839–1507* (Constance, 1993). Elisabeth Rom, *Maximilian I. und die Reichstage von 1500 bis 1510*. Ph.D. Diss., typescript (University of Graz, 1970), fol. 93. Hermann Wiesflecker, *Kaiser Maximilian I.*, vol. 2 (Munich, 1975), pp. 151–165, 217–249, vol. 3 (Munich, 1977), pp. 338–379.
- 62) 傭兵の戦闘技術については以下を参照。Johann Christoph Allmayer-Beck, 'Die tirolischen Zeughäuser des Kaisers Maximilian I', *Tiroler Heimat* (1963/1964), pp. 65–80. Reinhard Baumann, *Das Söldnerwesen im 16. Jahrhundert am bayerischen und süddeutschen Beispiel* (Munich, 1978) (*Miscellanea Bavarca Monacensia* 79) Baumann, *Die Landsknechte* (Munich, 1994). Friedrich Blau, *Die deutschen Landsknechte* (Görlitz: Starke, 1881) [second edn (Stettin, 1882); reprint of the first edn (Essen, 1985)]. Wendelin Boeheim, 'Die Zeugbücher des Kaisers Maximilian I', *Jahrbuch der Kunsthistorischen Sammlungen des Allerhöchsten Kaiserhauses* 13 (1892), pp. 94–201, 15 (1894), pp. 295–391. Harald Kleinschmidt, *Tyrocinium militare* (Stuttgart, 1989), pp. 43–95. Gerhard Kurzmann, *Maximilian I. und das Kriegswesen der österreichischen Länder und des Reiches* (Vienna, 1985) (*Militärsgeschichtliche Dissertationen österreichischer Universitäten* 5) Hans-Michael Möller, *Das Regiment der Landsknechte* (Wiesbaden: Steiner, 1976) (*Frankfurter Historische Abhandlungen* 12) Martin Nell, *Die Landsknechte* (Berlin, 1914) (*Historische Studien* 123) [reprint (Vaduz, 1965)].
- 63) Jean Molinet, *Chroniques*, edited by Georges Doutrepoint and Omer Jodogne, cap. 151–154, 169–170 (Brussels, 1935), vol. 1, pp. 587–601, vol. 2, p. 14–31.
- 64) 以下を参照。Wolfgang Hartung, *Die Spielleute. Eine Randgruppe in der Gesellschaft des Mittelalters* (Wiesbaden, 1982) (*Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte, Beihefte* 72) Walter Salmen, *Der fahrende Musiker im europäischen Mittelalter* (Kassel, 1960) (*Die Musik im alten und neuen Europa* 4) Alfred Schaer, *Die altheutschen Fechter und Spielleute* (Strasbourg, 1901).
- 65) トーナメントについては以下を参照。Richard Barber and Juliet Barker, *Tournaments* (Woodbridge, 1989). Juliet Barker, *The Tournament in England 1100–1400* (Woodbridge, 1986). Josef Fleckenstein (ed.), *Das ritterliche Turnier im Mittelalter* (Göttingen, 1985) (*Veröffentlichungen des Max-Planck-Instituts für Geschichte* 86) [reprint (1986)]. E. van den Neste, *Tournois, joutes, pas d'armes dans les villes de Flandre à la fin du Moyen Age* (Paris, 1996).
- 66) 物乞いについては以下を参照。K.L. Ay, 'Unehrllichkeit, Vagantentum und Bettelwesen in der vorindustriellen Gesellschaft', *Jahrbuch des Instituts für deutsche Geschichte* 8 (1979), pp. 13–38. A.L.

- Beier, 'Vagrants and the Social Order in Elizabethan England', *Past and Present* 64 (1974), pp. 3–29.
- Beier, *Masterless Men. The Vagrancy Problem in England. 1650–1640* (London and New York, 1986).
- Martin Dinges, *Stadarmut in Bordeaux. 1525–1675* (Bonn, 1988).
- Bronislaw Geremek, 'Criminalité, vagabondage, pauperisme. La marginalité à l'aube des temps modernes', *Revue d'histoire moderne et contemporaine* 21 (1974), pp. 337–375.
- František Graus, 'Randgruppen der städtischen Gesellschaft im Spätmittelalter', *Zeitschrift für historische Forschung* 8 (1981), pp. 385–437.
- Bernd-Ulrich Hergemöller (ed.) *Randgruppen der spätmittelalterlichen Gesellschaft* (Warendorf, 1990).
- Hergemöller, "'Randgruppen'" im späten Mittelalter. Konstruktion–Dekonstruktion–Rekonstruktion', in Hans-Werner Goetz (ed.) *Die Aktualität des Mittelalters* (Bochum, 2000), pp. 165–190.
- Eric John Hobsbawm, *Social Bandits and Primitive Rebels* (Cambridge, 1959).
- Robert Jütte, *Poverty and Deviance in Early Modern Europe* (Cambridge, 1994) [German version s. t.: *Arme, Bettler, Beutelschneider. Eine Sozialgeschichte der Armut* (Weimar, 2000)].
- John Pound, *Poverty and Vagrancy in Tudor England* (London, 1971).
- Martin Rheinheimer, *Arme, Bettler und Vaganten. Überleben in der Not. 1450–1850* (Frankfurt, 2000).
- Bernd Roock, *Außenseiter, Randgruppen, Minderheiten* (Göttingen, 1993).
- Ernst Schubert, *Fahrendes Volk im Mittelalter* (Bielefeld, 1995).
- Alexandre Vexliard, *Introduction à la sociologie du vagabondage* (Paris, 1956).
- 67) 以下を参照。Claudine Billot, 'L'assimilation des étrangers dans le royaume de France aux XIVe et XVe siècles', *Revue historique* 107 (1983), pp. 273–296.
- Billot and Arlette Higounet-Nadal, 'Les migrants limousines à la fin du Moyen Age', *Bulletin de la Société archéologique et historique du Limousin* 112 (1985), pp. 70–85.
- Billot, 'Le migrant en France à la fin du Moyen Age', in Neithard Bulst and Philippe Genet (eds.) *Medieval Lives and the Historian* (Kalamazoo, 1986), pp. 235–242.
- 68) *Nürnberger Polizeiordnungen* (note 35), pp. 38–39, 51–54.
- 69) Susan Tipton, *Res publica bene ordinata. Regentenspiegel und Bilder vom guten Regiment. Rathausdekorationen in der Frühen Neuzeit* (Hildesheim, 1996) (Studien zur Kunstgeschichte 104)
- 70) 以下を参照。 *Gastfreundschaft, Taverne und Gasthaus im Mittelalter*, edited by Hans Conrad Peyer (Munich, 1983) (Schriften des Historischen Kollegs. Kolloquien 3)
- Peyer, *Von der Gastfreundschaft zum Gasthaus* (Hanover, 1987) (Schriften der Monumenta Germaniae Historica 31)
- 71) 例えば the *Mainz peace of 1235*, cap. 196, §7, edited by Ludwig Weiland (Hanover, 1893), p. 243 (Monumenta Germaniae Historica, Constitutiones et acta publica imperatorum et regum 2)
- 教皇特使 Johann Burchard が日記で報告しているように、16世紀になっても旅行者は身の危険にさらされることがあった。Geoffrey Parker (ed.) *At the Court of the Borgia. Being an Account of the Reign of Pope Alexander VI written by his Master of Ceremonies Johann Burchard* (London, 1963), p. 130 [reprints (1990; 1999)]. を参照のこと。
- 72) W. M. Whitehill (ed.) *Liber Sancti Jacobi. Codex Calixtinus*, 3 vols (Santiago de Compostela, 1944). Newly edited in one volume by Klaus Herbers and Manuel Santos Noia (Santiago de Compostela, 1999).
- 73) 聖年については Johann Burchard, *At the Court of the Borgia* (note 63), pp. 169–177. を参照。
- 74) 巡礼に関する当時の批判については以下を参照。William Langland, *The Vision of William Concerning Piers the Plowman*, Pass. V, vv. 125–139. edited by Walter William Skeat (London, 1873), p. 78 (Early English Text Society. Original Series 54) 同じ文節に「ローマのランナー」という言葉が見られる。
- 75) 軍事的十字軍兵士と過激な巡礼者との間に頻繁におきた亀裂については以下を参照。Michael A. Köhler, *Allianzen und Verträge zwischen fränkischen und islamischen Herrschern im*

- Vorderen Orient (Berlin and New York, 1991), pp. 235–283 (Studien zur Sprache, Geschichte und Kultur des islamischen Orients 12)
- 76) Henry Richards Luard (ed.) *Flores Historiarum*, vol. 2 (London, 1890), p. 9. Wynkyn de Worde, *Nova Legenda*, edited by Carl Horstmann vol. 2 (Oxford, 1901), pp. 457–459.
- 77) Geoffrey Chaucer, ‘The Canterbury Tales. General Prologue’, vv. 1–29, edited by Fred Norris Robinson, *The Works of Geoffrey Chaucer* (Oxford, 1974), p. 17 (sixth impression 1985).
- 78) たとえば、一連の細密画についての以下の記述を参照のこと。Petrus de Ebulo, Liber ad honorem augusti, Ms. Bern, Burgerbibliothek Cod. 120, written for Emperor Henry VI. この作品については Joachim Bumke, *Höfische Kultur*, vol. 2 (Munich, 1986), pp. 648–650. を参照。
- 79) Georg of Ehingen, [*Itinerarium*] *Reisen nach der Ritterschaft*, edited by Franz Pfeiffer (Stuttgart, 1842) (Bibliothek des Litterarischen Vereins in Stuttgart 1) Newly edited by Gabriele Ehrmann, vol. 1 (Göppingen, 1979), pp. 8–70 (Göppinger Arbeiten zur Germanistik 262) See also Leo von Rozmital, *Des Böhmischen Herrn Leo's von Rozmital Ritter-, Hof- und Pilgerreise durch die Abendlande*, edited by Johann Andreas Schmeller (Stuttgart, 1844) (Bibliothek des Litterarischen Vereins 7)
- 80) スイス傭兵の戦闘技術については以下を参照。Georges Grosjean, ‘Miliz und Kriegsgenügen als Problem im Wehrwesen des alten Bern’, *Archiv des Historischen Vereins des Kantons Bern* 42 (1953), pp. 129–171. Christian Padrutt, *Staat und Krieg im alten Bünden* (Zurich, 1965) (Geist und Werk der Zeiten 11) Roland Rumpel, ‘Der Krieg als Lebenselement in der alten spätmittelalterlichen Eidgenossenschaft’, *Schweizerische Zeitschrift für Geschichte* 33 (1983), pp. 192–206. Walter Schaufelberger, *Der alte Schweizer und sein Krieg* (Zurich, 1966). Adolf Waas, *Die Bauern im Kampf um Gerechtigkeit* (Frankfurt, Vienna and Zurich, 1964). Hans Georg Wackernagel, *Altes Volkstum der Schweiz* (Basle, 1956) (Schriften der Schweizerischen Gesellschaft für Volkskunde 38) Leo Zehnder, *Volkskundliches in der älteren schweizerischen Chronistik* (Basle, 1976) (Schriften der Schweizerischen Gesellschaft für Volkskunde 60).
- 81) *Reise* という語の語源については以下を参照。Norbert Richard Wolf, ‘Reisen im Mittelalter? Anmerkungen zum mittelalterlichen Reisewortschatz II, in Harald Burger, Alois M. Haas and Peter von Matt (eds.), *Verborum amor. Studien zur Geschichte und Kunst der deutschen Sprache. Festschrift für Stefan Sonderegger zum 65. Geburtstag* (Berlin and New York, 1992), pp. 263–272.
- 82) ケルンについては以下を参照。Wilhelm Janssen, *Geschichte des Erzbistums Köln*, vol. 2, pt 1: Das Erzbistum Köln im späten Mittelalter (1191–1515) (Cologne, 1995).
- 83) *Flores historiarum* (note 68), p. 514. この改革についての貨幣学的研究については Hans Bertil Alfons Petersson, *Anglo-Saxon Currency* (Lund, 1969) (Bibliotheca historica Lundensis 22) を参照。
- 84) Marco Polo, *The Description of the World*, edited by Arthur Christopher Moule and Paul Pelliot (London, 1938), pp. 243–247. Alfred William Pollard (ed.) *The Travels of Sir John Mandeville. The Version of the Cotton Manuscript in Modern Spelling* (London, 1905), pp. 159–160 [another edn (ibid., 1915)].
- 85) 遊行する芸術家と職人については以下を参照。Wolfgang Schmid, ‘Kunst und Migration. Wanderungen Kölner Maler im 15. und 16. Jahrhundert’, in Gerhard Jaritz and Albert Müller (eds.) *Migration in der Feudalgesellschaft* (Frankfurt and New York, 1988), pp. 315–350. Rolf Sprandel, ‘Die Ausbreitung des deutschen Handwerks im mittelalterlichen Frankreich’, *Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte* 51 (1964), pp. 66–100. Georg Tröscher, *Kunst und Künstlerwanderungen in Mitteleuropa. 800–1800*, 2 vols (Baden-Baden, 1953).
- 86) たとえば、聖ブレンダンの航海記の現存写本や印刷版を参照。Elisabeth Geck (ed.) *Herzog*

Ernst - Sankt Brandans Seefahrt. Faksimiledruck nach der Originalausgabe von Anton Sarg Augsburg 1476 (Wiesbaden, 1969). Gerhard E. Sollbach (ed.) *Sankt Brandans wundersame Seefahrt. Nach der Heidelberger Handschrift Cod. Pal. Germ. 60* (Frankfurt, 1987).

- 87) Bernhard of Breydenbach, *Peregrinatio in Terram Sanctam. Ein Reisebericht aus dem Jahr 1483 mit fünfzehn Holzschnitten*, edited by Elisabeth Geck (Wiesbaden, 1961). を参照。
- 88) 複製版については Christopher Dawson, *Mission to Asia* (Toronto, Buffalo and London, 1987) [first published (Cambridge, MA, 1980)]. の索引を参照。 Charles Raymond Beazley (ed.) 'Directorium ad faciendum passagium transmarinum, completed in 1330', *American Historical Review* 12 (1907), p. 824. Charles Kohler, 'Documents relatifs à Guillaume Adam, Archevêque de Sultanieh, puis d'Antivari, et à son entourage (1318-1346)', *Revue de l'Orient Latin* 10 (1903/1904), p. 17, はこの作品を Guillaume Adam が書いたとしている。
- 89) コンティの旅行報告の抜刷版については以下を参照。 John Winter Jones (ed.) *The Travels of Niccolo Conti*, in *India in the Fifteenth Century*, edited by Richard Henry Major (London, 1857) (Works Issued by the Hakluyt Society. 1 Ser., vol. 22) [revised edn by Lincoln David Hammond, *Travelers in Disguise. Narratives of Eastern Travel by Poggio Bracciolini and Ludovico de Varthema* (Cambridge, MA, 1963)].
- 90) マンデヴィルの『旅行記』の複製版については註 76 を参照。
- 91) コンスタンス会議での教皇の高官 (*nuntio*) の秘書であったボッジョ・ディ・グッチオ・ブラッチョリーニは、フィレンツェにいる友人への手紙で 1417 年にパーデン (アールガウ) の温泉地に行った旅行のことを報告している。 [in Bracciolini, *Lettere*, edited by H. Harth, vol. 1 (Florence, 1984), pp. 130-131; also in Lothar Schmidt (ed.) *Die Renaissance in Briefen von Dichtern, Künstlern, Staatsmännern, Gelehrten und Frauen*, vol. 1 (Leipzig, 1909), pp. 104-118]. この温泉地については次の旅行報告の記述も参照のこと。 Pero Tafur, *Andanças é viajes por diversas partes del mundo avidos (1435-1439)*, edited by M. Jiménez de Espada (Madrid, 1874), pp. 234-235 (Colección de libros españoles raros ó curiosas 8) [English version, edited by Malcolm Letts (London, 1926)]; and Michel de Montaigne, *Journal de son voyage*, edited by Fausta Garavini and Jean Borie (Paris, 1983), p. 98. パーデンについては以下を参照。 Matthias Bitz, *Badewesen in Südwestdeutschland. 1550-1840. Zum Wandel von Gesellschaft und Architektur* (Idstein, 1989). Bartolomaeus Fricker, *Geschichte der Stadt und Bäder zu Baden* (Aarau, 1880). Salomon Hottinger, *Thermae Argovia-Badenses. Das ist Eigentliche Beschreibung der warmen Bäder insgemein; des herrlichen in dem Aegöw gelegenen warmen Bads zu Baden insbesondere* (Baden, 1702). Heinrich Pantaleon, *Warhafftige und fleissige Beschreibung der uralten Stadt und Graveschafft Baden sampt ihren heulsamen warmen Wildbedern* (Basle, 1578).
- 92) この遠征については以下を参照。 Elsbeth Andre, *Ein Königshof auf Reisen. Der Kontinentaufenthalt Eduards III. von England 1338-1340* (Cologne, Weimar and Vienna, 1996) (Beihefte zum Archiv für Kulturgeschichte 41)
- 93) おそらくは 1300 年の最初の聖年の布告に際して出された。 Arsenio Frugoni, *Il Giubileo di Bonifacio VIII* (Rome and Bari, 1999) (Quadrante 102) Alfonso Stickler, *Il Giubileo di Bonifacio VIII* (1977).
- 94) 教会法の専門家であるパーゼルのヘルマン・ペーター・フォン・アンドラウ教授は、帝国の道路の安全性に配慮することがローマ皇帝の義務とされたと考えている。 Joseph Hürblin (ed.) 'Der "Libellus de Caesarea monarchia" von Hermann Peter aus Andlau', *Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Germanistische Abteilung* 13 (1892), pp. 212-213.

- 95) Anthony Fitzherbert, *Loffice et auctoryte des Jystices de peas* (s.l., 1538), fol. XCVIr-v.
- 96) 18世紀に入った頃の道路の状態が悪かったことは以下の旅行記に詳しい。Celia Fiennes, edited by Christopher Morris, *The Illustrated Journeys of Celia Fiennes. c.1682-c.1712* (Exeter and London, 1982), pp. 141, 166. See also the report on reform measures to Parliament by Arthur Young, *General Report on Enclosures* (London, 1808).
- 97) Letter of 22 July 1757, *Politische Correspondenz Friedrichs des Grossen*, vol. 15 (Berlin, 1887), p. 261.
- 98) パスポートの歴史については以下を参照。Andreas K. Fahrmeir, *Citizens and Aliens. Foreigners and the Law in Britain and the German States. 1789-1870* (New York, Oxford and Providence, RI, 2000) (Monographs in German History 5) Fahrmeir, 'Passwesen und Staatsbildung im Deutschland des 19. Jahrhunderts', *Historische Zeitschrift* 271 (2000), pp. 57-91. J.D. Gould, 'European Inter-Continental Emigration. 1815-1914. Patterns and Causes', *Journal of European Economic History* 8 (1979), p. 617. Steve Hochstadt, *Mobility and Modernity. Migration in Germany. 1820-1989* (Ann Arbor, 1999), pp. 13-14. Leo Lucassen, 'Het passpoort als edelste deel van een mens', *Holland* 27 (1995), pp. 265-285. Gérard Noiriel, *Die Tyrannei des Nationalen* (Lüneburg, 1994), pp. 140-234 [first published (Paris, 1991)]. Egidio Reale, *Le régime des passeports et la Société des Nations* (Paris, 1930). Mack Walker, *Germany and the Emigration. 1816-1885* (Cambridge, MA, 1964), pp. 1-152. Hans Wehberg, *Das Paßwesen* (Mönchengladbach, 1915), pp. 9-15.
- 99) 16世紀のパスポートの形態の例としては以下を参照。Hans-Michael Möller, *Das Regiment der Landsknechte* (Wiesbaden, 1976), p. 48 (Frankfurter Historische Abhandlungen 12) 戦場へ行軍する際、兵士たちは連隊から「適切な許可なしに」離れないことを誓う。これは18世紀にもまだ行なわれていた。たとえば Karl Rübel, 'Kriegs- und Werbewesen in Dortmund in der ersten Hälfte des 18. Jahrhunderts', *Beiträge zur Geschichte Dortmunds und der Grafschaft Mark* 7 (1896), p. 113. を参照。
- 100) Otto Christian Mylius (ed.) *Corpus Constitutionum Marchiarum*, Pt 3 (Berlin and Halle, 1737), pp. 341-348. See also Elmar Schmitt (ed.) *Leben im 18. Jahrhundert* (Constance, 1987), pp. 13-40.
- 101) Frederick II, King of Prussia, 'Political Testament of 1768', edited by Richard Dietrich, *Politische Testamente der Hohenzollern* (Munich, 1981), p. 301.
- 102) Carsten Küther, *Menschen auf der Straße. Vagierende Unterschichten in Bayern, Franken und Schwaben in der zweiten Hälfte des 18. Jahrhunderts* (Göttingen, 1983), pp. 18-20 (Kritische Studien zur Geschichtswissenschaft 56) Küther, *Räuber und Gauner in Deutschland. Das organisierte Bandenwesen im 18. und frühen 19. Jahrhundert* (Göttingen, 1976) (Kritische Studien zur Geschichtswissenschaft 20) Michael Sikora, *Disziplin und Desertion* (Berlin, 1996), pp. 54-97 (Historische Forschungen 57)
- 103) 安全管理の歴史については以下を参照。Rolf Freitag, 'Das Geleit der Reichsstadt Ulm', *Ulm und Oberschwaben* 37 (1964), pp. 85-131. Alfred Haferlach, 'Das Geleitwesen der deutschen Städte im Mittelalter', *Hansische Geschichtsblätter* 20 (1914), pp. 1-172. Johannes Müller, 'Geleitwesen und Güterverkehr zwischen Nürnberg und Frankfurt am Main im 15. Jahrhundert', *Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte* 5 (1907), pp. 173-196. Elsbet Orth, *Die Fehde in der Reichsstadt Frankfurt am Main* (Wiesbaden, 1973) (Frankfurter historische Abhandlungen 6) Meinrad Schaab, 'Strassen und Geleitwesen zwischen Rhein, Neckar und Schwarzwald im Mittelalter und in der frühen Neuzeit', *Jahrbücher für Statistik und Landeskunde von Baden-Württemberg* 4 (1958), pp. 54-75. Guido Schoenberger, *Das Geleitwesen der Reichsstadt Frankfurt am Main im 14. und 15. Jahrhundert* (Freiburg, 1922). Georg Robert Wiederkehr, *Das freie Geleit und seine Erscheinungsformen in der*

- Eidgenossenschaft des Spätmittelalters* (Zürich, 1976) (Rechtshistorische Arbeiten 16)
- 104) 商船を防護したヴェネチア艦隊の軍船については以下を参照。J.-C. Hocquet, [Art.] ‘Venedig, B: Wirtschaftsgeschichte’, in *Lexikon des Mittelalters*, vol. 8 (Munich, 1997), col. 1470.
- 105) René Héron de Villefosse, *Histoire des grandes routes de France* (Paris, 1975). Jean Petot, *Histoire de l’administration des ponts et chaussées. 1599–1815* (Paris, 1958). 詳細については以下を参照。Gerhard Jaritz, ‘Strassenbilder des Spätmittelalters’, in his collection *Die Strasse* (note 1), pp. 47–70.
- 106) Peter Dinzelsbacher and Harald Kleinschmidt, ‘Seelenbrücke und Brückenbau im mittelalterlichen England’, *Numen* 32 (1984), pp. 242–287.
- 107) 特に主要なものとして Thomas Hobbes, *De Cive. The English Version Entitled in the First Edition Philosophicall Rudiments Concerning Government and Society* [first published (Paris, 1647)] (London, 1651) [new edn, edited by Howard Warrender (Oxford, 1983), pp. 170–171. See also Hobbes, *De Corpore politico. Or the Elements of Law, Moral and Politic*, Pt I, chap. 2, no. 2 (London, 1650), newly edited by William Molesworth, *The English Works of Thomas Hobbes*, vol. 4 (London, 1840), p. 87 [reprint (London, 1997)].
- 108) Thomas Hobbes, *Leviathan*, Pt II, cap. XXX (London, 1651), p. 185. Newly edited by Richard Tuck (Cambridge, 1991), p. 244. 近代初期の政府による道路管理政策については以下を参照。Behringer, *Merkur* (note 1), pp. 547–548.
- 109) ロンドンの成長については以下を参照。A.L. Beier and Roger Finlay (eds.) *London. 1500–1700. The Making of the Metropolis* (London, 1986). Roger Finlay, *Population and Metropolis. The Demography of London. 1580–1650* (Cambridge, 1981). Steve Rappaport, *Worlds Within Worlds. Structures of Life in Sixteenth-Century London* (Cambridge, 1989).
- 110) *Ordnung der fürtrefflichen hoch- und weitberühmbten Kauffstadt Amsterdam in Hollandt mittelst welcher doselbsten die Bettler gantzlich abgeschaffet und die Armen unterhalten werden* (Hamburg, 1598). 他には Paul Griffiths, *Youth and Authority. Formative Experiences in England. 1560–1640* (Oxford, 1996), pp. 351–389. も参照。
- 111) Derek Gadd, Tony Dyson, ‘Bridewell Palace. Excavations at 9–11 Bridewell Place and 1–3 Tudor Street, City of London. 1978’, *Post-Medieval Archaeology* 15 (1981), pp. 1–79. *Commerce, Finance and the Poor Law*, edited by Richard H. Tawney and Eileen Power (London, 1924), pp. 331–334 (Tudor Economic Documents. 2. – University of London Historical Series 4) を参照。
- 112) Franz Isigler and Arnold Lassotta, *Bettler und Gaukler, Dirnen und Henker* (Munich, 1989), pp. 179–227 [sixth edn (ibid., 1995)]. Bernd Roeck, *Außenseiter, Randgruppen, Minderheiten* (Göttingen, 1993), pp. 122–128. を参照。
- 113) Lena Cowen Orlin, ‘Boundary Disputes in Early Modern London’, in Orlin (ed.) *Material London ca. 1600* (Philadelphia, 2000), pp. 344–376. を参照。
- 114) *Stanleyes Remedy. Or The Way How to Reform Wandering Beggars, Theeves, High-Way Robbers and Pick-Pockets* (London, 1646), p. 2. For studies of this text see Peter Archard, ‘Vagrancy. A Literature Review’, in Tim Cook (ed.) *Vagrancy. Some New Perspectives* (London, New York and San Francisco, 1979), pp. 18–19.
- 115) Friedrich Kluge, *Rotwelsch. Quellen und Wortschatz der Gaunersprache*, vol. I (Strasbourg, 1901) [reprint, edited by Helmut Henne (Berlin, 1987)]. 英語の ‘homeless’ は 1800 年ごろ現われている。
- 116) John Graunt, *Natural and Political Observations Made Upon the Bills of Mortality*, fourth edn (Oxford, 1665) [first published (London, 1662)]. 人口減少についての同様の観察は 18 世紀末にも見られる。Richard Price, *Essay on the Population of England from the Revolution to the Present Time*

- (London, 1780), pp. 17-31 (first published in William Morgan, *The Doctrine of Annuities and Assurances on Lives and Survivorships* [London, 1779], pp. 277-309). のほか、同様に John Howlett, *An Examination of Dr. Price's Essay on the Population of England and Wales* (Maidstone, 1781), pp. 15-19. など。'物価については William Wales, *An Inquiry into the Present State of Population in England and Wales* (London, 1781), の証言があり、彼は人口減少はまったく起こっていないと主張している。
- 117) 18 世紀の移入政策については Harald Kleinschmidt, *People on the Move* (Westport, CT and London, 2003), pp. 165-70. を参照。
- 118) Johann Heinrich Gottlob von Justi, *Die Grundfeste zu der Macht und Glückseligkeit der Staaten* (Königsberg and Leipzig, 1761), pp. 235-246 [reprint (Kronberg, 1969)]. Justi, *Grundsätze der Policywissenschaft*, third edn (Göttingen, 1782), pp. 77-84 [reprint (Frankfurt, 1969)].
- 119) Heinrich Richard Schmidt, 'Pazifizierung des Dorfes. Struktur und Wandel von Nachbarschaftskonflikten vor Berner Sittengerichten. 1570-1800', in Heinz Schilling (ed.) *Kirchenzucht und Sozialdisziplinierung im frühneuzeitlichen Europa* (Berlin, 1994), pp. 91-128 (*Zeitschrift für historische Forschung*. Beiheft 16)
- 120) たとえば 18 世紀の人口学者による倫理的に退廃した空間としての都市についての否定的な記述を参照。Johann Peter Süßmilch, *Die göttliche Ordnung in den Veränderungen des menschlichen Geschlechts aus der Geburt, dem Tode und der Fortpflanzung desselben erwiesen*, §52, third edn (Berlin, 1765), pp. 114-117 [first published (Berlin, 1741); reprint of the third edn, edited by Jürgen Crome (Göttingen, 1988)].

文 献

Abbo

- 1985 22 *Predigten* (Lateinische Sprache und Literatur des Mittelalters 16), edited by Ute Ötnerfors. Frankfurt.

Abraham a Sancta Clara

- 1703 *Neu-eröffnete Welt-Galleria worinnen sehr curios und begnügt unter die Augen kommen allerley Aufzug und Kleidungen unterschiedlicher Stände und Nationen*. Nuremberg. [reprint (Hildesheim, 1969)].

Aerni, K.

- 1983 *Inventar historischer Verkehrswege der Schweiz. Bibliographie* (Geographica Bernensia G 16), 2 vols. Bern.

- 1986 Das Inventar historischer Verkehrswege der Schweiz (IVS). *Siedlungsforschung* 4: 267-279.

Allmayer-Beck, J. C.

- 1963/1964 Die tirolischen Zeughäuser des Kaisers Maximilian I. *Tiroler Heimat*: 65-80.

Ambrosiani, B. and H. Clarke (eds.)

- 1994 *Trading Places, Centres and Early Urban Sites* (Birka Studies 3). Stockholm.

Anderton, M. (ed.)

- 1999 *Anglo-Saxon Trading Centres Beyond the Emporia*. Dublin.

Andre, E.

- 1996 *Ein Königshof auf Reisen. Der Kontinentaufenthalt Eduards III. von England 1338-*

- 1340 (Beihefte zum Archiv für Kulturgeschichte 41). Cologne, Weimar and Vienna.
- Anglicus, B.
 1601 *Liber de proprietatibus rerum*, edited by Georg Barthold Pontanus a Braitenberg, Frankfurt. [reprint (Frankfurt, 1964)]. English version by John of Trevisa (London, 1495), [Trevisa's version, edited by M. C. Seymour (Oxford, 1988)].
- Archard, P.
 1979 Vagrancy. A Literature Review. In T. Cook (ed.) *Vagrancy. Some New Perspectives*, pp. 11–28. London, New York and San Francisco.
- Arnade, P.
 1996 *Realms of Ritual*. Ithaca and London.
- Ay, K. L.
 1979 Unehrlichkeit, Vagantentum und Bettelwesen in der vorindustriellen Gesellschaft. *Jahrbuch des Instituts für deutsche Geschichte* 8: 13–38.
- Baader, J. (ed.)
 1861 *Nürnberger Polizeiordnungen aus dem XIII bis XV Jahrhundert* (Bibliothek des Litterarischen Vereins in Stuttgart 63). Stuttgart [reprint (Amsterdam, 1966)].
- Barber, R. and J. Barker
 1989 *Tournaments*. Woodbridge.
- Barker, J.
 1986 *The Tournament in England 1100–1400*. Woodbridge.
- Baumann, R.
 1978 *Das Söldnerwesen im 16. Jahrhundert am bayerischen und süddeutschen Beispiel* (Miscellanea Bavarca Monacensia 79). Munich.
 1994 *Die Landsknechte*. Munich.
- Bautier, R.-H.
 1987 La route française et son évolutions au course du Moyen Age. *Bulletin de l'Académie Royale de Belgique. Classe des Lettres et des Sciences Morales et Politiques*. Ve sér. 73. pp. 70–104.
 1960–1961 Recherches sur les routes de l'Europe médiévale, Part I: De Paris et des territoires de Champagne à la Méditerranée par le Massif-Central', *Bulletin philologique et historique du Comité des travaux historiques et scientifiques* 1960: 99–143, 1961: 277–308 [reprint in Bautier, *Commerce méditerranéen et banquiers italiens au Moyen Age* (Aldershot, 1992)]
- Beazley, C. R. (ed.)
 1907 Directorium ad faciendum passagium transmarinum. completed in 1330. *American Historical Review* 124.
- Behringer, W.
 2003 *Im Zeichen des Merkur. Reichspost und Kommunikationsrevolution in der Frühen Neuzeit* (Veröffentlichungen des Max-Planck-Instituts für Geschichte 189). Göttingen.
- Beier, A. L. and R. Finlay (eds.)
 1986 *London. 1500–1700. The Making of the Metropolis*. London.
- Beier, A. L.
 1974 Vagrants and the Social Order in Elizabethan England. *Past and Present* 64: 3–29.

- 1986 *Masterless Men. The Vagrancy Problem in England. 1650–1640.* London and New York.
- Berger, F.
1890 Die Septimer-Strasse. *Jahrbuch für schweizerische Geschichte* 15: 1–180.
- Bernays, J. and H. Gerber (ed.)
1931 *Politische Correspondenz der Stadt Strassburg im Zeitalter der Reformation.* vol. 4, pt 1. Heidelberg.
- Bernhard of Breydenbach
1961 *Peregrinatio in Terram Sanctam. Ein Reisebericht aus dem Jahr 1483 mit fünfzehn Holzschnitten* (edited by Elisabeth Geck). Wiesbaden.
- Bertelli, F. (ed.)
1563 *Omnium fere gentium nostrae aetatis habitus nunquam ante hac aetatis.* Venice. [reprint (Unterschneidheim, 1969)].
- Biddle, M. (ed.)
1976 *Winchester in the Early Middle Ages* (Winchester Studies 1), Oxford.
- Billot, C. and A. Higounet-Nadal
1985 Les migrants limousines à la fin du Moyen Age. *Bulletin de la Société archéologique et historique du Limousin* 112: 70–85.
- Billot, C.
1983 L'assimilation des étrangers dans le royaume de France aux XIVe et XVe siècles. *Revue historique* 107: 273–296.
1986 Le migrant en France à la fin du Moyen Age. In N. Bulst and P. Genet (eds.) *Medieval Lives and the Historian*, pp. 235–242. Kalamazoo.
- Bitz, M.
1989 Badewesen in Südwestdeutschland, 1550–1840. *Zum Wandel von Gesellschaft und Architektur.* Idstein.
- Blaschke, K.
2003 *Stadtplanforschung* (Sitzungsberichte der Sächsischen Akademie der Wissenschaften zu Leipzig, Philol.-Hist. Kl., vol. 138, no. 44.). Stuttgart and Leipzig.
- Blau, F.
1881 *Die deutschen Landsknechte.* Görlitz: Starke. [second edition (Stettin, 1882); reprint of the first edition (Essen, 1985)].
- Boccaccio, G.
1492 *Decameron.* editio princeps. Venice. [English version in Rosemary Horrox, ed., *The Black Death* (Manchester and New York, 1994), pp. 26–34.]
- Boheim, W.
1892 Die Zeugbücher des Kaisers Maximilian I. *Jahrbuch der Kunsthistorischen Sammlungen des Allerhöchsten Kaiserhauses* 13: 94–201.
1894 Die Zeugbücher des Kaisers Maximilian I. *Jahrbuch der Kunsthistorischen Sammlungen des Allerhöchsten Kaiserhauses* 15: 295–391.
- Bonacker, W.
1973 *Bibliographie der Straßenkarte* (edited by Rudolf Kinauer). Bonn.
- Borsdorf, U., H. T. Grüner and F. Seibt (eds.)
1997 *Transit. Brüggje-Novgorod. Geschichte einer Straße durch Europa.* Bottrop.

- Boyer, M. N.
 1960 Roads and Rivers. Their Use and Disuse in Late-Medieval France. *Mediaevalia et humanistica* 13: 68–80.
- Bracciolini
 1984 *Lettere* (edited by H. Harth). vol. 1. Florence.
- Brachmann, H. and J. Herrmann (eds.)
 1991 *Frühgeschichte der europäischen Stadt* (Schriften zur Ur- und Frühgeschichte 44). Berlin.
- Brandt, K.
 1977 Handelsplätze des frühen und hohen Mittelalters zwischen Ems- und Wesermündung. *Zeitschrift für Archäologie des Mittelalters* 5: 121–144.
- Brooks, N. P.
 1994 Rochester Bridge. In N. Yates and J. M. Gibson (eds.) *Traffic and Politics*, Woodbridge, pp. 1–40.
- Bruckner, U.
 1983 Coronatio Maximiliani. *Beiträge zur Inkunabelforschung* 3(8): 94–109.
- Brühl, C.
 1975 *Palatium und Civitas*. Cologne.
- Bruns, Friedrich and Hugo Weczerka
 1962 (1967) *Hansische Handelsstrassen*, 2 vols (Quellen und Darstellungen zur Hansischen Geschichte. N. F. 12.). Graz, Vienna, Cologne, Weimar.
- Bumke, J.
 1986 *Höfische Kultur*: vol. 2. Munich.
- Callmer, J.
 1998 Archaeological Sources for the Presence of Frisian Agents of Trade in Northern Europe ca. AD 700–900. In A. Wesse (ed.) *Studien zur Archäologie des Ostseeraums. Festschrift für Michael Müller-Wille*, pp. 469–481. Neumünster.
- Centro Italiano di studi sul' Alto Medioevo
 1993 *Mercati e mercanti nell' alto Medioevo* (Settimane di studio del Centro Italiano di studi sul' Alto Medioevo 40). 2 vols. Spoleto.
- Chaucer, G.
 1974 The Canterbury Tales. General Prologue. In F. N. Robinson (ed.) *The Works of Geoffrey Chaucer*. Oxford. [sixth impression 1985].
- Christoph Scheurl of Defersdorf
 1874 Epistel über die Verfassung der Reichsstadt Nürnberg, 15 December 1516. In *Die Chroniken der fränkischen Städte. Nürnberg*, vol. 5 (Die Chroniken der deutschen Städte 11), pp. 781–782. Leipzig.
- Ciampoli, D. and T. Szabò (eds.)
 1992 *Viabilità e legislazione di uno stato cittadino. Lo Statuto dei Viari di Siena*. Siena.
- Claude, D.
 1987 Hofkaufleute im Frühmittelalter. In *Akten des 26. Deutschen Rechtshistorikertages*, pp. 403–409.

- Conrad of Megenberg
 1861 *Das Buch der Natur* (edited by Franz Pfeiffer). Stuttgart. [reprint, edited by Gerhard E. Sollbach (Frankfurt, 1990)].
- Craecker-Dussart, Ch. de
 1980 La notion du “route” au Moyen Age. *Le Moyen Age* 86: 49–66.
- Crumlin-Pedersen, Ole
 1983a *Skibe, seilade og ruter hos Ottar of Wulfstan to rejse beskrivelser fra Vikingetiden*. Roskilde.
 1987 Hofkaufleute im Frühmittelalter. In *Akten des 26. Deutschen Rechtshistorikertages*, pp. 403–409.
 1980 La notion du “route” au Moyen Age. *Le Moyen Age* 86: 49–66.
 1983a *Skibe, seilade og ruter hos Ottar of Wulfstan to rejse beskrivelser fra*.
 1983b Schiffe und Seehandelsrouten im Ostseeraum. 1050–1350. *Lübecker Schriften zur Archäologie und Kunstgeschichte* 7: 229–237.
- Csendes, P.
 1969 *Die Strassen Niederösterreichs im Früh- und Hochmittelalter*. Vienna.
- Dawson, C.
 1987 *Mission to Asia*. Toronto, Buffalo and London. [first published (Cambridge, MA, 1980)].
- Denecke, D.
 1969 *Methodische Untersuchungen zur historisch-geographischen Wegforschung im Raum zwischen Solling und Harz*. Göttingen.
 1979 Methoden und Ergebnisse der historisch-geographischen und archäologischen Untersuchung und Rekonstruktion mittelalterlicher Verkehrswege. In H. Jankuhn and R. Wenskus (eds.) *Geschichtswissenschaft und Archäologie* (Vorträge und Forschungen, herausgegeben vom Konstanzer Arbeitskreis für mittelalterliche Geschichte 22), pp. 433–483. Sigmaringen.
 1986 Strasse und Weg im Mittelalter als Lebensraum und Vermittler zwischen entfernten Orten. In B. Herrmann (ed.) *Mensch und Umwelt im Mittelalter*, pp. 207–223. Stuttgart.
- Denecke, S.
 1992 Reiserouten, Routenbücher (Itinerare) im späten Mittelalter und in der Frühen Neuzeit. In X. von Ertzdorff and D. Neukirch (eds.) *Reisen und Reiseliteratur im Mittelalter und in der Frühen Neuzeit* (Chloë 13), pp. 227–253. Amsterdam and Atlanta.
- Derville, A.
 1992 La première révolution des transports continentaux (c. 1000–c. 1300). In *Les transports au Moyen Age*. Paris.
- Dilcher, G.
 1996 *Bürgerrecht und Stadtverfassung im europäischen Mittelalter*. Cologne, Weimar and Vienna.
- Dinges, M.
 1988 *Stadtarmut in Bordeaux. 1525–1675*. Bonn.
- Dinzelbacher, P. and H. Kleinschmidt
 1984 Seelenbrücke und Brückenbau im mittelalterlichen England. *Numen* 32: 242–287.

- Dirlmeier, U.
- 1981 Die kommunalpolitischen Zuständigkeiten und Leistungen süddeutscher Städte im Spätmittelalter. In J. Sydow (ed.) *Städtische Versorgung und Entsorgung im Wandel der Geschichte* (Stadt in der Geschichte 8), pp. 113–150. Sigmaringen.
 - 1987 Zu den Lebensbedingungen in der mittelalterlichen Stadt. Trinkwasserversorgung und Abfallbeseitigung. In B. Herrmann (ed.) *Mensch und Umwelt im Mittelalter* (third edition), pp. 150–159. Stuttgart. [first published (Stuttgart, 1986)].
 - 1991 Zu den materiellen Lebensbedingungen in deutschen Städten des Spätmittelalters. In R. Elze and G. Fasoli (eds.) *Stadtadel und Bürgertum in den italienischen und deutschen Städten des Spätmittelalters* (Schriften des Italienisch-Deutschen Instituts in Trient 14), pp. 59–80. Berlin.
- Durand, F.
- 2000 L'Anse aus Meadows, porte océane de l'Amérique norroise. *Proxima Thulé* 34: 9–31.
- Düwel, K., H. Jankuhn, H. Siems and D. Timpe (eds.)
- 1985 *Untersuchungen zu Handel und Verkehr der vor- und frühgeschichtlichen Zeit in Mittel- und Nordeuropa*. vol. 3 (Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften zu Göttingen, Philol.-Hist. Kl., 3. F., vol. 150). Göttingen.
- Düwel, K.
- 1986 Wege und Brücken in Skandinavien nach dem Zeugnis wikingerzeitlicher Runeninschriften. In K. Hauck (ed.) *Sprache und Recht. Festschrift für Ruth Schmidt-Wiegand*, vol. 1. pp. 88–97. Munster.
- Eberhard, Earl of Württemberg
- 1912 Order of 14 August 1466. In A. Rapp (ed.) *Urkundenbuch der Stadt Stuttgart* (Württembergische Geschichtsquellen. N. F. 13), p. 269. Stuttgart.
- Engel, E.
- 1993 *Die deutsche Stadt des Mittelalters*. Munich.
- Ennen, E.
- 1953 *Frühgeschichte der europäischen Stadt*. Bonn [third edition (1981)].
 - 1979 *Die europäische Stadt des Mittelalters*. third edition. Göttingen.
- Esch, A.
- 1998 Spätmittelalterlicher Passverkehr im Alpenraum. In A. Esch (ed.) *Alltag der Entscheidung. Beiträge zur Geschichte der Schweiz an der Wende vom Mittelalter zur Neuzeit*, pp. 173–248. Bern, Stuttgart and Vienna.
- Fahrmeir, A. K.
- 2000a *Citizens and Aliens. Foreigners and the Law in Britain and the German States. 1789–1870* (Monographs in German History 5). New York, Oxford and Providence, RI.
 - 2000b Passwesen und Staatsbildung im Deutschland des 19. Jahrhunderts, *Historische Zeitschrift* 271: 57–91.
- Fasoli, G. and F. Bocchi
- 1973 *La città medievale italiana*. Florence.
- Fichtenau, H.
- 1994 “Stadtplanung” im früheren Mittelalter. In K. Brunner *et al.* (eds.) *Ethnogenese und Überlieferung* (Veröffentlichungen des Instituts für Österreichische Geschichts-

- forschung 31), pp. 232–249. Vienna and Munich.
- Fiennes, C.
 1982 *The Illustrated Journeys of Celia Fiennes. c. 1682–c. 1712* (edited by Christopher Morris). Exeter and London.
- Filipowiak, W.
 1988 Handel und Handelsplätze an der Ostseeküste Westpommerns. *Bericht der Römisch-Germanischen Kommission* 69: 690–719.
- Finlay, R.
 1981 *Population and Metropolis. The Demography of London. 1580–1650*. Cambridge.
- Fischer, S.
 1896 *Chronik besonders von Ulmischen Sachen* [Munich, Bayerische Staatsbibliothek, Cgm 3091] (Ulm und Oberschwaben. 5–8.) (edited by Karl Gustav Veesenmeyer). Ulm.
- Fitzherbert, A.
 1538 *Loffice et auctoryte des Jystices de peas*. London.
- Fleckenstein, J. (ed.)
 1985 *Das ritterliche Turnier im Mittelalter* (Veröffentlichungen des Max-Planck-Instituts für Geschichte 86). Göttingen. [reprint (1986)].
- Förstemann, K. E. (ed.)
 1833 *Urkundenbuch zu der Geschichte des Reichstages zu Augsburg im Jahre 1530*. vol. 1. Halle [repr. (Osnabrück, 1966)].
- Frederick II, King of Prussia
 1887 Letter of 22 July 1757. *Politische Correspondenz Friedrichs des Grossen*. vol. 15, p. 261. Berlin.
 1981 Political Testament of 1768. In R. Dietrich (ed.) *Politische Testamente der Hohenzollern*, p. 301. Munich.
- Freitag, R.
 1964 Das Geleit der Reichsstadt Ulm. *Ulm und Oberschwaben* 37: 85–131.
- Fricker, B.
 1880 *Geschichte der Stadt und Bäder zu Baden*. Aarau.
- Frugoni, A.
 1999 *Il Giubileo di Bonifacio VIII* (Quadrante. 102.). Rome and Bari.
- Fulford, M.
 1989 *The Silchester Amphitheatre. Excavations of 1979–1985* (Britannia Monograph Series 10). London.
- Gachard, L. P. (ed.)
 1846 *Relations des troubles de Gand sous Charles-Quint*. Brussels.
- Gadd, D. and T. Dyson
 1981 Bridewell Palace. Excavations at 9–11 Bridewell Place and 1–3 Tudor Street, City of London, 1978. *Post-Medieval Archaeology* 15: 1–79.
- Gattinara, Mercurino Arborio di
 1915 Historia vitae. In C. Bornate (ed.) *Historia vitae et gestorum per dominum magnum Cancellarium, con note, aggiunte et documenti* (Miscellanea di storia Italiana 48).

- Gasner, E.
1889 *Zum deutschen Strassenwesen von der ältesten Zeit bis zur Mitte des XVII. Jahrhunderts. Eine germanistisch-antiquarische Studie.* Leipzig.
- Geck, E. (ed.)
1969 *Herzog Ernst-Sankt Brandans Seefahrt. Faksimiledruck nach der Originalausgabe von Anton Sarg Augsburg 1476.* Wiesbaden.
- Geisberg, M. and W. L. Strauss (eds.)
1975 *The German Single-leaf Woodcut. 1500–1550.* vol. 4. New York.
- Gelling, M.
1982 The Element *wīchām* in English Place-Names. *Medieval Archaeology* 25: 87–104 [reprinted in *Place-Name Evidence for the Anglo-Saxon Invasion and Scandinavian Settlements*, edited by Cameron, K. (Nottingham, 1975), pp. 8–26].
- Georg of Ehingen
1842 *[Itinerarium] Reisen nach der Ritterschaft* (Bibliothek des Litterarischen Vereins in Stuttgart 1), edited by Franz Pfeiffer. Stuttgart. [Newly edited by Gabriele Ehrmann. vol. 1 (Göppingen, 1979) (Göppinger Arbeiten zur Germanistik 262)]
- Gerber, H. (ed.)
1936 *Reichsgeschichtliche Quellen. 1500–1555* (Mitteilungen aus dem Frankfurter Stadtarchiv 2). Frankfurt.
- Geremek, B.
1974 Criminalité, vagabondage, pauperisme. La marginalité à l'aube des temps modernes. *Revue d'histoire moderne et contemporaine* 21: 337–375.
- Giehlow, K.
1899 Beiträge zur Entstehungsgeschichte des Gebetbuchs Kaiser Maximilians I. *Jahrbuch der Kunsthistorischen Sammlungen des Allerhöchsten Kaiserhauses* 20: 38–39.
- Giordani, G.
1842 *Della venuta e dimora in Bologna del sommo pontifico Clemente VII per la coronazione di Carlo V imperatore celebrate l'anno 1530.* Bologna.
- Glen, J. de (ed.)
1601 *Des habits, moevrs, façons de faire anciennes & modernes du monde.* Liège.
- Gömmel, R.
1987 Technischer Fortschritt im Verkehrswesen des Spätmittelalters und der frühen Neuzeit. *Hochfinanz, Wirtschaftsräume, Innovationen. Festschrift für Wolfgang von Stromer.* vol. 3. pp. 1039–1062. Trier.
- Görich, W.
1964 Hessische Altstraßen um 1600. *Jahrbuch für Hessische Landesgeschichte* 14: 328–344.
- Gould, J. D.
1979 European Inter-Continental Emigration. 1815–1914. Patterns and Causes. *Journal of European Economic History* 8: 52–86.
- Graunt, J.
1665 *Natural and Political Observations Made Upon the Bills of Mortality.* fourth edition. Oxford. [first published (London, 1662)].

- Graus, F.
 1981 Randgruppen der städtischen Gesellschaft im Spätmittelalter. *Zeitschrift für historische Forschung* 8: 385–437.
- Griffiths, P.
 1996 *Youth and Authority. Formative Experiences in England. 1560–1640*. Oxford.
- Grosjean, G.
 1953 Miliz und Kriegsgenügen als Problem im Wehrwesen des alten Bern. *Archiv des Historischen Vereins des Kantons Bern* 42: 129–171.
- Groten, M. (ed.)
 1988 *Beschlüsse des Rates der Stadt Köln. 1320–1550*. 5 June 1548. vol. 3 (Publikationen der Gesellschaft für Rheinische Geschichtskunde 65, 3), Düsseldorf.
- Groten, M.
 1995 *Köln im 13. Jahrhundert* (Städteforschung, Reihe A. vol. 36). Cologne, Weimar and Vienna.
- Haferlach, A.
 1914 Das Geleitwesen der deutschen Städte im Mittelalter. *Hansische Geschichtsblätter* 20: 1–172.
- Hansen, I. L. and C. Wickham (eds.)
 2000 *The Long Eighth Century. Production, Distribution and Demand* (The Transformation of the Roman World 11). Leiden, Boston and Cologne.
- Hårdh, B.
 1986 See- und Flusswege in Südkandinavien aus der Sicht der Archäologie. *Siedlungsforschung* 4: 45–62.
- Harms, H. and H.-J. Wohlfahrt
 1983 *Die alte Salzstrasse im Wandel der Zeit*. Neumünster.
- Harrison, D. F.
 1992 Bridges and Economic Development, 1300–1800. *Economic History Review* 45: 240–261.
 2004 *The Bridges of Medieval England. Transport and Society, 400–800*. Oxford.
- Hartung, W.
 1982 *Die Spielleute. Eine Randgruppe in der Gesellschaft des Mittelalters* (Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte, Beihefte 72). Wiesbaden.
- Hassinger, H.
 1979 Zur Verkehrsgeschichte der Alpenpässe in der vorindustriellen Zeit. *Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte* 66: 441–465.
- Henricus Cornelius Agrippa
 1535 *De duplici coronatione Caesaris apud Bononiam historiola*. Cologne.
- Hergemöller, B.-U. (ed.)
 1990 *Randgruppen der spätmittelalterlichen Gesellschaft*. Warendorf.
- Hergemöller, B.-U.
 2000 “Randgruppen” im späten Mittelalter. Konstruktion–Dekonstruktion–Rekonstruktion. In H.-W. Goetz (ed.) *Die Aktualität des Mittelalters*, pp. 165–190. Bochum.
- Herrmann, J.
 1963 Magdeburg-Lebus. Zur Geschichte einer Straße und ihrer Orte. *Veröffentlichungen des Museums für Ur- und Frühgeschichte Potsdam* 2: 89–106.

- 1966 Die slawischen Brücken aus dem 12. Jahrhundert im Ober-Ückersee. *Ausgrabungen und Funde* 11: 215–230.
- 1994/95 Frühe Seehandelsplätze am “äussersten Ende des westlichen Ozeans”. *Acta praehistorica et archaeologica* 26/27: 57–72.
- Hindle, B. P.
- 1976 The Road Network of Medieval England. *Journal of Historical Geography* 2: 207–221.
- 1982a Roads and Tracks. In Leonard Martin Cantor (ed.) *The English Medieval Landscape*, pp. 193–217. London.
- 1982b *Medieval Roads and Tracks*. London. [reprints (1989; 1998)].
- 1993 *Roads, Tracks and Their Interpretation*. London.
- 2001 *Roads and Tracks for Historians*. Chichester.
- Hitzer, H.
- 1971 *Die Straße*. Munich.
- Hobbes, T.
- 1651 *De Cive. The English Version Entitled in the First Edition Philosophicall Rudiments Concerning Government and Society*. London. [first published (Paris, 1647)] [new edition. edited by Howard Warrender (Oxford, 1983)].
- 1650 *De Corpore politico. Or the Elements of Law, Moral and Politic*. London. [newly edited by William Molesworth. *The English Works of Thomas Hobbes*. vol. 4 (London, 1840)]. [reprint (London, 1997)].
- 1651 *Leviathan*. London [Newly edited by Richard Tuck (Cambridge, 1991)].
- Hobsbawm, E. J.
- 1959 *Social Bandits and Primitive Rebels*. Cambridge.
- Hochstadt, S.
- 1999 *Mobility and Modernity. Migration in Germany, 1820–1989*. Ann Arbor.
- Hocquet, J.-C.
- 1997 Venedig, B: Wirtschaftsgeschichte. *Lexikon des Mittelalters*. vol. 8. Munich.
- Hodges, R. and B. Hopley (eds.)
- 1988 *The Rebirth of Towns in the West A. D. 700–1050* (Council for British Archaeology. Research Report 68). London.
- Hodges, R. and W. Bowden (eds.)
- 1998 *The Sixth Century. Production, Distribution and Demand* (The Transformation of the Roman World 3). Leiden, Boston and Cologne.
- Hoffmann, H. (ed.)
- 1955 *Würzburger Polizeisätze. Gebote und Ordnungen des Mittelalters*. no 363. part 5 (Veröffentlichungen der Gesellschaft für Fränkische Geschichte 10). Würzburg.
- Hölscher, U.
- 1909 Goslarsche Ratsverordnungen aus dem 15. Jahrhundert. *Zeitschrift des Harzvereins* 42: 63.
- Hondt, L. de and A. du Bois (ed.)
- 1887 *Coutume de la ville de Gand*. vol. 2. Brussels.
- Hooke, D.
- 1980 The Hinterland and Routeways of Late Saxon Worcester. *Transactions of the Worcestershire Archaeological Society* 3 (7): 39–52.

- Hottinger, S.
 1702 *Thermae Argovia-Badenses. Das ist Eigentliche Beschreibung der warmen Bäder insgesamt; des herrlichen in dem Aegöw gelegenen warmen Bads zu Baden insbesondere.* Baden.
- Howlett, J.
 1781 *An Examination of Dr. Price's Essay on the Population of England and Wales.* Maidstone.
- Hübener, W.
 1989 Die Orte des Diederhofener Capitulars von 805 in archäologischer Sicht. *Jahresberichte für mitteldeutsche Vorgeschichte* 72: 251–266.
- Hubert, J.
 1959 Les routes au Moyen Age. In G. Michaud (ed.) *Les routes de France depuis les origines jusqu'à nos jours.* pp. 25–58. Paris.
- Hürblin, J. (ed.)
 1891–1892 Der “Libellus de Caesarea monarchia” von Hermann Peter aus Andlau. *Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte.* Germanistische Abteilung 13: 34–103, 14: 163–219.
- Ibler, G.
 1961 *König Maximilian I. und der Konstanzer Reichstag von 1507.* Ph.D. Diss.
- Imberdis, F.
 1939 Les routes médiévales. *Annales d'histoire sociale* 1: 411–416.
- Isigler, F. and A. Lassotta
 1989 *Bettler und Gaukler, Dirnen und Henker.* Munich. [sixth edition (ibid., 1995)].
- Jankuhn, H., et al. (eds.)
 1975 *Vor- und Frühformen der europäischen Stadt im Mittelalter.* 2 vols (Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften in Göttingen, Philol.-Hist. Kl., 3. F., vol. 83–84). Göttingen.
- Jankuhn, H.
 1985 The Interdisciplinary Approach to the Study of the Early History of Medieval Towns. In H. B. Clarke and A. Simms (eds.) *The Comparative History of Urban Origins in Non-Roman Europe* (British Archaeological Reports. International Series 255), pp. 15–42. Oxford.
- Jankuhn, K. S. and H. Reichstein (eds.)
 1984 Archäologische und naturwissenschaftliche Untersuchungen zu ländlichen und frühstädtischen Siedlungen im deutschen Küstengebiet vom 5. Jahrhundert v. Chr. bis zum 11. Jahrhundert n. Chr., vol. 2. Handelsplätze. Weinheim.
- Janssen, J. (ed.)
 1872 *Frankfurts Reichsrespondenz nebst verwandten Aktenstücken von 1376–1519.* vol. 2. Freiburg.
- Janssen, W.
 1989 Reiten und Fahren in der Merowingerzeit. In H. Jankuhn, W. Kimmig and E. Ebel (eds.) *Untersuchungen zu Handel und Verkehr in vor- und frühgeschichtlicher Zeit* (Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften in Göttingen. Philol.-Hist. Kl., 3. F., vol. 180.), vol. 5. pp. 174–221. Göttingen.

- Janssen, W.
 1995 *Geschichte des Erzbistums Köln*. vol. 2. pt 1: Das Erzbistum Köln im späten Mittelalter (1191–1515). Cologne.
- Jaritz, G. (ed.)
 2001 *Die Strasse. Zur Funktion und Perzeption öffentlichen Raums im späten Mittelalter* (Forschungen des Instituts für Realienkunde des Mittelalters und der Frühen Neuzeit. Österreichische Akademie der Wissenschaften. Philos.-Hist. Kl. 6.). Vienna.
- Johanek, P. and F.-J. Post (eds.)
 2004 *Vielerlei Städte. Der Stadtbegriff* (Städteforschung, Reihe A. vol. 61). Cologne, Weimar and Vienna.
- Jones, J. W. (trans.)
 1857 The Travels of Niccolo Conti. In M. Richard Henry (ed.) *India in the Fifteenth Century* (Works Issued by the Hakluyt Society. 1 Ser. vol. 22.). London. [revised edition by Lincoln David Hammond, *Travelers in Disguise. Narratives of Eastern Travel by Poggio Bracciolini and Ludovico de Varthema* (Cambridge, MA., 1963)].
- Jütte, R.
 1994 *Poverty and Deviance in Early Modern Europe*. Cambridge. [German version s. t.: Arme, Bettler, Beutelschneider. Eine Sozialgeschichte der Armut (Weimar, 2000)].
- Kislinger, E.
 1997 Reisen und Verkehrswege zwischen Byzanz und dem Abendland vom neunten bis in die Mitte des elften Jahrhunderts. In E. Konstantinou (ed.) *Byzanz und das Abendland im 10. und 11. Jahrhundert*. Cologne, pp. 231–257. Weimar and Vienna.
- Klaeber, F. (ed.)
 1950 *Beowulf and the Fight at Finnsburh*. third edition. Lexington, MA.
- Kleinschmidt, H.
 1989 *Tyrocinium militare*. Stuttgart.
 1998 Überlegungen zur Entstehung von Siedlungsraumgrenzen am Beispiel des frühmittelalterlichen Sussex. In Andreas Gestrich (ed.) *Migration und Grenze* (Stuttgarter Beiträge zur Historischen Migrationsforschung 4), pp. 95–120. Stuttgart.
 2003a 「中世後期の市壁」『比較都市史研究』22: 17–31。
 2003b *People on the Move*. Westport, CT and London.
 2004 「中世ヨーロッパの都市性」関根康正編『都市的なるものの現在』pp. 93–113. 東京。
- Kluge, F.
 1901 *Rotwelsch. Quellen und Wortschatz der Gaunersprache*. vol. 1. Strasbourg. [reprint, edited by Henne, H. (Berlin, 1987)]
- Kohler, A. (ed.)
 1990 *Quellen zur Geschichte Karls V.* (Ausgewählte Quellen zur deutschen Geschichte der Neuzeit 15). Darmstadt.
- Kohler, C.
 1903/04 Documents relatifs à Guillaume Adam, Archevêque de Sultanieh, puis d'Antivari, et à son entourage (1318–1346). *Revue de l'Orient Latin* 10: 476–515.
- Köhler, M. A.
 1991 *Allianzen und Verträge zwischen fränkischen und islamischen Herrschern im Vorderen*

- Orient* (Studien zur Sprache, Geschichte und Kultur des islamischen Orients 12). Berlin and New York.
- Krapp, G. P. and E. van Kirk Dobbie (eds.)
 1936 *The Exeter Book* (Anglo-Saxon Poetic Records 3). New York and London.
- Krüger, H.
 1951 Erhard Etzlaub's Romweg Map and Its Dating in the Holy Year of 1500. *Imago Mundi* 8: 17–26.
 1958 Des Nürnberger Meisters Erhard Etzlaub älteste Straßenkarte von Deutschland. *Jahrbuch für fränkische Landesforschung* 18: 1–286. 379–407.
 1963 Hessische Altstrassen des 16. und 17. Jahrhunderts nach zeitgenössischen Itinerar- und Kartenwerken (1500–1650). Kassel.
 1963/64 Oberdeutsche Meilenscheiben des 16. und 17. Jahrhunderts als straßengeschichtliche Quellen. *Jahrbuch für fränkische Landesforschung* 23.
 1974 *Das älteste deutsche Routenhandbuch, Jörg Gails, Raissbüchlin*. Graz.
- Krusch, B. (ed.)
 1888 Monumenta Germaniae Historica. *Scriptores rerum Merovingicarum*. vol. 2. Fredegarii et aliorum chronica. Vitae sanctorum. Hanover.
- Krzyszowski, A.
 1997 Frühmittelalterliches Grab eines Kaufmanns aus Sowinski bei Poznań. *Germania* 75: 639–667.
- Kunow, J.
 1985 Zum Handel mit römischen Importen in der Germania libera. In K. Düwel, H. Jankuhn, H. Siems and D. Timpe (eds.) *Untersuchungen zu Handel und Verkehr der vor- und frühgeschichtlichen Zeit in Mittel- und Nordeuropa*. vol. 1 (Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften in Göttingen. Philol.-Hist. Kl.. 3. F.. vol. 143), pp. 430–450. Göttingen.
- Kurzmann, G.
 1985 *Maximilian I. und das Kriegswesen der österreichischen Länder und des Reiches* (Militär-geschichtliche Dissertationen österreichischer Universitäten 5). Vienna.
- Küther, C.
 1983 *Menschen auf der Straße. Vagierende Unterschichten in Bayern, Franken und Schwaben in der zweiten Hälfte des 18. Jahrhunderts* (Kritische Studien zur Geschichtswissenschaft 56). Göttingen.
 1976 *Räuber und Gauner in Deutschland. Das organisierte Bandenwesen im 18. und frühen 19. Jahrhundert* (Kritische Studien zur Geschichtswissenschaft 20). Göttingen.
- Langland, W.
 1873 *The Vision of William Concerning Piers the Plowman*. (Early English Text Society. Original Series 54), edited by Skeat, W. W. London.
- Le Goff, J. (ed.)
 1998 *Histoire de la France urbaine*. vol. 2. second edition. Paris.
- Lebecq, S.
 1983/84 *Marchands et navigateurs Frisons au haut Moyen Age*. 2 vols. Lille.

- Leciejewicz, L.
 1978 Kaufleute in den frühen Ostseestädten in archäologischer Sicht. *Zeitschrift für Archäologie* 12: 191–203.
- Leighton, A. C.
 1972 *Transport and Communication in Medieval Europe. A.D. 500–1500*. Newton Abbott.
- Lequay, J.-P.
 1981 La rue. Élément d paysage urbain et cadre de vie dans les villes du Royaume de France et des grands fiefs aux XIVe et XVe siècles. in *Le paysage urbain au moyen-âge. Actes du XIe congrès des historiens médiévistes de l'enseignement supérieur*. pp. 23–60. Lyon.
 1984 *La rue au Moyen Age*. Rennes.
- Leslie, R. F. (ed)
 1961 *Three Old English Elegies*. Manchester.
- Liebermann, F. (ed.)
 1903 *Die Gesetze der Angelsachsen*. vol. 1. Halle.
- Lindgren, U. (ed.)
 1987 *Alpenübergänge vor 1850* (Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte. Beiheft 83). Stuttgart.
- Lindquist, S.-O. and B. Radke (eds.)
 1985 *Society and Trade in the Baltic during the Viking Age*. Visby.
- Lopez, R. S.
 1956 The Evolution of Land Transport in the Middle Ages. *Past and Present* 9: 17–29 [first published in *Bollettino civico Istituto Colombiano* 1 (1954)].
- Löther, A.
 1994 Die Inszenierung der stadtbürgerlichen Ordnung. Herrschereinritte in Nürnberg im 15. und 16. Jahrhundert als öffentliches Ritual. In K. Tenfelde and H.-U. Wehler (eds.) *Wege zur Geschichte des Bürgertums* (Bürgertum 8), pp. 102–124. Göttingen.
- Luard, H. R. (ed.)
 1890 *Flores Historiarum*. vol. 2. London.
- Lucassen, L.
 1995 Het passpoort als edelste deel van een mens. *Holland* 27: 265–285.
- Ludwig, F.
 1987 *Untersuchungen über die Reise- und Marschgeschwindigkeit im 12. und 13. Jahrhundert*. Berlin.
- Mair, P. H.
 1917 Chronica, angefangen nach Christi, unnsers lieben herrn und haylandts geburt, als man zelt M.D.XLVII. *Die Chroniken der schwäbischen Städte. Augsburg*. vol. 7 (Die Chroniken der deutschen Städte 32). Leipzig.
- Mameranus, N.
 1548 *Caroli V Rom[ani] Imp[eratoris] Aug[usti] iter ex inferiore Germania ab anno 1545 usque in cometia apud Augustam Rhetian indicta anni 1547*. Augsburg. fol. B [XXX]r.
- Margery, I. D.
 1955 *Roman Roads in Britain*. London [rev. edition (1967), third edition (1973)].

- Martin, G. H.
 1975/76 Road Travel in the Middle Ages. *Journal of Transport History* N. S. 3: 159–178.
- Maschke, E.
 1977 Die Brücke im Mittelalter. *Historische Zeitschrift* 224: 265–292.
- Mayrhofer, F. (ed.)
 1993 *Stadtgeschichtsforschung* (Beiträge zur Geschichte der Städte Mitteleuropas 12). Linz.
- Meduna, P.
 1993 Medieval Roads. A Journey into the Middle Ages. *Mediaevalia Archaeologia Bohemica* 2: 108–116.
- Meier, U.
 1994 *Mensch und Bürger*. Munich.
 2000 The Iconography of Justice and Power in the Sculptures and Paintings of Town Halls in Medieval Germany. *Medieval History Journal* 3: 161–174.
- Meine, K.-H.
 1990 Offene Fragen zur Geschichte der Straßenkarten. In W. Scharfe (ed.) *4. Kartographie-historisches Kolloquium 1988*, pp. 161–168. Berlin.
- Molinet, J.
 1935 *Chroniques*, edited by Georges Doutrepoint and Omer Jodogne. Brussels.
- Möller, H.-M.
 1976 *Das Regiment der Landsknechte* (Frankfurter Historische Abhandlungen 12). Wiesbaden: Steiner.
- Montaigne, M. de
 1983 *Journal de son voyage*, edited by Fausta Garavini and Jean Borie. Paris.
- Müller, J.
 1907 Geleitwesen und Güterverkehr zwischen Nürnberg und Frankfurt am Main im 15. Jahrhundert. *Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte* 5: 173–196.
- Mylius, O. C. (ed.)
 1737 *Corpus Constitutionum Marchiarum*. Pt 3. Berlin and Halle.
- Naujoks, E. (ed.)
 1985 *Kaiser Karl V. und die Zunftverfassung. Ausgewählte Aktenstücke zu den Verfassungsänderungen in den oberdeutschen Reichsstädten (1547–1556)* (Veröffentlichungen der Kommission für geschichtliche Landeskunde in Baden-Württemberg. Reihe A. vol. 36). Stuttgart.
- Nell, M.
 1914 *Die Landsknechte* (Historische Studien 123). Berlin. [reprint (Vaduz, 1965)].
- Neste, E. van den
 1996 *Tournois, joutes, pas d'armes dans les villes de Flandre à la fin du Moyen Age*. Paris.
- Niederehe, H.-J.
 1967 *Strasse und Weg in der galloromanischen Toponymik*. Geneva and Paris.
- Niederstätter, Alois
 1993 *Ante portas. Herrscherbesuche am Bodensee, 839–1507*. Constance.
- Nielsen, P. O., K. Randsborg and H. Thrane (eds.)
 1994 *The Archaeology of Gudme and Lundeborg*. Copenhagen.

- Nithard
 1907 *Historiarum libri IIII. cap. II/8* (Monumenta Germaniae Historica. Scriptores rerum Germanicarum in usum scholarum separatim editi 44), edited by Ernst Müller, pp. 21–22. Hanover.
- Noiriel, G.
 1994 *Die Tyrannei des Nationalen*. Lüneburg. [first published (Paris, 1991)].
- O’Neill, B. H. St. John
 1943 Grim’s Bank, Padworth, Berkshire. *Antiquity* 27: 188–195.
- Oppl, F.
 2005 Das Werden der mittelalterlichen Stadt. *Historische Zeitschrift* 280: 564–580.
- Orlin, L. C.
 2000 Boundary Disputes in Early Modern London. In L. C. Orlin (ed.) *Material London ca. 1600*. Philadelphia.
- Orth, E.
 1973 *Die Fehde in der Reichsstadt Frankfurt am Main* (Frankfurter historische Abhandlungen 6). Wiesbaden.
- Padrutt, C.
 1965 *Staat und Krieg im alten Bünden* (Geist und Werk der Zeiten 11). Zurich.
- Palliser, D. M. (ed.)
 2000 *The Cambridge Urban History of Britain*. vol. 1. Cambridge.
- Pantaleon, H.
 1578 *Warhafftige und fleissige Beschreibung der uralten Stadt und Graveschafft Baden sampt ihren heulsamen warmen Wildbedern*. Basle.
- Parker, G. (ed.)
 1963 *At the Court of the Borgia. Being an Account of the Reign of Pope Alexander VI written by his Master of Ceremonies Johann Burchard*. London. [reprints (1990, 1999)].
- Pelteret, D. A.
 1984 The Roads of Anglo-Saxon England. *Wiltshire Archaeological and Natural History Magazine* 79: 155–163.
- Petersson, H. B. A.
 1969 *Anglo-Saxon Currency* (Bibliotheca historica Lundensis 22). Lund.
- Petot, J.
 1958 *Histoire de l’administration des ponts et chaussées, 1599–1815*. Paris.
- Peyer, H. C. (ed.)
 1983 *Gastfreundschaft, Taverne und Gasthaus im Mittelalter* (Schriften des Historischen Kollegs. Kolloquien 3). Munich.
- Peyer, H. C.
 1987 *Von der Gastfreundschaft zum Gasthaus* (Schriften der Monumenta Germaniae Historica 31). Hanover.
- Pitz, E.
 1991 *Europäisches Städtewesen und Bürgertum*. Darmstadt.
- Pollard, A. W. (ed.)
 1905 *The Travels of Sir John Mandeville. The Version of the Cotton Manuscript in Modern*

- Spelling*. London. [another edition (ibid., 1915)].
- Polo, M.
1938 *The Description of the World*, edited by Moule, A. C. and P. Pelliot. London.
- Pound, J.
1971 *Poverty and Vagrancy in Tudor England*. London.
- Price, R.
1780 *Essay on the Population of England from the Revolution to the Present Time*. London.
[first published in Morgan, W. *The Doctrine of Annuities and Assurances on Lives and Survivorships* (London, 1779)].
- Rappaport, S.
1989 *Worlds Within Worlds. Structures of Life in Sixteenth-Century London*. Cambridge.
- Reale, E.
1930 *Le régime des passeports et la Société des Nations*. Paris.
- Rehbein, E.
1984 *Zu Wasser und zu Lande. Geschichte des Verkehrswesens bis zum Ende des 19. Jahrhunderts*. Munich.
- Reuter, T.
1996 Die Unsicherheit auf den Straßen im europäischen Früh- und Hochmittelalter. Täter. Opfer und ihre mittelalterlichen und modernen Beobachter. In J. Fried (ed.) *Träger und Instrumentarien des Friedens im hohen und späten Mittelalter* (Vorträge und Forschungen, hrsg. vom Konstanzer Arbeitskreise für Mittelalterliche Geschichte 43), pp. 169–201. Sigmaringen.
- Reynolds, S.
1993 Stadtgeschichtsforschung in England. In F. Mayrhofer (ed.) *Stadtgeschichtsforschung* (Beiträge zur Geschichte der Städte Mitteleuropas 12), pp. 25–31. Linz.
1998 English Towns in a European Context. In J. Jarnut and Johaneck, P. (eds.) *Die Frühgeschichte der europäischen Stadt im 11. Jahrhundert* (Städteforschung, Reihe A. vol. 43), pp. 207–212. Cologne, Weimar and Vienna.
- Rheinheimer, M.
2000 *Arme, Bettler und Vaganten. Überleben in der Not. 1450–1850*. Frankfurt.
- Richer of Rheims
1937 *Histoire de France*. (Classiques de France au Moyen Age 17), edited by Robert Latrouche. vol. 2. Paris.
- Rieckenberg, H.-J.
1942 Königsstrasse und Königsgut in liudolfingischer und frühsalischer Zeit (1919–1056). *Archiv für Urkundenforschung* 17: 32–154. [reprinted separately (Darmstadt, 1965)].
- Riedenauer, E. (ed.)
1996 *Die Erschließung des Alpenraums für den Verkehr im Mittelalter und in der frühen Neuzeit* (Schriftenreihe der Arbeitsgemeinschaft Alpenländer. Berichte der Historikertagungen N.F. 7). Bolzano.
- Riley, H. T. (ed.)
1868 *Memorials of London and London Life*. London.

- Rizzi, E. (ed.)
 1987 *Beiträge zur alpinen Passgeschichte* (Akten der internationalen Tagung zur Walsersforschung 4). Chur.
- Roberts IV, William I.
 1982 *Romano-Saxon Pottery* (British Archaeological Reports. British Series 106). Oxford.
- Roeck, B.
 1993 *Außenseiter, Randgruppen, Minderheiten*. Göttingen.
- Rom, Elisabeth
 1970 *Maximilian I. und die Reichstage von 1500 bis 1510*. Ph.D. Diss. typescript. University of Graz.
- Romano, G. (ed.)
 1892 *Cronaca del soggiorno di Carlo V in Italia dal 26 giugno 1529 al 25 aprile 1530*. Milan.
- Rubinstein, N.
 1997 Le allegorie di Ambrogio Lorenzetti nella sala della pace e il pensiero politico del suo tempo. *Rivista storica Italiana* 109: 781–803.
- Rübel, K.
 1896 Kriegs- und Werbewesen in Dortmund in der ersten Hälfte des 18. Jahrhunderts. *Beiträge zur Geschichte Dortmunds und der Grafschaft Mark* 7: 106–159.
- Rumpel, R.
 1983 Der Krieg als Lebensmoment in der alten spätmittelalterlichen Eidgenossenschaft. *Schweizerische Zeitschrift für Geschichte* 33: 192–206.
- Salmen, W.
 1960 *Der fahrende Musiker im europäischen Mittelalter* (Die Musik im alten und neuen Europa 4). Kassel.
- Schaab, M.
 1958 Strassen und Geleitswesen zwischen Rhein, Neckar und Schwarzwald im Mittelalter und in der frühen Neuzeit. *Jahrbücher für Statistik und Landeskunde von Baden-Württemberg* 4: 54–75.
- Schaer, A.
 1901 *Die altdeutschen Fechter und Spielleute*. Strasbourg.
- Schäfer, H. P.
 1977 Überlegungen zur Altstraßenforschung. *Mitteilungen des Oberrheinischen Geschichtsvereins* N. F. 62: 63–97.
- Schauelberger, W.
 1966 *Der alte Schweizer und sein Krieg*. Zurich.
- Schenk, G. J.
 2000 Sehen und gesehen werden. Der Einzug König Sigismunds zum Konstanzer Konzil 1414. In F. Mauelshagen and B. Mauer (eds.) *Medien und Weltbilder im Wandel der Frühen Neuzeit* (Documenta Augustana 4), pp. 71–106. Augsburg.
 2003 *Zeremoniell und Politik. Beiträge zur Erforschung von Herrschereinzügen im spätmittelalterlichen Reich* (Forschungen zur Kaiser- und Papstgeschichte des Mittelalters 21). Cologne, Weimar and Vienna.

- Schlafert, T.
 1929 Problèmes d'histoire routière. Les routes du Dauphiné et de la Provence sous l'influence du séjour des papes à Avignon. *Annales de géographie* 1: 183–192.
- Schlesinger, W.
 1976 Über mitteleuropäische Städtelandschaften der Frühzeit. In C. Haase (ed.) *Die Stadt des Mittelalters* 1: 246–251. Darmstadt.
- Schmid, W.
 1988 Kunst und Migration. Wanderungen Kölner Maler im 15. und 16. Jahrhundert. In G. Jaritz and A. Müller (eds.) *Migration in der Feudalgesellschaft*, pp. 315–350. Frankfurt and New York.
- Schmidt, H. R.
 1994 Pazifizierung des Dorfes. Struktur und Wandel von Nachbarschaftskonflikten vor Berner Sittengerichten, 1570–1800. In H. Schilling (ed.) *Kirchenzucht und Sozialdisziplinierung im frühneuzeitlichen Europa* (Zeitschrift für historische Forschung. Beiheft 16), pp. 91–128. Berlin.
- Schmidt, L. (ed.)
 1909 *Die Renaissance in Briefen von Dichtern, Künstlern, Staatsmännern, Gelehrten und Frauen*. vol. 1. Leipzig.
- Schmitt, E. (ed.)
 1987 *Leben im 18. Jahrhundert*. Constance.
- Schneider, H. C.
 1982 *Altstraßenforschung*. Darmstadt.
- Schoenberger, G.
 1922 *Das Geleitwesen der Reichsstadt Frankfurt am Main im 14. und 15. Jahrhundert*. Freiburg.
- Schramm, G.
 1983 *Fernhandel und frühe Reichsbildung am Ostrand Europas. in Staat und Gesellschaft in Mittelalter und früher Neuzeit. Gedenkschrift für Joachim Leuschner*. Göttingen.
- Schreiner, K. and U. Meier (eds.)
 1994 *Stadtregiment und Bürgerfreiheit* (Bürgertum 7). Göttingen.
- Schubert, E.
 1995 *Fahrendes Volk im Mittelalter*. Bielefeld.
 2002 *Alltag im Mittelalter. Natürliches Lebensumfeld und menschliches Miteinander*. Darmstadt.
- Schwarz, K.
 1989 *Archäologisch-topographische Studien zur Geschichte frühmittelalterlicher Fernwege und Ackerfluren im Alpenvorland zwischen Isar, Inn und Chiemsee* (Materialien zur bayerischen Vorgeschichte. Reihe A. vol. 45). Kallmünz.
- Sharpe, R. R. (ed.)
 1899 *Calender of Letter-Books preserved among the Archives of the Corporation of the City of London. Letter-Book A*. London.
- Skinner, Q.
 1980 Ambrogio Lorenzetti. The Artist as Political Philosopher. *Proceedings of the British*

- Academy* 72: 3–56. [abridged version in Belting, H. and D. Blume (eds.) *Malerei und Stadtkultur in der Dantezeit. Die Argumentation der Bilder* (Munich, 1989), pp. 85–103].
- Sikora, M.
Disziplin und Desertion (Historische Forschungen 57). Berlin.
- Simon, A.
 1985 *Bibliographie zur Verkehrsgeschichte Deutschlands im Mittelalter. Das mittelalterliche Strassen- und Wegenetz*. second edition. Trier.
- Sollbach, G. E. (ed.)
 1987 *Sankt Brandans wundersame Seefahrt. Nach der Heidelberger Handschrift Cod. Pal. Germ. 60*. Frankfurt.
- Spiess, P. E.
 1788 *Geschichte des kaiserlichen neunjährigen Bundes vom Jahr 1535 bis 44 als eine neue Erscheinung in der Teutschen Reichsgeschichte, aus den Originalakten dargestellt*. Erlangen.
- Sprandel, R. (ed.)
 1982 *Quellen zur Hansegeschichte* (Ausgewählte Quellen zur Geschichte des Mittelalters 36). Darmstadt.
- Sprandel, R.
 1964 Die Ausbreitung des deutschen Handwerks im mittelalterlichen Frankreich. *Vierteljahrschrift für Sozial- und Wirtschaftsgeschichte* 51: 66–100.
- Stein, W. (ed.)
 1895 *Akten zur Geschichte der Verfassung und Verwaltung der Stadt Köln im 14. und 15. Jahrhundert*. vol. 2 (Publikationen der Gesellschaft für Rheinische Geschichtskunde 10). Bonn.
- Stenton, F. M.
 1936/37 The Road System of Medieval England. *Economic History Review* 7: 7–21 [reprinted in Stenton. *Preparatory to Anglo-Saxon England*, edited by Stenton, D. M. (Oxford, 1970), pp. 234–251].
- Steuer, H. et al. [Art.]
 1999 Handel. In H. Beck, D. Geuenich, H. Steuer and D. Timpe (eds.) *Reallexikon der Germanischen Altertumskunde*. second edition, vol. 13. pp. 497–593. Berlin and New York.
- Steuer, H.
 1990 Die Handelsstätten des frühen Mittelalters im Nord- und Ostsee-Raum. *La genèse et les premiers siècles des villes médiévales dans les Pays-Bas méridionaux. 14e colloque international Spa 1988*, pp. 75–116. Bruxelles.
- Stickler, A.
 1977 *Il Giubileo di Bonifacio VIII*.
- Süßmilch, J. P.
 1765 *Die göttliche Ordnung in den Veränderungen des menschlichen Geschlechts aus der Geburt, dem Tode und der Fortpflanzung desselben erwiesen*. §52. third edition. Berlin. [first published (Berlin, 1741); reprint of the third edition. edited by Cromm, J. (Göttingen, 1988)].

- Szabó, T.
 1992 *Comuni e politica stradale in Toscana e in Italia nel medioevo*. Bologna.
 1998 *Der Übergang von der Antike zum Mittelalter am Beispiel des Strassennetzes*. In U. Lindgren (ed.) *Europäische Technik im Mittelalter*. Berlin. S. 25–43 [first published (Berlin, 1996)].
- Tafur, P.
 1874 *Andanças é viajes por diversas partes del mundo avidos (1435–1439)* (Colección de libros españoles raros ó curiosas 8), edited by de Espada, M. J. Madrid. [English version. edited by Malcolm Letts (London, 1926)]
- Tawney, R. H. and E. Power (eds.)
 1924 *Commerce, Finance and the Poor Law* (Tudor Economic Documents 2—University of London Historical Series 4). London.
- Tipton, S.
 1996 *Res pvblica bene ordinata. Regentenspiegel und Bilder vom guten Regiment. Rathausdekorationen in der Frühen Neuzeit* (Studien zur Kunstgeschichte 104). Hildesheim.
- Tröscher, G.
 1953 *Kunst und Künstlerwanderungen in Mitteleuropa. 800–1800*. 2 vols. Baden-Baden.
- Ulrich, T. L. (ed.)
 1791 *Juristisches Magazin für die deutschen Reichsstädte*. vol. 2. Ulm.
- van Es, W. A. and W. A. M. Hessing (eds.)
 1994 *Romeinen, Friezen en Franken in het hart van Nederlande. Van Traiectum tot Dorestad. 50 v. C.–900 n. C.* Utrecht.
- van Papendrecht, C. H. (ed.)
 1743 *Discourse des troubles advenuz en la ville de Gand*. The Hague.
- van Werveke, H.
 1965 “Burgus”. *Verterking of nederzetting?* (Verhandelingen van de Koninklijke Vlaamse Academie voor Wetenschappen, Letteren en Schone Kunsten van België, Klasse der Letteren. 27/59) Brssels.
- Vecellio, C.
 1950 *De gli habiti antichi et moderni di diversi arti del mondo*. Venice. [reprint (Bologna, 1982)].
- Verhulst, A.
 1992 *Rural and Urban Aspects of Early Medieval North-West Europe*. Aldershot.
 1999 *The Rise of Cities in North-West Europe* (Themes in International Urban History 4). Cambridge.
- Vexliard, A.
 1956 *Introduction à la sociologie du vagabondage*. Paris.
- Villefosse, R. H. de
 1975 *Histoire des grandes routes de France*. Paris.
- von der Rapp, G. F. (ed.)
 1907 *Göttinger Statuten*. (Quellen und Darstellungen zur Geschichte Niedersachsens 25). Hanover.

- von Falke, J.
- 1861 Straße und Straßenleben im Mittelalter. *Westermanns Jahrbuch der Illustrierten Deutschen Monatshefte* 10: 279–295, 397–416.
- 1971 Die Straße im Mittelalter. In J. von Falke (ed.) *Geschichte des Geschmacks im Mittelalter und andere Studien auf dem Gebiete von Kunst und Kultur*, pp. 123–143. Niederwalluf. [reprint of the second edition (Berlin, 1892)].
- von Justi, J. H. G.
- 1761 *Die Grundfeste zu der Macht und Glückseligkeit der Staaten*. Königsberg and Leipzig. [reprint (Kronberg, 1969)].
- 1782 *Grundsätze der Policeywissenschaft*. third edition. Göttingen. [reprint (Frankfurt, 1969)].
- von Rozmital, L.
- 1844 *Des Böhmischen Herrn Leo's von Rozmital Ritter-, Hof- und Pilgerreise durch die Abendlande* (Bibliothek des Litterarischen Vereins 7), edited by Johann Andreas Schmeller. Stuttgart.
- Waas, A.
- 1964 *Die Bauern im Kampf um Gerechtigkeit*. Frankfurt, Vienna and Zurich.
- Wackernagel, H. G.
- 1956 *Altes Volkstum der Schweiz* (Schriften der Schweizerischen Gesellschaft für Volkskunde 38). Basle.
- Wales, W.
- 1781 *An Inquiry into the Present State of Population in England and Wales*. London.
- Walker, M.
- 1964 *Germany and the Emigration, 1816–1885*. Cambridge, MA.
- Wehberg, H.
- 1915 *Das Paßwesen*. Mönchengladbach.
- Weigel, H. (ed.)
- 1577 *Habitvs praecipvorvm popvlorvm tam virorvm quam foeminarvm singlaruis arte depicti. Trachtenbuch. Darin fast allerley vnd der furnehmsten Nationen/die heutigen tags bekandt sein/Kleidungen/beyde wie es bey Manns vnd Weibspersonen gebreuchlich/ mit allem vleiss abgerissen sein*. Nuremberg. [reprint (Zwickau, 1913) (Zwickauer Facsimiledrucke 17)]
- Weiland, L. (ed.)
- 1893 *Constitutiones et acta publica imperatorum et regum* (Monumenta Germaniae Historica). Hanover.
- Whitehill, W. M. (ed.)
- 1944 *Liber Sancti Jacobi. Codex Calixtinus*. 3 vols. Santiago de Compostela. [Newly edited in one volume by Herbers, K. and M. S. Noia (Santiago de Compostela, 1999)].
- Wiederkehr, G. R.
- 1976 *Das freie Geleit und seine Erscheinungsformen in der Eidgenossenschaft des Spätmittelalters* (Rechtshistorische Arbeiten 16). Zürich.
- Wiesflecker, H.
- 1975 *Kaiser Maximilian I.* vol. 2. Munich.
- 1977 *Kaiser Maximilian I.* vol. 3. Munich.

Willroth, K.-H.

- 1986 Landwege auf der cimbrischen Halbinsel aus der Sicht der Archäologie. *Siedlungsforschung* 4: 9–44.

Wolf, N. R.

- 1992 Reisen im Mittelalter? Anmerkungen zum mittelalterlichen Reisewortschatz II. In H. Burger, A. M. Haas and P. von Matt (eds.) *Verborum amor. Studien zur Geschichte und Kunst der deutschen Sprache. Festschrift für Stefan Sonderegger zum 65. Geburtstag*, pp. 263–272. Berlin and New York.

Worde, W. de

- 1901 *Nova Legenda* (edited by Carl Horstmann) vol. 2. Oxford.

Young, A.

- 1808 *General Report on Enclosures*. London.

Zehnder, L.

- 1976 *Volkskundliches in der älteren schweizerischen Chronistik* (Schriften der Schweizerischen Gesellschaft für Volkskunde 60). Basle.

